

No	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 1398-1405	A型肝炎ウイルス(HAV)感染患者の血液および糞便中へのウイルス排泄期間および排泄量と、アラニンアミトランスフェラーゼ(ALT)、疾患重症度、HAV遺伝子型との関連を調べた。27例の急性HAV患者でHAVは発症後81日間(中央値)便中に排泄され、半数で36日目でも多量なウイルスの排泄が続いた。ウイルス血症は検出されたが、定量できなかった(中央値42日間)。疾患発症後10日間は、ALT値が高いほど血中ウイルス量が高かった。遺伝子型1aと1bの患者で、HAV排泄および黄疸の期間に有意差はなかった。
2	A型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 356-365	1997-2005年に、デンマーク、ドイツ、オランダ、ノルウェー、スペイン、スウェーデンおよび英国で、男性同性愛者にA型肝炎が大流行した。このA型肝炎アウトブレイクに関連する株の遺伝子学的関連性を調べたところ、これらの国の男性同性愛者から得られた株の大部分はMSM1と名づけられた遺伝子型IAに属する近縁のクラスターを形成していた。同期間に他のリスク群では異なったHAV株が流行していたことから、特異的な株がヨーロッパの男性同性愛者間では流行していたことを示す。
3	A型肝炎	第55回日本ウイルス学会学術集会 2P213	遺伝子型の異なる複数のHAV細胞馴化株における加熱や加圧による不活化効果を検討した。25%アルブミン存在下60°C10時間加熱処理または室温下300～420MPaの1分間加圧3サイクルに対し、HAV細胞馴化株間で不活化効果に差が見られた。Validation試験に使用する株として、加熱や加圧で不活化されにくく細胞で良く増殖するKRM238が適切と考えられた。血液製剤の製造工程に新規不活化法を導入する場合にはValidation試験に使用する株を適切に選定する必要がある。
4	B型肝炎	EMA/CHMP/BWP/2 98390/2005 2006年9月21日	EMAによる、血漿プール中のB型肝炎ウイルス表面抗原(HBsAg)検出のためのイムノアッセイの確認に関するガイドライン。市販キットを使用する際の注意事項、血漿プール試験のためのSOPなどについて述べられている。
5	B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1162-1171	日本赤十字のスクリーニングシステムでHBsAg及び抗B型肝炎コア抗原抗体が陰性であったHBV DNA陽性供血者26名において急性HBV感染におけるウイルスマーカーの動態を調べた。検出可能期間の中央値は、HBV DNAが個別NATで74日、MP NATで50日、HBsAgが42日であった。26名中6名は変異型ウイルスに感染し、うち3名ではHBsAgが検出できなかった。HBV NATは、MPで行ったとしても、HBsAg検査よりも効果的で、HBsAgウインドウ期前後の感染供血者を排除することができる。
6	B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1197-1205	日本赤十字血液センターに保管されている1997-2004年の反復供血者の全供血者の過渡調査を行い、ID-NATのみHBV陽性である血液由来の血液製剤の輸血によるHBV伝播リスクを検討した。HBV ID-NATを実施したHBV転換供血者の保管血液15,721本中158検体(1.01%)が陽性であった。スクリーニングをすり抜けたHBc抗体価の低いオカルトHBVキャリア由来の血液製剤を原因とするHBV感染リスクは、HBsAg発現前やMP-NATウインドウ期の供血による伝播リスクよりも10倍以上低い。
7	B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月3-5日	平成19年3月、輸血によるHBV感染が疑われるとの報告が千葉県赤十字血液センターにあった。因果関係の確認のために実施した当該輸血用血液製剤に係る保管検体個別NATは陰性であり、献血者追跡調査を行った。1名の献血者が平成19年1月にB型肝炎を発症したとの情報が得られ、調べたところ、献血者のHBV-DNAは患者のそれと塩基配列が一致した。20プールNAT陰性、HBV保管検体個別NAT陰性であったが、献血者追跡調査により輸血用血液製剤からのHBV感染が示唆された症例であった。
8	B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月3-5日 一般演題51	2004年8月よりNATスクリーニングのプールサイズを50から20に縮小した。大阪府赤十字血液センターで検出されたHBV-NAT陽性事例81人を基にプールサイズ縮小の効果等について解析を行った。プールサイズ縮小後に100コピー未満/mLのHBV-NAT陽性者の比率が高くなっていることから、縮小による効果があると思われる。追跡調査、過渡調査及び医師の面談等による総合的な解析によりHBV低濃度キャリアが疑われる献血者がプールサイズ縮小後に多く検出されていることが推察された。
9	B型肝炎、C型肝炎、HIV感染	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月3-5日 シンポジウム4-2	日本赤十字社血液事業本部が関わる安全対策の取り組みと感染症リスクについて報告する。平成16年から18年までの3年間に全国の医療機関から日赤血液センターに報告された輸血関連感染症(疑い症例を含む)の報告数は749例であった。日赤の安全対策の実施によりHBV、HCV及びHIVの感染リスクは減少し、安全性は高くなった。しかし、HCV及びHIVも含め過渡調査の実施により確認された感染症例も少なくない。感染拡大を防止するための安全対策を引き続き講じていく必要がある。
10	C型肝炎	American Society for the Study of Liver Diseases 2007年11月2-6日	慢性HCV感染者1930名(感染群)とHCV陰性患者1941名(対照群)とを比較し、リスク因子を検討した。静注薬物使用、1992年以前の輸血および2つ以上の入れ墨は感染群の方が対照群より有意に高かった。入れ墨はHCV感染リスク要因のない患者群においてもHCV感染と強く関連していた。

No	感染症(PT)	出典	概要
11	C型肝炎	Clin Vaccine Immunol published online doi:10.1128	抗HCV抗体陰性で、肝組織中のHCV RNA検出により潜在性HCV感染と診断された110例の患者由来の血清中のGOR抗体反応性を調べた。抗GOR IgG陽性患者は22例(20%)で、慢性C型肝炎患者での陽性率(70/110、63.6%)に比べ有意に低かった。HCVに無関係の肝疾患患者120例では抗GOR IgGは全く検出されなかった。市販の検査でHCV特異抗体を検出できず、血清中HCV RNAが検出できない患者で抗GOR IgG検査を行う事は、肝生検なしで潜在性HCV感染を同定する手助けとなりうる。
12	C型肝炎	FDA/CBER 2007年8月 Guidance for Industry	HCV Lookback規則における要求に一致しているFDAの業界向けガイダンスである。血漿および白血球を含む、全血および血液成分を対象としている。HCV感染を示すドナー検査結果に基づいた、製品の隔離、販売受託者への通知、追加検査、製品の処分、およびレシピエントへの通知等について記載されている。
13	C型肝炎	HPS Weekly Report 2007; 41(23): 189-190	イングランドおよびスコットランドの全域の病院におけるC型肝炎患者の症例記録のレビューが実施された。このレビューは、C型肝炎に感染した2人の医療従事者(HCWs)から患者へのC型肝炎伝播が明らかとなったことに端を発する。2005年に実施された2件の再調査は、このようなC型患者5症例を特定した。これらの患者は当該HCWsによって最も侵襲性の高い処置を受けていた。UKAPの勧告を受け、NHSトラストは他の全ての侵襲性のある処置を受けていた患者に通知を行っている。
14	C型肝炎	HPS Weekly Report 2007; 41(31): 258-265	2007年3月31日までのスコットランドにおけるC型肝炎抗体陽性症例のサーベイランスの結果である。2007年1-3月には新規症例385例が診断された。2007年3月31日までの総計は22456例であり、スコットランド人の260人につき約1名がC型肝炎抗体陽性と診断された。全症例の2%(358例)が血液因子の投与に関連していた。
15	C型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 261-267	2003年4-10月にイタリアの血液透析施設で患者4名にHCV抗体セロコンバージョンが認められた。この4名と以前からHCV抗体陽性であった10名のHCV RNAおよびHCV遺伝子型を検査し、系統遺伝学的解析をした結果、新規感染患者4名のHCVは遺伝子型2cで、2c型慢性感染患者1名から分離されたウイルスと近縁であった。感染制御手段の不備と装置による伝播が疑われた。
16	C型肝炎	J Pediatr 2007; 150: 168-174	60例のHCV感染小児について臨床的、組織病理学的特徴を調べた。感染時の平均年齢は7.1ヶ月であり、感染期間は平均13.4年であった。感染源は輸血(68%)、周産期伝播(13%)およびその両方(7%)で、大部分の症例は無症候性であった。ALTの平均が正常の3倍以上の割合は13%であった。肝生検標本では、71%に極少または軽度の炎症が見られ、12%に線維架橋が見られた。感染時年齢と血清γGTPは、線維症と相関を示した。合併症がない場合には血清ALTは炎症と相関していた。
17	C型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1534-1539	2002年8月28日から2005年2月28日の間にカナダBritish Columbiaのカナダ血液サービス(CBS)に報告された輸血伝播性C型肝炎(TT-HCV)疑い症例について、2002年8月以降実施された公衆衛生局(PH)への届出による影響、ならびにCBSIによるHCV遡及(LB)及び追跡(TB)調査の有効性を検討した。LB及びTB調査により多数のHCV感染患者が同定されたが、PHへの届出はほとんど効果がなく、LBまたはTB調査開始の遅延を招いた。
18	C型肝炎	Vox Sanguinis 2007; 92: 297-301	反復ドナーがHCV陽性を示したため、過去の供血血液を調査したところ、同ドナーの濃縮赤血球を輸血されたレシピエントにおいてHCVが検出された。分子学的解析により輸血によるHCV感染と確定された。ドイツでNATスクリーニング導入後の濃縮赤血球による初めてのHCV感染例である。HCVの感染伝播は個別献血血液検体のNATを実施しても発生する可能性がある。
19	C型肝炎	共同通信 2007年11月14日	C型肝炎ウイルスの混入した輸血用血液が日赤の検査をすり抜けて提供され、輸血を受けた50歳代女性が感染したと思われる事例が、2007年11月14日、厚生労働省の血液事業部会運営委員会で報告された。厚生労働省によると、NATが導入された1999年以降、HCVの検査すり抜けはほぼなくなったが、完全にゼロにすることは困難という。2003、05、06年にも1例ずつ、すり抜けが報告されている。
20	C型肝炎、HIV感染	BMC Public Health 2007; 7: 7	イングランドおよびウェールズ(E&W)における現行の国家サーベイランスシステムによりHIV感染MSM(男性と性交する男性)間のC型肝炎の性的伝播をモニターすることが可能であるかを検討した。1996-2003年の間に38,027例のC型肝炎診断が報告されたが、HIV感染とマッチングした結果、重感染と診断されたMSM数は31例のみであり、推定数680例より少なかった。E&WでHIV感染MSM間の性的伝播C型肝炎をモニターするためには、より強化されたサーベイランスが必要である。
21	C型肝炎、HIV感染	J Infect Dis 2007; 196: 230-238	1984-2003年のアムステルダムコホート研究に参加した男性同性愛者(MSM)1836名をHCV抗体についてスクリーニングしたところ、HIV陽性MSMにおけるHCV発生率は0.18/100人年であったが、HIV陰性MSMでは0/100人年であった。2000年以降、HIV陽性男性間のHCV発生率は10倍の0.87/100人年に増加した。ハイリスクな性行動を行うHIV陽性MSMは性的に獲得されるHCVのリスクであることを示唆している。

No	感染症(PT)	出典	概要
22	C型肝炎、HIV感染	共同通信、The New York Times 2007年11月13日	米国シカゴで、2007年1月に臓器移植を受けた患者がエイズウイルスとC型肝炎ウイルスに感染したことが判った。感染した4人は1人のドナーからの臓器提供を受けていた。感染してから検査で判別できない約3週間の「空白期間」に移植が行われたとみられる。臓器移植でエイズウイルスに感染した例は22年ぶりである。
23	E型肝炎	Arch Virol 2007; 152: 1623-1635	日本においてHEVの不顕性感染が増加しているかを調べるため、1991-2006年の献血者のうちHEV感染の可能性のあるALT 61IU/L以上の4019名から得られた血清検体中の抗HEV IgG、抗HEV IgMおよびHEV RNAを調べたところ、2004-2006年の献血者のHEV陽性率は1998年のそれと同等であった。またALT 201IU/L以上の献血者についても1991-1995年、1996-1999年および2004-2006年でHEV陽性率の差は見られなかった。
24	E型肝炎	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1682-1688	中国南部の人々のHEV感染について調べたところ、家の近くでブタを飼っている8つの共同体で得られたHEV分離株24中23はジェノタイプ4株であった。IgG抗HEV血清有病率は、60歳以下では1歳毎に約1%ずつ増加した。30歳以上では血清有病率は女性より男性で高率に増加した。全体の血清有病率は43%であった。感染率は25-29歳が高かった。HEV感染は中国南部では少なくとも60年間、風土病であり、ブタがヒトHEV感染の主な宿主であることが示唆された。
25	E型肝炎	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1094-1096	フランスの41歳女性が1ヶ月程、疲労感が続いたため、血液検査をしたところ、肝酵素値の著しい上昇を示し、HEV抗体、HEV特異的IgMおよびHEV RNAが検出され、E型肝炎と診断された。症状の出る8週間前に患者はフランス生まれのベトナムブタを飼いはじめ、そのブタの血清から、HEV RNAが検出された。ブタのHEVは患者と同じ遺伝子型3で、ヌクレオチドで92%、アミノ酸で98%の相同性を有した。
26	E型肝炎	Infect Genet Evol 2007; 7: 368-373	エジプトCairoの労働馬をHEV暴露およびウイルス血症のエビデンスのため調査した。200頭からの血清検体中13%がIgG抗HEV抗体陽性であった。N-PCRにより100検体中4%でウイルス遺伝子が検出され、ウイルス血症のウマは1歳未満で、PCR陰性のウマに比べAST値の有意な上昇を示した。系統遺伝学的分析の結果、ウマ由来のウイルス株のHEV遺伝子は、エジプトでの2つのヒトHEV分離株と97-100%のヌクレオチド相同性があり、密接な関係を示した。
27	E型肝炎	J Gen Virol 2007; 88: 912-917	米国の地方の食料品店で売られている市販のブタレバー中にHEVが存在するかを調べるため、ブタレバー127パックを購入し、4つのHEVジェノタイプ全てを検出できるRT-PCRアッセイによって調べた。127検体中14例がHEV RNA陽性で、全てジェノタイプ3であった。PCR陽性のブタレバーホモジェネート3例をブタに接種したところ、3例中2例が感染した。市販のブタレバーには感染性のあるHEVウイルスを含有しているものがあることが明らかとなった。
28	E型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 734-742	日本におけるアラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)高値供血者の無症候性E型肝炎感染の現況を調べた。日本赤十字血液センターでALT高値(61-476 IU/L)の献血者6700名の血清検体を検査したところ、479名(7.1%)の供血者が抗HEV IgG陽性であった。ALT \geq 201 IU/L群はHEV RNA有病率が有意に高かった。ウイルス血症を発症した供血者9名から得られたHEV分離ウイルスは遺伝子型3に分類された。ALT \geq 201 IU/Lの日本人の約3%はHEV株の無症候性感染を有することが示された。
29	E型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 283-288	英国サウスハンプシャーの単一施設において2005年6月から13ヶ月間にE型肝炎13例が発生した。これらの患者はルーチンのE型肝炎血清検査を導入開始後に特定された。同一期間中A型肝炎は2例、B型肝炎は4例であったことから、原因不明の急性肝疾患を発症し、関連する渡航歴のない患者全員にルーチンのE型肝炎検査を実施することが重要と考えられる。
30	E型肝炎	J Virol Methods 2007; 143: 112-116	オランダのブタにおけるHEV感染率を調べるため、97の養豚場で糞中のHEVの存在を検査した。HEV感染率は2005年では55%(53/97)で、1999年の22%(25/115)に比べ有意に増加した。しかし、2005年の検体を、1999年の測定と同様に希釈せず、内部標準なしで測定すると30%の感染率となり、有意差はなかった。糞中にはRNA PCR阻害物質が含まれるため、未希釈の検体では検出率が33%であったのに対し、10倍希釈した検体では55%であった。
31	E型肝炎	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P203	2005年1月-2006年4月に北海道で献血者のHEV-RNAスクリーニングを行った。388,119名のうち、男性33名(1/7,120)、女性22名(1/8,962)がHEV-RNA陽性で、genotype 3が優勢であった。55名中40名は献血時のHEV抗体陰性であり、後に陽性となった。HEV陽性者にはALT値が上昇した人もいたが自覚症状はなかった。HEV-RNAは献血後、最長37日間検出された。HEV陽性献血者由来の輸血を受けた患者7名のうち、少なくとも2名が感染した。
32	E型肝炎	肝臓 2007; 48(Suppl.1): O-178	発症前からのウイルス血症の推移、肝炎発症から沈静化までの経過を観察しえた輸血後E型肝炎2例の症例報告である。1例は輸血21日目にHEV RNA (genotype 4)が検出され、44日目にピーク値を、もう1例は輸血後3日目にHEV RNA (genotype 3)が同定され、54日目にピーク値を示した。HEVウイルス血症は潜伏期間を経て発現し、対数増殖後約50日前後にピークを示し、その直後にAST、ALT上昇と血中抗HEV抗体の出現を順に認めた。

No	感染症(PT)	出典	概要
33	E型肝炎	第55回日本ウイルス学会学術集会 2P207	HEVに感染したブタ糞便より精製した4種のHEVは、ウイルス除去膜PLANOVA15Nおよび20Nで全て検出限界以下にまで除去された。液状加熱実験では、PBS組成では加熱開始後短時間で全て検出限界以下となったが、アルブミン存在下では4株とも加熱開始後5時間目でも検出された。HEVは熱に弱いと考えられていたが、条件によって不活化効果が異なることから、血液製剤や加工食品において慎重に不活化効果を検討しなければならない。
34	E型肝炎	徳島新聞 2006年10月26日	北海道東部に住む50-70代の男女4人がE型肝炎ウイルスに感染し、発症した。同一飲食店や自宅です分に加熱していない豚の内臓を食べたためと考えられる。4人の血液から検出されたHEVは塩基配列が一致した。厚生労働省や北海道はこの件を公表せず、養豚場の検査もしていなかった。
35	G型肝炎	Epidemiol Mikrobiol Immunol 2006; 55: 136-139	チェコ共和国における静注免疫グロブリン(IVIG)投与患者の血清中におけるHGV陽性率を調査し、HGV陽性に関係したリスクを検討した。IVIG投与患者86例の内20例(23%)が、HGV RNA陽性であった。その内3例には肝機能検査値の緩やかな上昇が認められ、また1例は慢性リンパ性白血病であったが、IVIG投与前に診断されていた。IVIG投与患者のHGV感染率は高いが、肝疾患又はリンパ増殖のいずれの兆候とも関連していないと結論付けられる。
36	HIV	asahi.com 健康 2006年9月4日	日本人で初めてHIV2型の感染者が確認された。この男性は過去に西アフリカで輸血を受けたことがあり、このときの輸血が感染源とみられている。厚生労働省は1型だけでなく、2型についても検査体制を徹底するよう通知した。
37	HIV	BBC NEWS online 2007年6月27日	カザフスタンShymkentの病院で治療を受けた後、少なくとも119例の小児および新生児がHIVウイルスに感染し、これまでに10例が死亡した。HIVアウトブレイクは昨年見つかри、症例数は増加を続けている。腐敗や医療過誤がアウトブレイクを引き起こしたとして、被告である21名の医療関係者は全員有罪となった。
38	HIV	Clin Infect Dis 2007; 45: e68-e71	ボツワナで急性HIV-1感染スクリーニング中に特定された抗体陰性のHIV-1サブタイプC感染の初の症例を報告する。HIV-1抗体検査の結果は、迅速検査、通常の酵素免疫測定法及びウエスタンブロットで全て陰性であった。遺伝子組換えがないHIV-1サブタイプC感染は、ウイルスのgag, pol及びenv遺伝子のジェノタイプングによって確定された。臨床的に安定した状態からAIDS関連死までの期間は約3ヵ月だった。サブタイプCが優勢なアフリカ南部における血清学検査陰性HIV-1感染の調査の重要性が示された。
39	HIV	EMEA/CHMP/BWP/298388/05 2006年9月21日	EMEAによる、血漿プール中の抗HIV抗体検出のためのイムノアッセイの確認に関するガイドライン。市販キットを使用する際の注意事項、血漿プール試験のためのSOPなどが述べられている。
40	HIV	Eurosurveillance 2007; 12(5): E070524.5 2007年5月24日	AIDS最新号において、LikataviciusらはEuroHIV surveillance network によるヨーロッパの供血血液のHIV陽性率についての14年間のモニタリングデータを提示した。この分析は、1990-2004年のWHO欧州地域のデータが網羅されている。2000-2004年の10万供血中の平均HIV陽性率は西欧1.7、中欧3.4、東欧38.7であった。1990年以降の変化では、西欧で低下、中欧で横ばい、東欧では急激な上昇が認められた。
41	HIV	FDA/CBER 2007年5月23日	男性間性交渉者(MSM)からの供血に関するFDAの方針として、合衆国でAIDSの流行が始まった1977年以降は供血者として延期されている。MSMはHIV、HBVおよび他の感染のリスクが高いからである。米国赤十字によるとMSMのHIV有病率は一般集団の60倍、初回供血者の800倍、リピーター供血者の8000倍高い。HIV検査は非常に正確であるが、HIVには感染後もHIVを検出できないwindow期がある。FDAは受血者を守るため、科学的なエビデンスが得られるまで、この方針を継続する。
42	HIV	J Acquir Immune Defic Syndr 2007; 45: 581-587	中国Beijingで男性とセックスをする男性(MSM)におけるHIVおよび他の感染性疾患の有病率ならびにリスク行動を調査した。2004年は325名、2005年は427名、2006年は540名のMSMが参加した。HIV感染率は2004年には0.4%、2005年には4.6%、2006年には5.8%であった。この増加は梅毒の増加、自己報告による性行為感染既往の増加、多数の性交相手を持つ割合の増加、コンドームの使用率の低さと関連していた。
43	HIV	Lancet 2007; 369: 621-623	2002年の国連レポートや米国国家情報会議は、中国には約100~200万人のHIV/AIDS患者がおり、感染爆発の危機が迫っているとしたが、2006年までの生存患者数は65万人と見積もられた。感染規模の過大な予測から、中国では様々な問題が生じた。HIV/AIDS対策に多大な予算を掛けたために、喫煙、結核など他の健康問題への対策が十分ではなかった。中国でのHIV/AIDS対策はハイリスク地域を中心に行うべきである。

No	感染症(PT)	出典	概要
44	HIV	Lancet 2007; 369: 623-625	2006年末までに台湾CDCに13702名のHIV-1/AIDS感染者が報告された。2003年以降、HIV-1/AIDS感染生存者は急増し、台湾のHIV-1/AIDS感染者数は約3万人と推測され、台湾の感染率(2300万人中3万人; 1/767)は中国(13億人中65万人; 1/2000)よりも高い可能性が示された。リスク要因分析によると、静注薬物使用者の感染率は2005年には72.4%(2461/3399)であった。また垂直感染は2006年末までに19例が確定された。
45	HIV	ProMED-mail20070215.0569	カザフスタン南部において、新たにHIV感染症症例が記録され、91例(小児)に増加した。地方病院の患者である0~5歳の小児である。このうちの8例は既に死亡した。また、そこで治療を受けた母親13例も感染した。原因として、汚染された血液の輸血や、器具やシリンジの再使用が考えられる。
46	HIV	Vox Sanguinis 2007; 92: 113-120	20名の血友病患者が、1990年初頭以降、韓国で製造された血液凝固第IX因子の投与を受けてから1~2年後にHIV-1に感染していると診断された。血漿ドナーと血友病患者で検出されたウイルス間の遺伝子関連性を調べた結果、両者とも、HIV-1サブタイプBの韓国subcladeに感染していた。韓国で売血ドナーの血液から製造された凝固因子により、少なくとも20例の血友病患者がHIV-1サブタイプBに感染したことが明らかとなった。
47	HIV	第81回日本感染症学会総会・学術講演会ポスターP26-1	これまで国内でのHIV-2感染症例はいずれの報告も外国籍患者であった。今回、日本人初のHIV-2感染例を経験した。77歳男性で、36年前セネガルで輸血歴がある。2006年6月、気管支喘息発作で入院となり、入院時HIVスクリーニング検査(ELISA)でHIV抗体高値となった。その後、Western Blot法による確認検査により、HIV-1抗体陰性HIV-2抗体陽性となった。遺伝子解析の結果、HIV-2サブタイプAに属し、セネガル株(60415K株)に最も近縁であった。
48	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚生労働省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
49	HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界的にも感染例の少ないHIV2型に日本人が初めて感染したことが4日分かった。厚生労働省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。現地での輸血が感染原因とみられる。
50	HTLV	American Society of Hematology 2007年12月8-11日	1999年1月~2006年12月に長崎で献血を行った初回献血者の年齢別、出生年別および期間別HTLV-1血清陽性率の傾向分析を行った。血清陽性率は年齢が高くなるにつれ有意に増加した。また1987~1990年に生まれた献血者では1985~1986年に生まれた献血者と比較して有意に低かった。ウイルスキャリアの母親の授乳を避ける事を指導した県の対応が陽性率の低下に貢献していることが示された。
51	インフルエンザ	CDC INFLUENZA (FLU) 2006年12月6日	ブタインフルエンザに関するQ&A。ブタインフルエンザはA型インフルエンザであり、ブタにおいてインフルエンザのアウトブレイクを引き起こす。通常、ヒトには感染しないが、散発的にヒトでの感染が発生する。ここ数年間ではCDCは平均して年に1例のヒト陽性患者からのブタインフルエンザ分離株に関する報告を受け取っている。ブタと直接接触するヒト(例えば、養豚業者)で発生している。ヒトからヒトへ広がった例は稀である。
52	インフルエンザ	Science 2007; 315: 655-659	1918インフルエンザウイルスのヘマグルチニン受容体結合部位のごくわずかな変化により、ウイルスの伝播性が変化することが示された。2つのアミノ酸変異によって、ヒトの α -2,6シアル酸からトリの α -2,3シアル酸へと転換すると、フェレット間で呼吸器飛沫による感染を起こさないウイルスとなった。さらに、 α -2,6および α -2,3双方に特異性のある1918ウイルスは感染性が低かった。ヘマグルチニン受容体特異性が、哺乳類におけるインフルエンザ伝播に本質的な役割を果たす。
53	インフルエンザ	Sioux City Journal Online	米国アイオワ州東部の住民1名がブタインフルエンザと確定診断された。患者は入院しておらず、回復した。ヒトからヒトへの感染の証拠はない。
54	鳥インフルエンザ	Ann N Y Acad Sci 2006; 1081: 171-173	タイ南部で自然感染した日本ウズラの卵白と尿膜液混合液を含む卵の内容物と、卵管からトリインフルエンザウイルスが回収された。発育鶏卵の絨毛尿膜囊接種によりウイルスを分離し、rPCRによりH5N1亜型インフルエンザAウイルスと確定した。またウイルス抗原は複数の組織の実質で検出された。ウイルス抗原が全身に存在したことからウイルス血症の段階であると考えられた。アウトブレイク地域からの卵の移動や卵の消費によるウイルス汚染や拡大に対し安全対策をとる必要がある。

No	感染症(PT)	出典	概要
55	鳥インフルエンザ	asahi.com 2008年1月10日	中国衛生省は2008年1月10日、中国南京市で鳥インフルエンザ(H5N1型)に感染して死亡したの息子から、父親への感染を確認したと発表した。中国で人から人への感染が確認されたのは初めてである。ウイルスが新型に変異すると大流行する恐れがあるが、遺伝子の変異はないとしている。
56	鳥インフルエンザ	CDC Emerg Infect Dis 13(9) 2007年9月	インドネシア北スマトラおよびトルコ東部の家族群で観察された高病原性トリインフルエンザAサブタイプH5N1感染が、ヒト-ヒト伝播によるものであるかを調べるため統計的方法を用いた。感染の2次的発病率(SAR)および局所的な基本再生産数(R0)を見積もった。スマトラの例についてはヒト-ヒト伝播の統計的エビデンスが得られたが($p=0.009$)、トルコについては統計的エビデンスは得られなかった($p=0.114$)。
57	鳥インフルエンザ	China View, www.chinaview.cn 2008-01-10	2007年12月に江蘇省南京で発生した52歳男性の鳥インフルエンザ感染患者は、患者であった息子との濃厚な接触により感染したものであり、ウイルスの変異は認められていない。しかし、息子と父親はいずれも死亡した家畜との接触がないため、息子の感染源は明らかになっていない。息子は11月24日に発症し、12月2日に死亡し、父親は12月3日に発症したが回復した。ヒト用トリインフルエンザワクチンは臨床試験Phase IIの段階にある。
58	鳥インフルエンザ	Curr Opin Infect Dis 2006; 19: 401-407	中国ではヒトと食用動物とが密接に接触するため、多数の微生物が動物からヒトへ伝播する。重症急性呼吸器症候群(SARS)とトリインフルエンザは動物を起源とするウイルス感染で呼吸経路で伝播する。これらの発生、増幅、拡大における中国生鮮市場の役割について総括した。中国生鮮市場では食用動物や野生動物が生きたまま売られているため、遺伝子の再配列、組換え、突然変異のような種々のメカニズムにより、ウイルスは新しい遺伝子を獲得したり、存在する遺伝子が修飾される。
59	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1081-1083	高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1)を含むインフルエンザウイルスが、血液安全性の脅威となるおそれがある。ミニブル核酸増幅法を用いて10,272例の血液ドナー検体を分析した。この検査法の測定感度は、一般的インフルエンザウイルス用プライマーについては804 geq/ml、インフルエンザ(H5N1)サブタイプ特異的プライマーでは444 geq/mlであった。インフルエンザウイルスに対して、このようなスクリーニング検査が可能であることが示された。
60	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1219-1221	イヌにおけるトリインフルエンザ(H5N1)の感染性を調べた。ビーグル犬3匹の鼻腔内と気管内に同ウイルスを接種したところ、病気の兆候は示さなかったが、1匹で接種後1-4日目の鼻スワブからPCRによりウイルスが検出された。全てのイヌで14日目の血清からH5N1に対する抗体が検出された。結合試験の結果、同ウイルスはイヌの上部および下部気道組織に接着することが明らかとなった。イヌは臨床症状は示さないが同ウイルスに感染し、ウイルスを拡散させる可能性がある。
61	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 130-132	カンボジアの田舎の村民における家畜取り扱いに関する知識、態度および実践を調査した。Prey VengおよびKampong Cham地方のH5N1高危険性コミュニティにある25村各々から15歳以上の20人、計500人を目標に、2段階の世帯ベースのクラスター調査を行った。トリインフルエンザおよび個人的防護手段に関して広い知識があるにもかかわらず、大部分の田舎のカンボジア人は危険性の高い家畜の取り扱い方をしていることが示された。
62	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1348-1353	2006年5月にインドネシアのスマトラ北部でおよび2005年12月にトルコ東部の家族で観察されたトリインフルエンザH5N1の集団が、ヒト-ヒト伝播によるか否かを統計的方法を用いて調べた。スマトラの例ではヒト-ヒト伝播の統計的エビデンスが見られ、概算された2次感染率は29%、局所的増殖数の下限値は1.14であった。トルコの例ではヒト-ヒト伝播のエビデンスは得られなかった。
63	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1601-1603	2006年にイスラエルの多数の養鶏場で発生した高病原性インフルエンザ(H5N1)のアウトブレイクについて疫学的研究を行い、その時の対策をまとめた。同ウイルスは最近インドネシアで分離されたインフルエンザH5N1ウイルスとは分子的特徴が異なった。イスラエルでのアウトブレイクは9施設中6施設が七面鳥農場であった。迅速な対応により、アウトブレイクは17日間で治まり、2007年8月まで再発していない。
64	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1720-1724	3種類の野生の陸鳥のインフルエンザA(H5N1)に対する感受性と伝播性について調べた。スズメは最も感受性が高く、66-100%が4-7日以内に死亡した。ムクドリは高レベルのウイルスが検出されたが、死亡例はなかった。ハトが最も感受性が低かった。接触した鳥への伝播はほとんど起こらなかった。最近のインフルエンザウイルスH5N1ウイルスは一部の陸鳥に対し、病原性はあるが、同種間での伝播率は非常に低い。
65	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2008; 14: 149-151	農場で生まれた合鴨とガチョウを実験施設で育て、2種類の異なる遺伝子型のトリインフルエンザH5N1ウイルス(A/chicken/Yamaguchi/7/2004およびA/chicken/Miyazaki/K11/2007)を鼻腔内に接種し感染性を調べた。ガチョウ1羽で角膜混濁が見られた外は臨床症状は見られなかったが、皮膚からはウイルスが分離され、羽毛表皮細胞からはウイルス抗原が検出され、ビリオンが観察された。両ウイルスは家畜のアヒルとガチョウの羽毛表皮細胞で複製され、羽毛が感染源となる可能性が示唆された。

No	感染症(PT)	出典	概要
66	鳥インフルエンザ	Lancet 2007; 370: 1137-1145	H5N1インフルエンザウイルスに感染した男性1名および妊婦1名とその胎児の剖検組織を調べた。肺のII型上皮細胞、気管の上皮細胞、リンパ節のT細胞、脳の神経細胞及び胎盤のホフバウエル細胞と細胞栄養層でウイルス遺伝子配列と抗原が検出され、腸粘膜ではウイルス遺伝子配列のみが検出された。胎児では肺、末梢単核細胞、肝マクロファージに遺伝子配列と抗原が検出された。本ウイルスは肺だけでなく気管に感染し、脳を含む他の器官に拡がり、また胎盤を通過し、母親から胎児にも伝播する。
67	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070110.0097	中国東部の37才の農夫がトリインフルエンザH5N1株に感染していることが確認された。2006年7月以来のトリインフルエンザ症例であると、2007年1月10日に発表された。症例は2006年12月10日に発症し、全快後、2007年1月6日に病院を退院した。検査でH5N1株陽性であったことが確認された。付近の家畜でトリインフルエンザのアウトブレイクはみられていない。2003年以来、中国では22例のヒト症例が報告されており、うち死亡例は14例である。
68	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070111.0119	韓国保健省は2007年1月11日、養鶏場作業員が2006年末にトリインフルエンザに感染したが、重症ではなかったと発表した。患者は2006年11月に養鶏場で発生したH5N1株のアウトブレイク後に感染した。
69	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070120.0260	2007年1月18日、農林水産省は、宮崎県の養鶏場で発生したトリインフルエンザは高病原性ウイルスによるものだったと明らかにした。同省は養鶏場で死亡した鶏から採取したウイルスのサンプルを検査して病原性が高いものであることを確認した。H5N1型ウイルスの流行は、宮崎県清武町の谷口野卵場黒坂農場で発生し、3つある鶏舎のうち1つで3500羽の鶏が死亡した。
70	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070304.0752	2007年2月27日にトリインフルエンザH5N1株に感染していることが確認されたFujian省の農業に従事している女性(44才)は、病院において治療を受けている。患者は急激に肺炎症状を呈し、入院後昏睡となった。中国における23例目のトリインフルエンザ症例である。女性は死亡した家畜との接触が確認されている。女性に対してヒトの回復期血清(2006年12月にトリインフルエンザH5N1株に感染したが、その後回復したAnhui省の農業従事者からの血清)を治療に使用した。
71	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070320.0975	香港でトリインフルエンザH9N2株に感染した生後9か月の女児が病院で隔離されたと2007年3月20日に保健当局は発表した。本症例は2007年3月4日に発病する前は、ほぼ毎日、生きた家畜を販売する食料品市場を訪問していた。この患児は市場でトリから感染したのではないかと疑われている。H9N2株はトリインフルエンザAウイルスの弱毒株である。
72	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070329.1080	中国保健省は、東部Anhui省におけるトリインフルエンザの新規ヒト症例(男、16才)を確認した。この症例は2007年3月7日に発症し、3月18日に入院したが、3月27日に死亡した。中国CDCの検査により、本症例はトリインフルエンザウイルス株H5N1に感染していたことが確認された。2003年以降の中国における24例目のトリインフルエンザ症例、15例目の死亡例である。
73	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070928.3212	N5N1トリインフルエンザウイルスは妊婦の胎盤を通過可能であり、胎児に感染することが北京大学の研究者らにより報告された。またウイルスが肺だけでなく、胃腸管、脳、肝臓および血液細胞へ拡がるとのエビデンスが示された。
74	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20071208.3967	中国Jiangsu省保健局は2007年12月2日に当局はJiangsuで高病原性トリインフルエンザのヒト症例を確定したが、この患者(24歳男性)は多臓器不全で死亡したと発表した。家畜との接触歴はなかったが、発症の20日前にイヌに咬まれたとのことである。また、この患者の52歳の父親もH5N1トリインフルエンザと確定されたが、生存している。感染の原因は調査中である。
75	鳥インフルエンザ	Reuters Foundation AlertNet 2007年9月27日	H5N1トリインフルエンザウイルスは妊婦の胎盤を通過して胎児に感染することができるかと研究者が報告した。ウイルスは肺だけでなく胃腸管、脳および血液細胞にまで達することも証明された。また、ウイルスは免疫系の一部を過剰刺激し「サイトカインストーム」を起こすだけでなく、マクロファージに障害を与えるなど免疫系の他の部分を抑制することが示唆された。
76	鳥インフルエンザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	血漿製剤の製造中に通常使われるウイルス不活性化処理、即ち、ヒトアルブミンの低温殺菌、静注用免疫グロブリン(IgG)のSD処理、第VIII因子インヒビターバイパス複合体製剤の蒸気加熱、及びIVIGの低pHインキュベーションが、H5N1インフルエンザウイルス不活性化に有効かを再集合体株を使って調べた。その結果、H5N1インフルエンザウイルスは、エンベロープウイルスと同様の挙動を示し、これらのウイルス不活性化処理によって効果的に不活性化された。

No	感染症(PT)	出典	概要
77	鳥インフルエンザ	WHO/ Avian influenza 2007年2月27日	2007年2月27日、ラオス保健省はH5N1トリインフルエンザウイルスの初めてのヒト感染症例を報告した。Vientianeの15歳女性で、2月10日にインフルエンザ様症状を呈し、15日に入院した。17日にタイの病院に移り、現在、安定した状態である。タイの国立保健研究所による検体検査で、H5N1感染陽性と確定された。少女と接触のあった大人はオセルタミビル予防的服用を行った。今までのところ全員健康である。
78	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年12月15日	パキスタンにおけるトリインフルエンザの状況：パキスタン保健省はPeshawar地域におけるH5N1トリインフルエンザのヒト疑い症例8例をWHOに報告した。これらの症例は家禽におけるH5N1アウトブレイクに対する処分後に発見された。1例は回復したが、さらに2例の疑い症例が死亡した。疑い症例の検体は国立研究所の検査でH5N1陽性であったが、WHOで更に確定・分析中である。
79	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年12月4日、2007年12月9日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update4)：2007年12月4日、中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスの新規のヒト感染症例を報告した。症例はJiangsu省の24才の男性で、12月2日に死亡した。中国での確定例は26例で、うち17例が死亡している。(update5)：2007年12月9日、中国衛生省は同ウイルスの新規ヒト感染症例を報告した。Jiangsu省の52才の男性で、12月2日に同ウイルス感染で死亡した24才男性の父親で、現在入院中である。
80	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年2月3日	2007年2月3日、ナイジェリア政府は死亡したLagos出身の22歳女性からA/H5N1トリインフルエンザウイルスが検出されたと発表した。ナイジェリアの研究所で陽性となり、WHO協力センターで確定された。感染源を特定するために更に調査中である。この患者との接触者からの検体は陰性であった。ナイジェリアでは家禽でのアウトブレイクでH5N1ウイルスが同定されており、トリインフルエンザによる散発的なヒト感染症例は予想された。
81	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年3月8日	ラオス人民民主主義共和国の保健省は同国で初めてのH5N1トリインフルエンザによる死亡例を確定した。Vientianeの15歳女性で、2月27日に感染が発表され、タイの病院に入院後、3月7日に死亡した。
82	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年5月30日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update2)：中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規のヒト感染症例を報告した。6月23日に確定診断された。この症例はFujian省に駐留していた19才の兵士で、5月9日に発症し、5月14日に入院した。病気のトリとの接触は確認されていない。中国での確定例は25例で、うち15例が死亡している。
83	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年6月4日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update3)：中国衛生省は同国で16例目のH5N1トリインフルエンザウイルスによる死亡例を報告した。症例はFujian省に駐留していた19才の兵士で、6月3日に死亡した。中国での確定例は25例で、うち16例が死亡している。
84	鳥インフルエンザ	YAHOO!ニュース(毎日新聞) 2007年1月16日	2007年1月16日、農林水産省は、宮崎県清武町の谷口野郎場黒坂農場で発生したトリインフルエンザは高病原性ウイルスH5N1型によるものであることを確認したと発表した。アジアを中心に鳥から人への感染が続く強毒型の可能性が高く、遺伝子解析をして感染経路を究明する。厚生労働省は国内での人への感染の危険は低いと見ている。
85	鳥インフルエンザ	英国保健省 2007年3月20日	2007年3月20日現在、感染したトリとの接触の結果、ヒト281名がトリインフルエンザに感染し、その内189名が死亡した。H5N1がヒトからヒトへ簡単に伝染する能力を獲得したとの明確な根拠はないが、ウイルスがこの能力を獲得するか、またはヒトのインフルエンザウイルスと混ざって新しいウイルスを作ることが懸念されている。2007年2月3日にSuffolkで家禽にH5N1アウトブレイクが発生したが、現在のリスクレベルは極めて低い。
86	鳥インフルエンザ	鶏の研究 2007; 82(10): 35-37	高病原性鳥インフルエンザの発生した京都府丹波町で冬季に活動するハエ類の分布調査を行い、採取したオオクロバエとケバクロバエからH5N1亜型インフルエンザウイルス遺伝子が検出され、一部から感染力のあるウイルスが分離された。両クロバエは冬に繁殖し、移動能力も高く、鳥インフルエンザに感染したニワトリの糞と一緒にウイルスを取り込んで伝播した可能性が示唆された。
87	鳥インフルエンザ	鶏の研究 2007; 82(11): 40-43	農場周辺で採取したクロバエの消化管からRNAを抽出し、鳥インフルエンザウイルスの検出と分離を行ったところ、マトリックス蛋白質とヘマグルチニンの遺伝子断片を検出し、強毒タイプであることが確認された。またオオクロバエの消化管から分離されたウイルスはH5N1亜型で、鳥インフルエンザで死亡したニワトリから分離したウイルスと同一であった。ウイルスはオオクロバエの体内で24時間感染性が維持され、伝播する可能性が示唆された。

No	感染症(PT)	出典	概要
88	鳥インフルエンザ	鶏の研究 2007; 82(12): 36-39	ニワトリは近くを飛び回るハエを捕まえて食べる習性がある。クロバエ類が鶏舎への高病原性鳥インフルエンザ伝播の一要因であるとする、一般的なイエアエ科の施設内での駆除方法をクロバエ対策に踏襲するのは不十分で、鶏舎内へのハエの侵入を阻止する対策が必要であろう。クロバエ類が通過できない大きさの格子でできた粗めのネットを鶏舎開放部に張るといった物理的手段も検討に値すると考えられる。
89	鳥インフルエンザ	第55回日本ウイルス学会学術集会 2007年10月21-23日 216	2007年に宮崎および岡山県で発生したH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザの発生例から分離したウイルス4株の全塩基配列を決定し、また、病原性について調べた。4株は遺伝学的に極めて近縁であり、2005年中国青海湖で死亡した野鳥から分離された系統に属していた。鶏では接種鶏全てが死亡した。50%マウス致死量は5x100EID50であった。またウイルスは接種マウスの肺だけでなく脳からも回収された。
90	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2007; 56(4): 76-79	ID-NATを用いた強化スクリーニング開始以降に、初めて西ナイルウイルス輸血感染症例が報告された。2006年に免疫不全患者2例が、感染ドナー1例(献血時のMP-NATの結果は陰性)由来の血液製品を投与された後、西ナイル神経侵襲性疾患を発症した。今回の例はID-NATは実施されておらず、ID-NATトリガーを促進することが重要である。
91	ウエストナイルウイルス	Pediatrics 2007; 119: e666-e671	2003年以降の授乳中の母子におけるWNV疾患の報告を収集し、全症例を検討した。報告された10例のうち、5例は母乳を介した感染の可能性が除外できないかまたは確認できない症例であった。他の5例については血清学的検査により垂直感染が否定された。また、妊娠中に感染した女性の母乳検体を調べたところ、45検体中2例でWNV RNAが、14例でWNVに対するIgM抗体が検出された。母乳を介するWNVの感染は極めて稀ではあるが、更なる研究調査が必要である。
92	ウエストナイルウイルス	ProMED-mail20070809.2583	2007年8月2日、米国カリフォルニア州の3郡(Kern, ColusaおよびSan Joaquin)でウエストナイルウイルスが発生していることに関して知事が緊急事態を宣言した。これら3郡では今年4例が死亡しており、感染は急速に拡大している。前年同期と比較して感染者数は3倍である。中心地はKern郡とされ、州全体での症例数56例の3分の2が記録されている。
93	ウエストナイルウイルス	The New York Times 2007年7月26日	米国におけるウエストナイルウイルス症例数は1年前の約4倍であり、大流行がおこる可能性があるとして政府研究者が報告している。昨年は米国で4,269症例が報告され、この中には1,495例の脳症が含まれ、177例が死亡した。今年はこれまでに122症例が報告され、カリフォルニア州と南北ダコタ州で最も多いが、昨年の同時期は33例のみであった。今年は既に脳症が42例および死亡が3例ある。
94	ウエストナイルウイルス	第144回日本獣医学会学術集会 2007年9月2-4日	ウエストナイルウイルスは、近い将来、日本にも侵入する可能性があるため、日本産蚊の室内継代株を用いて増殖・媒介能を調べた。アカイエカ、ヒトスジシマカ、オオクロヤブカでウイルス注入実験を、アカイエカ、ヒトスジシマカで吸血実験をしたところ、全種類の蚊においてウイルスの増殖が観察された。媒介試験では、アカイエカ注入、吸血両群、ヒトスジシマカ2系統の注入群、1系統の吸血群では供試したすべてのマウスが12日以内に死亡し、死亡したマウスからはWNVが検出された。
95	ウエストナイルウイルス感染	Hoy Digital エストレマドゥーラ新聞 2007年3月21日	ABC新聞は昨日、スペイン国内初のナイルウイルス感染者の診断結果を発表した。21歳男性が2004年にバルベルデ・デ・レガネスで蚊に刺され感染した。発見者の研究グループはナイルウイルスの研究を2003年から始め、3年間、病院で検出されたウイルス性脳膜炎や髄膜炎の症例からナイルウイルスを探し求めてきた。
96	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年12月18日	2006年8月9日、北Albertaの農場で牝牛が短期間の神経学的症状を呈した後、死亡した。2006年8月23日、CFIAはBSEであると確定した。カナダにおける8頭目のBSE牛である。死体は確保され、焼却された。どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。このウシはCharolais交雑牛で、死亡時8歳から10歳と推定された。誕生した農場が不明のため、飼料調査は行う事ができなかった。
97	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年2月7日	2007年2月7日、CFIAはAlbertaの成牛はBSEであると確定した。カナダにおける9頭目のBSE牛である。死体は管理され、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。予備的情報ではこのウシは生後1年目に少量の感染物質に暴露したと考えられる。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。
98	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年3月26日	2007年2月7日、CFIAは、2007年1月20日から22日の間に体調不良の後死亡したAlbertaの肉牛はBSEであると確定した。カナダにおける9頭目のBSE牛である。死体は管理され、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。このウシは死亡時79月齢の未登録Angus雄牛であり、当該農場で出生し、移動したことはなかった。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。当該農場で出生または生育した593頭について出生および飼料コホートが実施された。

No	感染症(PT)	出典	概要
99	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年5月2日	2007年5月2日、CFIAはBritish Columbiaの乳牛がBSEであると確定した。死体は管理下におかれ、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。予備的情報によると当該牛は66月齢で、生後1年目に少量の感染物質に暴露したと考えられる。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。
100	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年7月25日	2007年5月2日、CFIAはBritish Columbiaの乳牛がBSEであると確定した。カナダで10頭目のBSE牛である。どの部位もヒト食料または飼料システムに入っていない。当該牛は2001年11月10日生まれのホルスタイン牛で、死亡時66月齢であった。当該農場で出生し、外に出たことはなかった。この農場で成長した156頭について出生コホートが実施された。飼料コホートの結果、禁止物質が飼料製造所に供給されていたことが明らかとなった。
101	BSE	ProMED-mail20070208.0499	2007年2月7日、Canadian Food Inspection Agency (CFIA)はAlbertaの成牛はBSEであると確定した。死体は管理され、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。予備的情報ではこのウシは生後1年目に少量の感染物質に暴露したと考えられる。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。
102	BSE	ProMED-mail20070302.0734	ニュージーランド食品安全局はBSEを取り巻く最新の科学と実際の知識を踏まえて、ウシ及びウシ加工品の輸入規制を改訂する方針である。新しい規制は科学的証拠や最近の国際的な規制に合致したものとするため、輸出する国のBSEリスクステータスの分類に、国際的に認められた3カテゴリーシステムを導入する。ゼラチンは、原材料の起源およびBSEリスクのある国からの輸入を問わず、全てのゼラチンの売買が自由化される。
103	BSE	ProMED-mail20070308.0813	2007年3月6日、CFIA (Canadian Food Inspection Agency) はカナダにおける最近のBSE牛の総合的な調査はまもなく完了すると発表した。そのウシは2000年に生まれ、死亡時は少なくとも6.5歳であった。
104	BSE	ProMED-mail20070502.1430	2007年5月2日、CFIAはBritish Columbiaの乳牛がBSEであると確定した。死体は管理下におかれ、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。予備的情報によると当該牛は66月齢で、生後1年目に少量の感染物質に暴露したと考えられる。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。
105	クロイツフェルト・ヤコブ病	2007年プリオン研究会 Poster-20	日本の人口動態統計では、CJDによる死亡は過去20年以上に渡り増加傾向を示し、2005年は人口100万対1.23人であった。CJDサーベイランス委員会による調査では過去8年間に918例がプリオン病と判定された。病型別では、孤発性CJD 716例、遺伝性プリオン病 128例、感染性(獲得性)CJD 72例(変異型CJD 1例、硬膜移植後CJD 71例)、および分類不能 2例であった。
106	クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 595-599	行動および人格変化の後、速い進行性痴呆を呈した69歳女性の脳の死後剖検で、細胞内プリオン蛋白沈着およびアミロイド線維による軸索腫脹が見られた。病原体プリオン蛋白の生化学的分析の結果、ジグリコシル種を欠く未知のPrPSc3次元構造が明らかになった。遺伝子分析の結果、野生型プリオン蛋白遺伝子であった。このプリオン病原体はハタネズミでの継代に成功した。新規の病原体プリオン蛋白の細胞内蓄積による新しいプリオン病が明らかとなった。
107	クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2007; 13: 162-164	1999年4月から2005年3月まで日本のCJDサーベイランス委員会に登録されていたプリオン病患者について分析した。日本のプリオン疾患患者597名のうち11名(1.8%)が、発症の前後1ヶ月以内に眼科手術を受けた。眼科医はいずれもプリオンタンパクの感染性を除去するには不十分な滅菌しか行われていない手術器具を再使用していた。眼科医は、プリオン疾患が眼症状を引き起こす可能性があることを認識し、可能な限り使い捨て器具を使用すべきである。
108	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2006; 77: 880-882	CJDサーベイランスの結果、1970年～2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45～177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、ブタ硬膜片レシーピエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。ブタ硬膜片レシーピエントは1型PrPresの広汎な蓄積を示し、発症年齢、疾病期間、臨床症状、脳波などから孤発性CJDと考えられた。
109	クロイツフェルト・ヤコブ病	第6回 CJD二次感染 予防に関する対策検 討会 平成19年12月 20日	日本で平成11年4月から19年2月16日までにCJDサーベイランス委員会に登録されたCJD症例数は897例であった。CJD二次感染リスク低減のため、CJD感染性が高いハイリスク手技に用いられた手術器具等の再使用に際し、現時点で推奨される処理として、適切な洗浄+3%SDS 3-5分煮沸処理などを示した。またCJD診断以前に行われた脳外科等の手術器具を介したCJD二次感染リスク保有可能性者への対応について、医療機関に対し助言を行うとともに、専門家組織の設置を提言した。

No	感染症(PT)	出典	概要
110	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2007年プリオン研究会 Poster-38	BSE感染ウシ由来の脳乳剤を用いてPrPresのin vitro感染系の確立を試みた。感染させたヒト由来グリオマ細胞株から抗プリオン抗体に反応する約30KのPK耐性のバンドが検出された。このバンドは非感染細胞には存在しなかった。また、9ヶ月継代した感染細胞の培養上清に伝達性があることが明らかとなった。さらに20nmのウイルス除去膜によって培養上清の伝達性が減少することが認められた。
111	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(44): 4-5	伝達性海綿状脳症(TSE)諮問委員会が2006年12月15日に公開で開催され、ヒト血漿由来抗血友病因子(FVIII)製剤におけるvCJDへの潜在的曝露に関するFDAのリスク評価ならびに血漿由来FVIII製造におけるTSEクリアランスのレベルについて討論された。このリスク評価に対して諮問委員会は、報告が強制でないことや、最終製品のリスク減少を推定をする際に用いたエビデンスに対して懸念を表明した。
112	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2007年2月9日 7-8ページ	将来のvCJDによる死亡率は、供血に関する公衆衛生上の施策によって予想されていたよりも遙かに低くなるだろうと英国の研究者が報告した。Royal Society Journal Interface誌オンライン版によると、2080年までの輸血によるvCJDの死亡例は50例と予測される。感染牛の摂食によるvCJD感染が排除されたため、現在では輸血による伝播が最も可能性が高いと研究者は話している。
113	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2007年5月4日	イスラエルで血液事業を行っているMagen David Adomは、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に関する供血延期基準を変更し、1980年以降にフランス居住歴がある人の供血を可能とした。1980年から10年間のうちにイギリス、アイルランド、ポルトガルに居住歴のある人は、引き続き供血禁止となる。また、輸血を受けた人、B型肝炎やC型肝炎患者と一緒に住んでいた人、入れ墨を入れた人、内視鏡検査を受けた人、未検査の動物に噛まれた人の供血延期期間を短縮した。
114	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Acta Neurol Scand 2007; 116: 75-82	プリオン蛋白PrPcの生理学的機能に関するin vitroおよびin vivoでのエビデンスの総論である。今までの研究からPrPcが中枢神経系の多数の非プリオン疾患において疾病修正因子として重要な役割を果たすことが示唆されている。また、神経発達および神経保護や免疫調整における役割に関する研究が集積しつつある。これらの研究はPrPcの生物学的役割の理解に貢献し、新しい薬理学的介入の発展をもたらすかもしれない。
115	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	運動失調や記憶障害などを呈し、発症後14ヶ月で死亡した患者(39歳女性)の剖検を行ったところ、白質の広汎な変性と皮質および白質におけるPrP沈着を示す非定型孤発性CJDであった。小脳組織由来のPrPScを分子分析した結果、vCJDでみられるPrPSc 4型と似た新規のPrPScであることが示された。典型的vCJDとはEDTA存在下でのプロテアーゼ開裂部位が異なった。この患者のPRNPコドン129はホモバリンであった。
116	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochim Biophys Acta 2007; 1772: 598-609	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)がウシのBSEと同じプリオン株によってヒトに発症するという認識はヒトプリオン病の分子生物学に関する正確な理解の必要性を注目させた。多数のプリオン病患者から得られた詳細な臨床的、病理学的および分子学的データはヒトプリオン病における表現型の多様性が、疾病に関連したPrPアイソフォームの伝播に部分的に関係していることを示した。ヒトにおけるプリオン感染の潜伏期間は50年を超えることもあるので、ヒトvCJD流行の程度を予測するにはまだ数年要する。
117	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biologicals 2007; 35: 79-97	ドイツにおいて、vCJDが血液供給へ及ぼす影響について実際の集団データを基にモデル計算を行ったところ、輸血を介した伝播がvCJDを永続化するような可能性はなかった。更に、受血経験者を供血から排除しても輸血の安全性向上にはほとんど寄与しないが、血液供給には多大な影響を及ぼすと考えられた。そのためドイツにおいては受血経験者の除外は推薦されなかった。
118	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biologicals 2007; doi:10.1016/j.biologals.2007.04.005	異なるポアサイズのウイルス除去膜を使用し、異なる処理を行ったスクレーパープリオン蛋白(PrPSc)の除去能力を評価した。超音波処理により粒子径分布を至適化するように調製した263K MFをスパイク物質として使用したときは、75nmのろ液中にPrPScが検出された。15nmのろ過のみが全ての条件でウエスタンブロット法の検出限界以下までPrPScが除去されることが示された。しかし、1条件下の15nmろ液のバイオアッセイの結果では、感染性PrPScが確認された。
119	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BRAIN MEDICAL 2006; 18: 371-376	BSEの発生状況は、今までの発生総数が125例以上の国では減少傾向にあるが、日本など低発生国では2005年に発生が増加がみられている。新たな問題として、非定型BSEが世界各国で検出されている。また特定危険部位以外の組織でプリオンが確認されている。慢性消耗病(CWD)はシカのプリオン病であり、自然状態で水平感染を起こし、伝播を阻止することは不可能に近い。しかし、シカとヒトの間ではかなり大きな種の壁があることが示唆されている。
120	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Curr Opin Hematol 2007; 14: 210-214	赤血球製剤の輸血によるヒトでのvCJD感染症例が報告されている。げっ歯類のTSEに関する実験で、赤血球製剤の感染性は赤血球自体に関係があるのではなく、残存している白血球や血漿のような製剤中の他の成分に関係することが示された。vCJD因子がヒト赤血球と結合できないことが示されたら、vCJDが発生している国の血液サービスは輸血前に洗浄や濾過により感染性のある液相を取り除くことが賢明かもしれない。

No	感染症(PT)	出典	概要
121	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2007; 13: 89-96	vCJD二次感染防止のため、輸血歴のある人の供血を禁止している国もある。Dynamic age-structured modelを用いて、この措置の効果を検討した。これは、供血者の行動、CJDの症例対照試験、受血者の年齢分布および受血者の死亡の疫学的データに基づくモデルとしては初めてのものである。食品によりヒトに導入されたvCJDの様な感染は、輸血のみにより拡大する可能性はないこと、また、輸血歴のある人を供血から除外することにより感染を免れるのは1%未満の症例にすぎないことが予測された。
122	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	Eur J Lipid Sci Technol 2006; 108: 812-826	プリオンで汚染した牛脂由来の脂肪酸およびグリセロールの安全性について検討した。リスク評価計算は、プリオン感染性の不活性化だけでなく、病理学的プリオン蛋白の変性に関する定量的データに基づいて提供された。脂質加水分解の基本的油脂化学過程の産業的条件は、TSE汚染リスクを容認できるほど最小に減ずるための効果的な手段といえる。産業的獣脂由来製品はすべて、その起源にかかわらず、安全とみなすことができる。
123	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 11(12) 2006年12月7日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂取したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生的調査により、米国住民への伝播の危険はないと同定された。
124	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2007; 12(1) 2007年1月18日	英国で輸血と関係した新たなvCJD症例(4例目)が、最近診断された。この症例は、献血17ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJD症状を呈した。同じドナーからは3例目のvCJD患者にも輸血されていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関係したものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。
125	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2006年10月15日 FDA/TSEAC Meeting 2006年12月15日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤(pdFVIII)の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブラント病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低いが、ゼロではないかもしれないことを示唆した。またTSEAC(TSE Advisory Committee)は、pdFVIII製品中のTSE除去の適切な閾値について議論した。TSE除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動することが示された。
126	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2006年11月27日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤(pdFVIII)の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブラント病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低いが、ゼロではないかもしれないことを示唆した。製造工程での原因物質除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動する。
127	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2006年11月7日	英国血漿由来の第XI因子製剤が、1989-2000年に米国で50名以下の患者に使用されたと推定される。モデルを用いたリスク評価の結果、1998年まで第XI因子製剤を製造するために使用された血漿プールの1.6%~50%がvCJD病原体を含んでいる可能性があった。しかし、これまで血漿由来製剤の投与を受けた患者において、世界中で一件もvCJDの症例は報告されていない。製造工程におけるvCJD除去、使用量、曝露経路および英国ドナーのvCJD有病率がリスクに影響を与える重要な因子である。
128	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2007年3月15日	近年、米国で承認されている第8因子、第9因子を含む血漿由来の血液凝固因子および免疫グロブリンやアルブミンのような他の血漿由来製品のレシピエントにおけるvCJDリスクに関する懸念が挙げられている。これに対し、米FDAはリスク評価を行った。この評価に基づいて、US Public Health Serviceは米国で承認されている第8因子を投与されている患者のvCJDリスクは非常に低く、その他の血漿由来製品(第9因子を含む)のvCJDリスクは同程度か更に低いとしている。
129	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2007年3月30日	近年、英国で得られた血漿から作られた血漿第XI因子(pdFXI)を投与された患者でのvCJDリスクが関心を集めている。1989年から2000年の間に米国では約50人に英国血漿由来のpdFXIが投与された。世界中でこれまで血友病や他の凝血疾患の患者においてvCJDは全く報告されていない。これらの患者は長期間にわたり血漿由来製剤を大量に投与されていることから、pdFXIを投与された患者でのvCJDリスクは小さいと考えられる。
130	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2007年5月30日	近年、米国で承認されている第8因子、第9因子を含む血漿由来の血液凝固因子および免疫グロブリンやアルブミンのような他の血漿由来製品のレシピエントにおけるvCJDリスクに関する懸念が挙げられている。これに対し、米FDAはリスク評価を行った。この評価に基づいてUS Public Health Serviceは、米国で承認された第8因子を投与されている患者のvCJDリスクは非常に低く、その他の血漿由来製品のvCJDリスクは同程度か更に低いとしている。本ウェブページに関連資料、ガイダンスなどが掲載されている。
131	変異型クローンツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2007年5月30日	近年、英国で得られた血漿から作られた血漿第XI因子(pdFXI)を投与された患者でのvCJDリスクが関心を集めている。1989年から2000年の間に米国では約50人に英国血漿由来のpdFXIが投与された。世界中でこれまで血友病や他の凝血疾患の患者においてvCJDは全く報告されていない。これらの患者は長期間にわたり血漿由来製剤を大量に投与されていることから、pdFXIを投与された患者でのvCJDリスクは小さいと考えられる。

No	感染症(PT)	出典	概要
132	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/TSEAC Meeting 2006年12月15日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤(pdFVIII)の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低いが、ゼロではないかもしれないことを示唆した。またTSEAC(TSE Advisory Committee)は、pdFVIII製品中のTSE除去の適切な閾値について議論した。TSE除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動することが示された。
133	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA Press Statement 2007年1月18日	英国で輸血と関係した新たなvCJD症例(4例目)が、最近診断された。この症例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血を受けた約9年後にvCJDと診断された。同じ供血者からの輸血は以前に同定されたvCJD1例とも関係していた。4例目の患者は以前からvCJDに暴露した可能性を知らされていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関係したものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。
134	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/Health Protection Report 1(16) 2007年4月20日	HPAにより進行中の研究でマウスにおいて歯科組織にTSE感染性があるとの知見が得られた。この結果は歯科用鍵および歯根管拡張器がvCJD感染の伝播経路になりうることを示す。英国歯科担当長官は歯髄拡張器および鍵を全ての患者に対し、1回限りの使用にしようとする全ての歯科医に文書で通達した。vCJD伝播リスクを減少させるための注意である。また全ての歯科用装置について最高基準の汚染除去を行うよう忠告した。
135	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。この症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニンホモ体であった。まだ生存中である。
136	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Biol Chem 2007; 282: 35878-35886	トランスジェニックマウス(101LL)を用いた感染性実験の結果、TSE疾患の臨床症状と脳の空胞化という徴候を示すがPrPScのレベルが低いかもしくはイムノブロット法では検出されない動物の脳組織内に、高力価のTSE感染性が存在しうることが明らかとなった。この結果はPrPScのレベルと感染価との間の相関性に疑問を投げかけるものであり、プロテアーゼK抵抗性のPrPをほとんどもしくは全く含まない組織が感染性となりうること、および高力価のTSE感染性を有しうることを示すものである。
137	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2006; 87: 2433-2441	4-6月齢時にBSE感染脳1gまたは100gを経口投与した乳牛を人工授精させ、出産後1週間以内と、授乳期間中10週間間隔で搾乳した。乳サンプルを遠心分離し、Bio-Rad Platelia ELISA法とSeprión-PAGE/Western blot法を用いて、BSEに関連する異常プリオンタンパクを分析した。その結果、ウシの乳の細胞分画から異常プリオンタンパクは検出されなかった。
138	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2007; 88: 1048-1055	56頭の子牛に経口的BSEチャレンジを行い、4ヶ月毎に屠殺し、剖検動物のリンパ管ならびに末梢および中枢神経系に属する組織を免疫組織化学的方法およびイムノブロット法で調べ、PrPScの存在を分析した。その結果、PrPScは自律神経系を介して胃腸管から中枢神経系へ拡がっていくことが明らかとなった。非自律末梢神経へのPrPSc浸潤は中枢神経系でのプリオン複製後の2次的な逆行事象であった。また、PrPScは感染後24ヶ月の動物の脳幹で検出され、以前の報告より8ヶ月間早かった。
139	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2007; 88: 1379-1383	BSEを経口的に接種し、20~33ヶ月後に屠殺された無症候性ウシ由来の組織を、ウシPrPを発現するBoPrP-Tg110マウスに脳内接種し、感染性を評価した。その結果、無症候性ウシにおけるBSE感染性は神経系、パイル板および扁桃腺に限局していた。パイル板と扁桃腺における感染性は分析された全ての時点で検出されたが、神経組織における感染性は27ヶ月後に検出され、脳幹における感染性は33ヶ月後に著しく増加した。脾臓、骨格筋、血液および尿では感染性は検出されなかった。
140	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2007; 88: 2890-2898	PMCA(Protein misfolding cyclic amplification)法を用いてSc237感染ハムスターにおけるPrPScの尿中排泄及び血中レベルの時間経過試験を行ったところ、疾患末期に高率のPrPSc排泄を認めた。経口投与後、PrPScは全てのパフィーコート検体中に存在し、症状出現期のハムスターの血しょう検体の大部分に存在した。尿中には経口投与後数日間はPrPScが排泄されたが、それ以降末期まで検出されなかった。TSE感染動物の尿中でPrPScが生化学的に検出された初めての報告である。
141	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Med Microbiol 2007; 56: 1235-1242	TSEの病因におけるspiroplasmaの役割について調べた。Spiroplasma mirumをシカに頭蓋内接種したところ、1.5-5.5ヶ月後にTSEの臨床症状を発現し、用量依存的に海綿状脳症を呈した。反芻動物への頭蓋内接種後のTSE感染脳から鶏卵胚培養でspiroplasmaが分離された。これらのspiroplasmaをヒツジとヤギに頭蓋内接種したところ自然発生TSEに酷似した海綿状脳症が誘発されることが確認された。
142	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2007; 27: 6965-6971	数種類のPrPトランスジェニックマウスへ伝達中の分子のおよび神経病理学的性質を分析する事により、BSE L型と呼ばれる非典型的分離株の特徴を調べた。それらの分離株はウシPrPマウスを含む他の系統ではBSEと異なった表現型特徴を保持していたが、予期せぬことに、ヒツジPrPを発現しているマウスに伝達した時、BSE型PrPの性質に非常に似た性質を獲得した。種の壁の通過とプリオン株の多様性との関係がさらに注目される。

No	感染症(PT)	出典	概要
143	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J R Soc Interface doi:10.1098/rsif.2007.0216 Published online	血液由来のvCJDの流行の大きさを探るために感度分析を行い、公衆衛生的介入の有効性について調査した。数学的モデルを開発し、悲観的モデリング仮定で評価すると、自己持続的流行が起こるならば2080年までに900例以内、楽観的仮定では250例以内となった。大規模な又は自己持続性流行に至るシナリオの可能性はあるが実現性は低く、輸血を受けたヒトからのドネーション禁止措置等の公衆衛生的介入が有効である。
144	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Vet Diagn Invest 2007; 19: 142-154	米国で牛海綿状脳症(BSE)と診断されたウシ2例に関する報告である。症例1では脳幹の門領域に海綿状変性及びPrPScの沈着がみられたが、症例2ではPrPScは検出されたが、明らかな空泡状の変化はみられなかった。ウェスタンブロット法で、症例1は典型的なBSE分離株と似た分子的特徴を示したが、症例2のPrPScは高分子量に位置する異常な電気泳動パターンを示した。両症例のプリオン蛋白遺伝子の配列を決定したところ、ウシについて過去に報告された配列の多様性の範囲内であることが示された。
145	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 9104-9114	ヘラジカのプリオン(ElkPrP)またはシカのプリオン(DePrP)を発現するトランスジェニック(Tg)マウスを作成したところ、600日齢以上でも自発的な神経学的異常は示さなかった。これらのマウスに慢性消耗病(CWD)陽性のヘラジカまたはシカの脳検体を接種したところ、Tg(ElkPrP)マウスでは180-200日後に、Tg(DePrP)マウスでは300-400日後に、発病した。発病したマウスの脳にはPrPアミロイドブラークが多数見られた。ヒト、ウシまたはヒツジPrPを過剰発現したTgマウスはCWDプリオン接種後500日以上経っても発病しなかった。
146	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2007; 81: 4305-4314	無細胞PrP変換法を用いてシカの慢性消耗性疾患(CWD)分離株に対するげっ歯類の感受性を調べたところ、一部のげっ歯類が感受性を有することが示唆された。これらの結果はCWD罹患シカの脳組織をげっ歯類の脳内に接種する実験でも確認された。シリアンゴールデンハムスターにおけるCWD分離株の継代では、平均潜伏期間が異なり、明らかな神経病理学的パターンを示す分離株を特定した。CWDは一部のげっ歯類に伝播し、少なくとも2種類のTSE分離株が存在する可能性が示唆された。
147	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol published online on 30 January 2008	非典型的BSE株の1つであるBASE(またはBSE-L)の感染性およびヒトでの表現型を調べた。BASEウシ由来の脳ホモジネートを、ヒトプリオン蛋白を発現するトランスジェニック(Tg)マウスに接種したところ、60%が20-22ヶ月後に感染し、古典的BSEに関する報告より高い感染率であった。BASE感染ヒト化Tgマウス脳における病因性プリオンのアイソフォームは、元のウシBASEまたは孤発性ヒトプリオン病のものとは異なっていた。またBASEプリオンはリンパ嗜好性であった。
148	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2007; 5: e435	ハムスター順応性283Kスクレイピープリオンで土壌を汚染し、土壌中PrPScの存在をウェスタンブロットで、生物学的活性および感染性をハムスターバイオアッセイで分析した。同プリオンは少なくとも29ヶ月以上土壌中に存在し、汚染土壌または土壌の水溶性抽出液を摂取したシリアンハムスターにおいてスクレイピーが誘発された。また土壌中PrPSc検出にはPMCA (protein misfolding cyclic amplification)反応が利用できることが示唆された。
149	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e1419	ヒトプリオン蛋白を過剰発現するトランスジェニックマウスにvCJDおよびsCJD症例由来のプリオンを脳内または腹腔内投与し、脳および脾臓における感染効率および表現型を調べた。脳内接種によるvCJD伝播は脳内でvCJDまたはsCJD様プリオンを増殖させたが、脾臓では必ずvCJDプリオンが増殖した。腹腔内投与後は神経侵襲は不十分で、無症候性の感染が起こり、脾臓でのvCJDプリオンの安定した上昇が一継続した。
150	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2007; 3: 659-667	経口的又は非経口的にスクレイピーを投与したハムスターの皮膚にPrPScが沈着するかを調べた。経口摂取したハムスターでは発症前にPrPScが検出され、発症時にはPrPScの蓄積がみられた。PrPScは皮膚の角化細胞ではなく神経線維に局在し、皮膚におけるPrPScの沈着は感染経路やリンパ組織感染に依存しなかった。神経が介在する遠心的な皮膚へのプリオン拡大が示された。更に、スクレイピーに自然感染したヒツジを調べたところ、5頭中2頭の皮膚検体中にPrPScが検出された。
151	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Prion 2007 P04.102 2007年9月26-28日	1987年8月から1998年9月にかけて出荷された計175パッチの血漿製剤中に、後にvCJDと診断された11名からの供血が含まれていたが、これらの製品に関係したvCJD症例は今までどころ全く報告されていない。これは赤血球輸血によると思われるvCJD感染が3例あることと対照的である。血漿分画製剤の製造工程によるプリオン除去効果を調べたところ、2.7~11.5log以上の除去能があることが明らかとなった。
152	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Prion 2007; 2007年9月26-28日 Edinburgh P04.51	73歳の受血者で生前に特定されたvCJDの非典型的な症状の報告である。患者は1997年12月に輸血を受けたが、供血後にvCJDを発症した供血者由来の赤血球製剤であった。輸血から6年後、受血者は疲労及び集中困難を訴えたが、神経学的検査及び脳MRIは正常であった。この6ヶ月後に神経学的症状が発現し、進行したが、血清学的検査は正常であった。MRIでは視床背側核全体の顕著な信号変化が示された。vCJDの長期潜伏期間と無症候状態は、重大な公衆衛生問題を提示する。
153	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci 2007; 104: 10998-11001	アミロイドを含有するフォアグラにアミロイド促進因子(AEF)活性があるかを調べた。市販のフォアグラから抽出したアミロイドA蛋白含有フィブリルを、二次性アミロイドーシスを起こすトランスジェニックマウス9匹に静脈内投与したところ全例で、また経口投与した場合は8匹中5匹でアミロイドの組織沈着が見られた。一方、対照群では全く組織沈着は見られなかった。加熱によりフォアグラのAEF活性は弱まったが、消失しなかった。アミロイドーシスは伝播性で、プリオン関連疾患の感染性と類似する可能性がある。

No	感染症(PT)	出典	概要
154	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	スクレイビー22L株に感染した神経芽細胞腫細胞およびFUクロイツフェルトヤコブ病原体に感染した視床下部GT細胞は直交配列で高密度な25nmウイルス様粒子を示した。この粒子は膜に囲まれた不完全結晶で、A型レトロウイルス粒子クラスターや異常PrP原線維とは別に存在し、形態学的にも異なっていた。またPrP抗体でラベルされず、ホルホルエステル処理で増加しなかったことから、プリオンではなかった。この粒子は後期PrP脳病変を誘発するTSE原因ビリオンである可能性がある。
155	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc R Soc B 2007; 274: 1497-1503	英国人消費者のBSE感染したヒツジ肉への理論的曝露を評価し、屠殺場での制御により達成されるリスク軽減を見積もる数学モデルを構築した。その結果、1頭の感染ヒツジが感染ウシ1頭に比べ10~1000倍の感染物質をもたらすと予測された。また、英国でBSE感染が続いているヒツジの群はわずか4群と95%の信頼度で推定した。組織検査に基づいた戦略、12ヶ月齢制限および危険部位の拡大よりも、6ヶ月齢制限および遺伝子型に基づいた戦略の方が感染リスク軽減に更に有効と考えられた。
156	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20070108.0081	血液および血液製剤によるCJD原因物質の伝播リスクの分析が更新された。2000年以来、フランスで発生すると予想されるvCJD症例数は低下しているが、リスク分析の最悪シナリオでは次の60年で300例となり、血液ドナー120000例中1例が感染しているという仮説を導き出す。結局、感染性のある血液ユニットを受けるリスクは120000分の1のレベルと考えられるが、適正に輸血が行われるならば、ベネフィットの方がリスクより大きい。
157	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20070305.0780	2007年2月21日、ポルトガル保健当局は同国で2例目のvCJD症例を発見したと発表した。若い女性が臨床検査により狂牛病であることが示された。1例目は2005年6月に発見された。その前年にEUは6年間のポルトガル牛肉輸出禁止措置を解除している。
158	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20070604.1812	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2007; published on line first 23 Mayに以下の論文が掲載されている。1970年以降の英国における孤発性CJDに関する系統的研究のデータを利用し、非典型的な症例を分析した。その結果、思春期の孤発性CJD2例が同定され、死亡年齢は16歳と20歳であった。1例はBSE流行の前の症例であり、2例目の特徴は、実験的伝播試験の結果も含めて、vCJDというよりむしろ孤発性であるとの診断と一致した。孤発性CJDは非常に若い年齢で発症しうることが示された。
159	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20070806.2560	2007年7月の英国SEACのposition statementによると、従来のBSEに関連したPrP ^{Sc} とは異なる生化学的特徴を示すPrP ^{Sc} を持つ新たなBSE感染牛が世界各国のサーベイランスプログラムで検出されている。L型およびH型BSE感染牛は臨床症状を示さないか古典的BSE感染牛とは異なる症状を示す。原因は不明である。他の種への感染性は脳内投与により起こることは示されているが、経口投与での感染性は不明である。
160	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20070901.2879	2007年8月30日、CDC台湾は、国立Chengkung大学病院によって報告された患者がCJDか狂牛病かを決定するために更なる検査が必要であると発表した。この患者は海外渡航歴はなく、動物の内臓を食べることを好まなかったが、長年ウシの胎盤注射を受けていた。台湾では胎盤の化粧品は許可されているが、注射は許可されていない。CDC台湾によると、今までに胎盤注射により狂牛病に感染した症例はないとのことである。
161	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080102.0014	英国で1995年にvCJD1例目が認定されて以来、英国では162例のvCJD確定または疑い死亡症例があるが、これらは全てプリオンを作る遺伝子のMM変異を有していた。しかし最近報告された39歳女性の死亡例はvCJDと似ているが、同遺伝子のVV変異型を有していた。今までに見られなかった新しい狂牛病の可能性はある。
162	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080107.0087	英国National CJD Surveillance Unitに報告された2008年1月7日現在のCJD数は、vCJD診断確定死亡症例(確定例)114名、vCJD可能性死亡症例(神経病理学的確定診断がない)48名、vCJD可能性死亡症例(神経病理学的確定診断待ち)1名で、vCJD診断確定または可能性例の死亡総数163名であった。生存中のvCJD可能性症例数は3名であった。英国におけるvCJD流行は減少しつつあるという見解に一致する。
163	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	SEAC/Position Statement 2007年6月13日	英国保健省はSEACに歯科治療処置を介したvCJD伝播のリスク概算を目的とした初期研究の知見についての助言を求めた。初期研究では、歯科処置によるvCJD伝播のリスクが予想より高いことが示唆された。ガイダンスは今年初め歯科治療用器具の使い捨てを勧告した。公衆衛生上の影響についてのより綿密な考察と、さらなるリスク減少手段の特定のため、全ての歯科治療のリスクについて詳細で包括的な評価を早急に行うことも重要である。
164	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfus Clin Biol 2006; 13: 312-316	vCJDが輸血により伝播するエビデンスがあるかを調べるために1997年に英国で試験が開始された。今までのところ本試験により、輸血によるvCJD伝播と思われる症例が3例特定された。2例は臨床症状を呈し、もう1例は臨床症状発現前の症例である。

No	感染症(PT)	出典	概要
165	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfus Clin Biol 2006; 13: 320-328	血漿製品によるプリオン感染症例は今まで見られていない。国によって対策は異なるが、vCJDやBSEのある国での疫学的調査、特定の期間にBSE発生国へ旅行したり、住んでいた人や輸血や組織移植を受けた人に対する供血症期措置、血漿中の白血球除去、複雑な産業的分画過程中的でのプリオンの除去などが行われている。エタノール分画、デプスフィльтраーションおよびクロマトグラフィーは数logのプリオンを除去できる。またナノフィльтраーションもプリオン除去に有用な方法である。
166	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2007; 47: 1418-1425	PrPTSEのmisfolded protein diagnostic (MPD)アッセイは、TSE感染マウス、正常マウスおよびPrPノックアウトマウス由来の脳組織中で、ウェスタンブロットシグナルと相関し、異なったペプチド配列を持つ試薬ではnegativeアッセイシグナルであった。血漿又は血清に対して適用した場合には、MPDアッセイは未感染の対照と比較して、種々の実験的および自然TSE感染由来検体を区別した。MPDアッセイは、ヒト及び動物のプリオン病の前臨床及び臨床診断にあたり有用であると考えられる。
167	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vaccine (2006), doi:10.1016/j.vaccine.2006.10.058	ヒトや動物におけるTSEの多様性を解明するため、PrPresの詳細な特徴が研究されている。分子学的な方法により、最近、ヨーロッパと米国の感染牛で異常なBSE型が発見され、少なくともBSE牛の何例かには別の起源の可能性が出てきた。小型反芻動物での新しいTSE型は「非典型的スクレイピー」または「Nor98」と呼ばれ、ヨーロッパの大部分の国でTSE迅速検査で同定されている。
168	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Rec 2007; 160: 215-218	カナダで乳牛のBSE感染が確定したことで、牛肉だけでなく牛乳や乳製品が病原体プリオンを含有しているかが大衆の関心事となった。このレビューは、牛乳や初乳中のプリオン、ならびに種々の動物系における垂直および水平感染に関する研究から牛乳の安全性に関するエビデンスを検討した。エビデンスは牛乳の消費による新たなvCJD感染のリスクは無視できることを示した。
169	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Virchows Arch 2007; 451: 1057-1085	リンパ器官から中枢神経系へのPrPScの神経侵襲に関する細胞の要件を明らかにするために、共焦点顕微鏡を用いて、正常およびPrPSc経口投与後マウスのパイル板、腸間膜リンパ節および脾臓内の神経支配について調べた。前臨床プリオン感染マウスではPrPSc蓄積細胞(濾胞樹状細胞)の神経支配はなく、T細胞ゾーンと細胞輸送領域で神経線維とPrPSc伝達細胞(樹状細胞)の接触が見られた。プリオンの神経侵襲過程に樹状細胞が関与する可能性が初めて示された。
170	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Zoonoses Public Health 2007; 54: 185-190	スクレイピーに感染したハムスターの脳ホモジネートをウシの胃腸管細菌叢と40時間インキュベートするとPrPScは免疫化学的には検出できないレベルにまで減少したが、このホモジネートを処理後、ハムスターの脳内に接種したところ、プリオン感染性は保持されていた。抗プリオン抗体3F4免疫反応性の消失はPrPScの生物学的不活性化と相関せず、TSE不活性化の評価にウエスタンブロットを用いることの欠点が見られた。更に、プリオン経口摂取後のPrPScを含む糞による環境汚染の可能性を示した。
171	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	農林水産省プレスリリース 平成19年12月14日 第5回プリオン病小委員会	日本において平成19年2月までに確認された32例のBSE発生事例について、感染源および疫学的研究の結果が報告された。1995-1996年生まれの北海道・関東群(13例)について、統計的には共通の飼料工場で製造された代用乳が原因となった可能性が考えられるが、オランダ産の粉末油脂を感染原因とする合理的説明は困難であった。2001年10月以後リスク管理措置がとられ、2002年4月以降は全く陽性例は発見されていない。日本はBSEの封じ込めに成功すると見込まれる。
172	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(44) 2006年11月2日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 10: 今回報告終了日-2006年10月27日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、最後のfollow-up report以降、新たなアウトブレイクは報告されていない。
173	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(46) 2006年11月18日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.11: 今回報告終了日-2006年11月13日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新たなアウトブレイク-Wyoming州、Natrona郡の農場における1件(アウトブレイクの開始日2006年10月30日):ウシにおいて疑い例60例、症例1例、ウマにおいて疑い例6例、症例1例。
174	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(47) 2006年11月23日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.12: 今回報告終了日-2006年11月20日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新たなアウトブレイク-Wyoming州、Natrona郡などの農場における3件(アウトブレイクの開始日2006年8月13日、10月30日):ウシにおいて疑い例18例、症例5例、ウマにおいて疑い例30例、症例1例。
175	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(49) 2006年12月7日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.13: 今回報告終了日-2006年12月4日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、2006年11月20日~12月3日の報告期間に、新たな水疱性口内炎陽性の施設は確認されていない。

No	感染症(PT)	出典	概要
176	ウシ膿ほう性 口内炎ウイルス 感染	OIE Disease Information 19(52) 2006年12月28日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No.14(最終報告):今回報告終了日—2006年12月26日、 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey、アウトブレイクの初回確定日—2006年8月17 日、アウトブレイクの開始日—2006年8月13日、Wyoming州および他の州において水疱性口内炎陽性の 家屋/アウトブレイクは現在確認されていない。Wyoming州における最後の水疱性口内炎陽性の家屋は 2006年12月19日に検疫から開放された。
177	ウシ膿ほう性 口内炎ウイルス 感染	Oie http://www.oie.int/wahid-prod/public.php?page=single_report&pop=1&reportid=5294	ベリーズにおける水疱性口内炎 Follow-up report No. 2(最終報告):開始日—2007年3月1日、アウトブレ イクの確定日—2007年3月14日、報告日—2007年4月24日、前回の発生日—2005年2月25日、病因—水疱性 口内炎(血清型New Jersey)、本報告における新たなアウトブレイクはない。
178	エボラ出血	CDC 2008年1月8日	CDCとウガンダ保健省は、2007年8月から始まったウガンダ西部に位置するBundibugyo地区におけるエボ ラ出血熱のアウトブレイクを報告した。2008年1月3日までに148人が罹患し、37人が死亡した。患者検体 の遺伝子解析により、既知の4つのエボラウイルス株と異なる、新たなウイルス株である可能性が示唆さ れた。確定には更なる研究が必要である。
179	エボラ出血	CDC Outbreak Notice 2008年1月31日	CDCとウガンダ保健省はウガンダ西部のBundibugyo地方におけるエボラ出血熱について報告した。ア ウトブレイクは2007年8月には始まっていた可能性があり、2008年1月3日現在、148名が発症し、37名が死 亡している。患者の検体を遺伝子解析したところ、従来の4つのエボラウイルス株とは異なる新規のウ イルス株であることが明らかとなった。旅行者に患者との接触を避けるなど注意を呼びかけている。
180	エボラ出血	CDC/Travel Notices 2007年12月27日	ウガンダ西部Bundibugyo地方におけるエボラ出血熱のアウトブレイクは早ければ2007年8月に始まった可 能性があるが、2007年12月16日時点で、124例が罹患し、35例が死亡した。患者由来検体の遺伝子解析 により、既知の4つのエボラウイルス株とは異なる新たなウイルス株が示された。CDCは旅行者にエボラ 患者と接触しないようになどの注意を呼びかけている。
181	エボラ出血	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 17123-17127	2001-2006年にコンゴ共和国Gabonで死亡した霊長類から分離したザイルエボラウイルスの糖蛋白質 (GP)の遺伝子解析を行ったところ、従来の系統(グループAおよびR)とは異なる新規の系統(グループB) に属した。2003年および2005年にコンゴで発生したヒトでのアウトブレイクで得られたGPもグループBに属 した。1996年と2001年の間に2系統の間で相換えが起こり、相換えウイルスがその後のアウトブレイクの 原因となったと考えられた。
182	エボラ出血	ProMED- mail20071003.3265	2007年10月2日、コンゴ民主共和国保健局は、Kasai Occidental地域における最近のエボラウイルス感染 により、これまで10例が死亡し、確定症例数は25例となったと発表した。更に疑い症例49例が検査中であ る。
183	エボラ出血	ProMED- mail20071020.3423	ガボンFrancevilleのInternational Centre for Medical Research所属の科学者らは最も病原性の強いザ イルエボラウイルスの検体を遺伝学的に分析した。その結果、ガボン/コンゴ民主共和国における野 生の類人猿の死体から分離したエボラウイルスの株(strain B)は、以前のアウトブレイクで感染したヒトか ら分離されたA株とは遺伝学的に異なった新たな系統であり、ウイルスの他の株と遺伝的に交流し、新た な変異型が発生した可能性があることが明らかとなった。
184	エボラ出血	ProMED- mail20071130.3869	保健当局は、ウガンダ西部において16名が死亡し、他に50名が罹患したエボラウイルスは、新規の株で あると2007年11月30日に発表した。最初の症例はコンゴ民主共和国と国境を接するBundibugyo地区にお いて11月10日に報告された。この株では出血はあまり見られず、患者は高熱の後、死亡する。
185	エボラ出血	WHO 2007年9月11日	コンゴ民主共和国の保健省はKasai Occidental地方におけるエボラ出血熱のアウトブレイクを確定した。 検査の結果、エボラウイルスが検出された。疑い症例の検体からは1型赤痢菌も検出された。2007年9月 11日現在、WHOは同地方でのアウトブレイクに関連した症例372例と死亡166例を認識している。
186	エルシニア感 染	Pharma Medica 2007; 25: 171-175	ブタの臓物を食べた後、エルシニアに感染した国内症例2例を報告する。1例は呼吸器感染症に罹患した 例で、Yersinia pseudotuberculosisが検出された。もう1例は急性回腸末端炎と診断された例で、菌の同定 はされなかったが、発症の背景と症状から本菌による感染が示唆された。両症例ともPUFX(プルリフロキ サシン)投与により治癒した。

No	感染症(PT)	出典	概要
187	エルシニア感染	Tidsskr Nor Laegeforen 2007; 127: 586-589	2006年にノルウェーで発生したエルシニア症アウトブレイクにおいて、Yersinia enterocolitica血清型O:9が分離された11例の患者について、レトロスペクティブな研究を行った。患者11例のうち9例が腸炎を有し、2例は敗血症で死亡した。11例中10例がブタの頭から作られたピクルスを食べていたことから、感染源はピクルスと推定されたが、感染源は証明できなかった。
188	クロストリジウム感染	asahi.com 2007年2月23日	千葉県内で昨年2月、58歳の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫菌」に感染し、死亡していたことが22日、国立感染症研究所などの調べでわかった。人への感染が報告されたのは世界初である。感染経路は不明だが、けがをした胸から菌が侵入した可能性があるという。通常の検査ではほかの菌と区別しにくいいため、国内でも実態を調べる必要があるとのことである。
189	クロストリジウム感染	Eurosurveillance 2007; 12(1): 070111	偽膜性大腸炎の患者からClostridium difficileの変異株が日本で初めて分離された。この株はNAP1、PCR ribotype 027、toxintype IIIであった。この株は以前、カナダ、米国、オランダ、英国、フランス、ベルギーにおけるアウトブレイクの原因として報告されている。
190	クロストリジウム感染	YAHOO ニュース (2007年2月22日 読売新聞)	千葉県の船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳代の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫菌」に感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告されたのは世界初である。気腫菌は傷口などから動物の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫」を発症させる。同センターは、「気腫菌は人には感染しないというのがこれまでの常識だった。詳しい感染経路を調べるのが今後の課題」としている。
191	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月22日 読売新聞)	千葉県の船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳代の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫菌」に感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告されたのは世界初である。気腫菌は傷口などから動物の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫」を発症させる。同センターは、「気腫菌は人には感染しないというのがこれまでの常識だった。詳しい感染経路を調べるのが今後の課題」としている。
192	クロストリジウム感染	イザ(産経新聞) 2007年2月23日	千葉県の船橋市立医療センターは22日、2006年2月に搬送され、死亡した同県内の50歳代の男性から気腫菌が検出されたと2007年2月22日に発表した。人への感染が報告されたのは初めてである。
193	クロストリジウム感染	共同通信 2007年2月22日	千葉県の船橋市立医療センターは22日、昨年2月に搬送され死亡した50歳代男性から、牛や羊などに高熱などの激しい症状を引き起こして死亡させる「気腫菌」が検出されたと発表した。この菌は土の中に多く生息するが、人への感染が確認されたのははじめてとのことである。
194	クロストリジウム感染	第37回日本嫌気性菌感染症研究会・講演抄録集 2007年3月3日	58歳男性で受傷1日前より発熱、鼻汁、咳、おう吐出現し、受傷当日39度台の発熱があった。土木作業中に鉄パイプで右前、側胸部を打撲し、翌朝打撲部の腫脹出現、疼痛増悪。肋骨2本のひびが確認された。同夜、劇症型ガス壊疽症状を呈し、死亡した。死亡直前の皮下気腫穿刺液から偏性嫌気性有芽胞グラム陽性桿菌が検出され、Clostridium chauvoeiと同定された。C chauvoeiは獣医学領域の病原菌としてよく知られているが、ヒトへの感染が報告されたのは初めてである。
195	コレラ	ProMED-mail20061128.3377	2006年10月の中国全土でのコレラ発生数は22例、死亡数0例であった。輸入症例であったか否かなど、これ以外の情報はない。
196	コレラ	ProMED-mail20070810.2603	香港Centre for Health Protectionはコレラの輸入症例(2007年8月2日にHong Kongへ帰国した30才男性)を確認した。この男性は7月4日から8月1日にインドへ旅行し、8月1日に腹部けいれんおよび下痢を発症した。検査でVibrio cholerae O1 El Tor Ogawa陽性であった。これは2007年に報告された初めてのコレラ症例である。
197	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20070621.2009	ロシアStavropol地方におけるクリミアコンゴ出血熱(CCHF)が2006年よりも2倍高い発生率を示している。2007年6月13日現在、Stavropol地方の12地域でCCHFと認定された23症例において、73%は動物との接触を介した感染であり、27%は自然界での感染であった。16例はダニによる咬傷を受け、5例は保護していない手でダニを取り除いていた。同地域では165名の入院患者がCCHFであると予備的に診断された。ダニに咬まれた小児の数が増加していることから、当局はダニ対策の重要性を強調している。

No	感染症(PT)	出典	概要
198	サルモネラ	CDC/MMWR 2007; 56(12): 273-276	2006年に米国の州保健局は農業飼料店で購入したヒヨコおよびその他の幼い家禽と接触したヒトにおけるサルモネラ感染の3件のアウトブレイクについてCDCに報告した。このアウトブレイクに関連したトリの源を孵化場まで追跡し、トリからヒトへのサルモネラ感染伝播を防止するための勧告を提供している。
199	チクングニヤウイルス感染	CDC/Traveler's Health 2007年9月11日	イタリア保健当局は最近、イタリア北東部のRavenna地方における166例のチクングニヤ熱症例(内27例は確定例)を報告した。検査の結果、同地方の蚊が感染を媒介していることが明らかとなった。ヨーロッパにおいて蚊によるチクングニヤウイルス伝播は今回が初めてである。同地方への旅行者は蚊に刺されないように準備し、また、チクングニヤ熱の症状に注意を払うべきである。
200	チクングニヤウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 147-149	最近マレーシアでは、7年間検出されていなかったチクングニヤウイルス感染が再興した。分離ウイルスのゲノム配列は、1998年のアウトブレイク時のMalaysian 分離ウイルスの配列との相同性が高かった。この感染の再興は、他のインド洋諸国における流行とは関係ないが、マレーシア特有のチクングニヤが流行する可能性が浮上している。
201	チクングニヤウイルス感染	Emerg Infect Dis. 2007; Jan; 13(1):147-9	最近マレーシアでは、7年間検出されていなかったチクングニヤウイルス感染が再興した。分離ウイルスのゲノム配列は、1998年のアウトブレイク時のMalaysian 分離ウイルスの配列との相同性が高かった。この感染の再興は、他のインド洋諸国における流行とは関係ないが、マレーシア特有のチクングニヤが流行する可能性が浮上している。
202	チクングニヤウイルス感染	Eurosurveillance 2007; 12(9): E070906.1	チクングニヤ熱は2005年以来、大規模な流行がインド洋諸島とインドから報告されているが、これまでヨーロッパ地域内での蚊による感染伝播は発生していなかった。2007年8月にイタリアのエミリア・ロマーニャ州ラヴェンナ県衛生当局は異常に多数の発熱患者発生を検知し、臨床・疫学調査を行った。血清学的検査およびPCR法でチクングニヤ熱と確定された。更にヒトスジシマカからもPCR法によりチクングニヤウイルスが確認された。2007年9月4日までに合計197名の患者が報告されている。
203	チクングニヤウイルス感染	Lancet 2007; 370: 1840-1846	イタリア北東部の隣接する2つの村で原因不明の発熱性疾患患者が多数報告され、ヒトおよび蚊由来の検体を分析した結果、チクングニヤウイルス(CHIKV)が原因であることが明らかとなった。2007年7月4日から9月27日の間に205例のCHIKV感染症例を同定した。村の親戚を訪問した時に発症したインド出身男性が初発症例と推定された。系統遺伝学的分析により、イタリアのCHIKV株はインド洋諸島での初期のアウトブレイクで分離された株と高い相同性を示した。
204	チクングニヤウイルス感染	Pediatr Infect Dis J 2007; 26: 811-815	チクングニヤウイルス感染が大流行したレユニオン島の5つの新生児医療部門で同ウイルスの母子感染を調べるため、後ろ向き記述的研究を実施した。母親は出産時に徴候があったか又は新生児が出生初日に発病したかをスクリーニングし、新生児38名を登録した。無症候の2名を除き、全母親が周産期(分娩4日前~1日後)に症状があった。全新生児が発熱(79%)、疼痛(100%)などの症状を示し、脳脊髄液のPCR法は24名中22名で陽性であった。高い罹患率の周産期母子伝播の可能性が初めて示された。
205	チクングニヤウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: 1895-1906	2005~2006年にレユニオン諸島でアウトブレイクしたチクングニヤウイルス(CHIKV)感染は、エンペロープ蛋白遺伝子の変異株(E1-A226V)が関係していた。この変異の、ネッタイシマカおよびヒトスジシマカにおけるCHIKV適合性に対する影響を調べた。その結果、CHIKVのヒトスジシマカに対する感染性が有意に増加し、哺乳動物への伝播がより効率的になることが明らかとなった。通常のベクターであるネッタイシマカがいない同地域でCHIKVが大流行したのはこの変異が原因と考えられる。
206	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20061126.3359	昨年、シンガポールに留学し、最近帰国しTaipeiに到着した13才の台湾人学生がチクングニヤであることが確認された。台湾において初めての症例である。
207	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20061129.3380	スリランカ政府は、Jaffnaにおいて急速に伝播しているウイルス性発熱はチクングニヤ熱であることを確認した。5,000例以上が感染していると疑われている。
208	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20070124.0320	2007年1月24日、保健当局は、スリランカから日本へ帰国した30代女性がチクングニヤに感染していることが確認されたと発表した。日本人がチクングニヤに感染したと確認されたのは日本において初めてである。

No	感染症(PT)	出典	概要
209	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20070531.1757	2007年5月31日、インドKeralaで約25,000人がチクングニヤの症状で入院していると保健当局は発表した。Kottayam, Pathanamthittaなどの地区では数千人以上が外来治療を受けている。この病気は蚊により拡がるが、南部地方ではここ2~3週間に蚊が大発生した。食料配給ならびに蚊帳や噴霧器の提供が承認された。
210	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20071209.3973	米GalvestonのUniv. Texas Medical Branchの研究者らが、インド洋のLa Reunion島における原因不明の疾患の原因を発見したことを発表した。研究者らは、266000例が感染し、少なくとも260例が死亡した流行疾患は、チクングニヤウイルスの単一の突然変異によるものであり、このウイルスは、以前はウイルスを保有していることが知られていなかったAedes albopictusにより伝播されることを証明した。
211	チクングニヤウイルス感染	Public Health Agency of Canada/Infectious Diseases News Brief 2007年10月5日	イタリア北東部でチクングニヤ熱のアウトブレイクが報告された。2007年7月4日-9月14日に確定例101例、疑い例133例がRavenna州で報告された。これはヨーロッパにおいて土着の感染伝播が初めて記録された事例である。
212	チクングニヤウイルス感染	The Hindu News Update Service 2007年5月31日	インドKerala州において約2.5万人がチクングニヤの症状で入院していると保健当局が述べた。熱などの症状がある数千人以上が外来治療を受けている。この病気は蚊によって広まるが、この2、3週間で南部地方では蚊が大発生した。政府は病気に罹った貧しい家族に1週間分の配給をすることを承認した。また蚊帳や噴霧器が供給される。
213	チクングニヤウイルス感染	The Jakarta Post 2007年3月7日	インドネシアのBekasiにおいてチクングニヤが98例診断された。患者数は更に増加すると予想される。健康センターの話では、先月初めの洪水後、疾患は急速に拡大している。
214	チクングニヤウイルス感染	Wkly Epidemiol Rec 2006; 81: 409-416	2006年2月から10月10日に、WHO Regional Office for South-East Asiaはインドの8州/地方の151地域がチクングニヤ熱による影響を受けたと報告した。インドから125万人を超える疑い例が報告された。
215	デング熱	ABC Newsletter 2007年7月20日	オーストラリアのクイーンズランド州北部におけるデング熱アウトブレイクにより、赤十字血液サービスは流行地に滞在した人から供血された血液製剤の廃棄を余儀なくされた。局地的アウトブレイクは3月末にSouth Townsvilleで始まったが、5月14日以降、新規症例は記録されていない。赤十字のスポークスマンによると、供血以前に同地を訪れた供血者由来の赤血球・血小板は破棄するが、血漿は使用できるとのことである。供血制限は、アウトブレイクの終息が正式に宣言されるまで継続される。
216	デング熱	Am J Trop Med Hyg 2007; 76: 1182-1188	2004年8-10月に中国Ningboでデング熱のアウトブレイクが起こり、報告された83例中68例が確定された。2例からデングウイルスセロタイプ-1が分離された。アウトブレイクはタイから戻った旅行者に関係しており、遺伝系統学的分析によりNingbo分離株はタイ由来株に密接に相関していた。無症候性住民における特異的IgGの保有率が流行地域では対照地域に比べ有意に高かった。高密度のヒトシジマカの発生がウイルスの急速な拡散の原因であった。
217	デング熱	CDC/MMWR 2007; 56(31): 785-789	2005年7月にデング出血熱(DHF)症例1例がTexas州Brownsvilleの住民において報告された。2005年8月に隣接するメキシコTamaulipas州の保健当局はデング熱症例1251例が発生しているデング熱のアウトブレイクを報告し、内223例(17.8%)がDHFであった。臨床的および疫学的調査の結果、同地域でのデング熱アウトブレイクに伴うDHF症例の割合は、2000-2004年はデング熱症例541例中20例(3.7%)であり、増加していることが明らかとなった。
218	デング熱	Channelnewsasia.com 2007年7月30日	ベトナム当局および国营メディアは、今年になってから今までにデング熱により35例が死亡し、他に約33000例が感染したと発表した。2007年1月~6月のデング熱症例数は、2006年同時期より40.5%増加した。WHOは、今年アジアでは、約1500人が死亡した1998年のデング熱流行と同等の流行が起こる可能性があることを示している。今年になってからインドネシアだけでデング熱により1000人以上が死亡している。
219	デング熱	http://www.allheadline.com/articles/7008061968 (2007年7月31日)	WHOはアジアにおけるデング熱の最悪のアウトブレイクに対して警告した。シンガポール、ベトナム、カンボジアおよび他の東南アジアの国々で何千人もの人々が感染したと報告している。カンボジアでは約25000人が感染し、300人近くの子供が死亡した。この数字は2005年の全症例数の約3倍に当たる。WHOの専門家はこのアウトブレイクが1998年に東南アジアで発生したアウトブレイクに匹敵するおそれがあると危惧している。1998年には約35万例が報告され、内1500例が死亡例であった。

No	感染症(PT)	出典	概要
220	デング熱	http://www.nst.com.my/Current_News/NST/Saturday/National/20070811090323/Article/pppull_index.html	マレーシアでは2007年にデング熱による死亡67例が記録され、2006年同時期の54例を上回った。2007年1月から8月4日までにデング熱症例が合計31279例(2006年の同期間では21117例)報告された。保健局は、アウトブレイクは環境を清潔に保ち、蚊の発生をなくさない限り、制圧されないであろうと言っている。
221	デング熱	news.gov.hk 2007年4月27日	香港のCentre for Health Protectionはデング熱の輸入症例1例を確認した。North Pointの59才女性で、2007年3月29日から4月15日にインドネシアへ旅行し、4月11日に発熱、頭痛、発疹を呈した。今年報告された6例目のデング熱輸入症例である。
222	デング熱	news.gov.hk 2007年8月11日	香港Centre for Health Protectionはデング熱症例2例(1例は輸入症例、もう1例は調査中)を確認した。1例は21才男性で2007年7月6日から8月4日にインドネシアへ旅行していた。もう1例は57才男性で、7月23日から8月1日に(中国)Macauを訪れており、感染源は調査中である。今年になってから、これら2症例の前に19例の輸入症例が報告されている。
223	デング熱	NIID/DSC/IASR 2007; 28(8): 215	台湾における2004年のデング熱報告数は1421例、2005年は1083例、2006年は2465例であった。2007年7月17日現在の患者数は568例(うち58例は輸入例)である。台湾でのデング熱流行は、6-12月初旬である。
224	デング熱	People's Daily Online 2007年5月4日	フィリピン保健局によると、同国では今年になってから今までにデング熱流行により54人が死亡し、1月から4月21日までにデング熱症例4858例が入院したとのことである。昨年同時期は5696例(内78例が死亡例)で、今年は14.7%減少した。
225	デング熱	ProMED-mail20061107.3198	2006年11月2日に、CDCは現役の軍人の初めてのデング熱症例(25才の男性)を確認し、これで2006年の台湾南部への旅行によるデング熱の6例目となった。血液検査の結果、デング熱ウイルス3型に感染している事が確定した。台湾ではこの夏以来デング熱症例は514例報告されている。
226	デング熱	ProMED-mail20061211.3493	2006年11月19日~25日に台湾においてデング熱92例が報告、このうち57例が検査確定(デング熱出血熱1例を含む)された。2006年は11月25日現在、2051例のデング熱が報告され、デング熱出血熱16例を含む、864例が確定され、2例が死亡した。確定症例数は昨年同時期に比べ234%増加した。
227	デング熱	ProMED-mail20070103.0030、ProMED-mail20070612.1912	State Secretary of Healthによると2006年にブラジルではデング熱出血熱患者は215名で、40名が死亡した。215例中44例は確定症例である。デング発生率はAndes aegypti蚊の繁殖増加と関係する。発生傾向は増加しており、2007年最初の4ヶ月におけるデング熱出血熱患者は288名で、うち死亡例は38例である。
228	デング熱	ProMED-mail20070111.0136	香港で2007年最初のデング熱輸入症例が確認された。症例は31才のTuen Munの女性で、マレーシアに2006年12月24~31日に旅行し、2007年1月2日に発熱などの症例が発現した。1月6日に入院し、現在症状は安定している。
229	デング熱	ProMED-mail20070121.0284	香港Centre for Health Protectionは、27才女性のデング熱輸入症例について調査中である。この女性は2006年11月から2007年1月12日までインドネシアへ旅行しており、13日に発熱した。2007年に報告された2例目のデング熱輸入症例である。
230	デング熱	ProMED-mail20070225.0683	インドネシアWest JavaのIndramayuの北部海岸沿いの地域においてデング熱が拡大している。特にIndramayuおよびCirebonにおいて患者数が増加している。2007年2月21日に収集した報告によると、2007年2月のIndramayuにおけるデング熱患者数は138例となり、昨年同月の患者数60例のおよそ2倍に達した。Cirebonにおけるデング熱患者数は120例に到達し、病院ではベッドおよび病棟が不足している。

No	感染症(PT)	出典	概要
231	デング熱	ProMED-mail20070320.0972	2007年3月13日アルゼンチン保健省は、最近7日間のデング熱新規症例が38例のみであったことから、デング熱アウトブレイクは抑制されたと発表した。3週間前のアウトブレイク以来、156名の感染が確認されたが、致死的な出血性変異株の患者はいなかった。3月12日にはデング様症状のため588名が医学的支援を求めている。
232	デング熱	ProMED-mail20070320.0972	アルゼンチン保健省の報告によるとデング熱の確定症例は149例で、その内3例のみが国内Formosa地方での獲得症例である。最近、最も影響を受けている北部地域では症例数は25%増加した。更に疑い例として608例が検査中である。
233	デング熱	ProMED-mail20070326.1048	ブラジル、サンパウロ州で、2007年3月14日時点でデング熱症例数は5,326例であったが、3月18日には7,808例となった。その前週の症例数は約2,000例であった。フィリピンBukidnon地方におけるデング熱症例数が5年間で最高値に達した。2007年3月20日時点におけるRegional Epidemic Surveillance Unit (Resu)の記録によれば、Bukidnon地方においてデング熱症例47例が登録されている。2006年の同時期における症例数は12例であった。
234	デング熱	ProMED-mail20070401.1116	メキシコにおいてデング熱は急激に増加している。この流行は、気候の変化(長期の雨季)、移動(移民、旅行者)、都市化、蚊抑制キャンペーンの欠如などの因子の複合により拡大している。デング熱の発生率は、2001年以降600%の増加を示した。2007年1月および2月に1,589例のデング熱症例が登録された。これは2006年の同時期と比較して389%の増加となった。2001年の全国での確定症例数は1,718例であったが、2006年には死亡例を含む症例数が27,000例以上となった。
235	デング熱	ProMED-mail20070612.1912	中国Gaungzhouに拠点をおく調査会社の従業員で、3月に東南アジア諸国における調査のため中国を出発した23人のうち11例がデング熱に罹患し、さらに2例が旅行後、検査陽性であることが2007年6月7日に確認された。
236	デング熱	ProMED-mail20070706.2156	CDCは2007年6月25日にこの夏初めての、台湾におけるデング熱土着症例を報告した。患者はTainan郡Annan地区在住の21才男性で、出血型ではなく、既に退院した。
237	デング熱	ProMED-mail20070710.2207	2007年7月6日、保健当局は台湾における今年初めてのデング出血熱土着症例を確認した。Tainanの68才女性で、治療後安定した状態である。Tainanの同じ地区においてデング熱の土着症例14例がさらに報告された。
238	デング熱	ProMED-mail20070722.2350	ホンジュラスにおいて、今年(2007年)になってから、デング出血熱により少なくとも6例が死亡し、397例が発生している。2007年7月14日までに保健当局はデング出血熱297例、死亡例5例を確定し、古典的デング熱感染は6038例であった。2006年通年のデング出血熱による死亡例は6例、症例数は72例、古典的デング熱は7800例であった。
239	デング熱	ProMED-mail20070806.2555	フィリピンNorth SamarのPambujanではデング熱症例が2007年7月3日には1例であったが、7月25日には24例に急増した。カンボジアでは2007年に約25000例がデング熱に感染し、約300例の小児が死亡した。ブラジルSao Paulo州州都では最近35日間で確定デング熱症例が526例増加し、2007年7月25日までの登録症例数は2104例となった。
240	デング熱	ProMED-mail20070816.2675	インドネシアでは2007年のデング熱症例報告数は増加しており、2005年同時期の症例数45777例の2倍となった。プエルトリコでは2007年初頭以来、デング熱確定症例2343例が報告された。これは2006年同時期の2倍以上であり、1994年の流行以降最多である。
241	デング熱	ProMED-mail20070816.2675	香港Centre for Health Protectionはデング熱症例2例(1例は輸入症例、もう1例は調査中)を確認した。1例は21才男性で2007年7月6日から8月4日にインドネシアへ旅行していた。もう1例は57才男性で、7月23日から8月1日に中国Macauを訪れており、感染源は調査中である。今年になってから、これら2症例の前に19例の輸入症例が報告されている。

No	感染症(PT)	出典	概要
242	デング熱	ProMED-mail20070821.2726	フィリピンWestern Visayasではデング熱症例が2006年と比較して163%増加した(死亡29例を含む)。2007年1月1日-8月4日にデング熱2064例が記録された。前年は776例(死亡9例を含む)のみであった。Iloilo cityにおいて今年341例と死亡例6例が報告された。前年の同市の症例数は155例(死亡4例を含む)であった。
243	デング熱	ProMED-mail20070908.2964	台湾において、2007年8月9~15日に、デング熱が新たに89例報告された。このうち44例がTainan City's East Districtの退役軍人ホームの住人である。また、中国Guangdong省Zhuhaiにおいて、最近2週間で、デング熱症例計25例が確認された。
244	デング熱	ProMED-mail20071001.3237	2007年9月30日、中国保健当局はFujian省のPutian Cityでデング熱39例が確認されたことを発表した。今までに39例中26例は治癒し、その他の患者も安定した状態である。
245	デング熱	ProMED-mail20071001.3237	2007年9月30日、中国保健当局はFujian省Putian市で39例のデング熱症例が確認されたと発表した。ベトナムでは当局の発表によると、2007年のデング熱発生率は2006年の50%以上増加した。2007年9月24日時点で約68000名が感染し、内60名が死亡した。パキスタンでは2007年9月26日、Karachiで新たに22名のデング熱症例が報告された。ラテンアメリカとカリブ海諸国ではデング熱の最悪のアウトブレイクが起こっている。
246	デング熱	ProMED-mail20071008.3312	ホンジュラス保健当局によれば、デング出血熱1060例を含むデング熱症例22123例、死亡12例が報告された。2006年の報告数を上回っている。
247	デング熱	ProMED-mail20071017.3396	WHOの東南アジア地域事務局からデング熱に関する最新の調査結果が報告された。タイでは2007年になってから40000症例以上に達し、2006年の25%増加している。インドネシア全体では100000症例で、昨年の10%増である。ミャンマーにおけるデング熱症例は約12000例であり、2006年の報告数より3分の1増加している。
248	デング熱	ProMED-mail20071017.3396	台湾Tainan city当局は2007年10月12日に、デング熱症例数が現在511例になったと報告した。過去最悪のアウトブレイクである。
249	デング熱	ProMED-mail20071112.3670	コスタリカ保健当局は2007年1月以降デング出血熱症例288例(死亡7例)が報告され、デング出血熱症例の増加が懸念されると2007年11月9日に警告した。この症例数は2006年の報告数(72例)より300%増加している。古典的デング熱症例は合計24000例報告されている。
250	デング熱	ProMED-mail20071211.3989	インドネシア中部ジャワJombangでは、2007年12月8日現在、デング熱に罹患した537例が治療を受け、内16例が死亡した。この症例数は2006年と比較して2倍以上である。増加は2007年10月以降より顕著になった。
251	デング熱	ProMED-mail20071218.4074	2007年12月12日ブラジル保健省は、2007年の11月までのデング熱症例数は536519例で、内1275例はデング出血熱で、136例が死亡したと発表した。2006年に比べ、200000例増加した。今年はデング出血熱の致死率が増加し、10.7%となったが、これはブラジル最大のデング熱流行となった2002年の2倍である。また、今年の症例の44%が10万人未満の市で発生している。
252	デング熱	Radio Taiwan International http://english.rti.org.tw/Content/GetSingleNews.aspx?ContentID=39878	保健当局は2007年の台湾におけるデング出血熱の最初の土着症例(Tainanの68才女性)を確認した。治療後、患者は安定した状態である。Tainanの同じ地区においてデング熱の土着症例14例がさらに報告された。

No	感染症(PT)	出典	概要
253	デング熱	Taipei Times 2007年6月17日	台湾で、2007年6月初旬にベトナムへ旅行したChiayi郡の5人グループのうち4人がデング熱に感染していたことが確認された。Nantou郡では5月10日から6月7日の間ベトナムに行っていた6歳の少女が、帰国した日に発熱し、デング出血熱感染症例と考えられる。今年になってから今まで36例のデング熱輸入症例が報告されている。そのうち、22例はインドネシア、9例はベトナム、3例はタイからである。
254	デング熱	TODAYonline 2007年6月12日	2007年6月6日、シンガポールのHougang在住の63歳男性が急性デング熱感染により死亡した。今年の1月から5月の間に約2014の家庭で蚊の発生が見られたが、これは昨年同時期に比べ約80%増であった。2007年に報告されたデング熱感染は2472例で、2006年同時期と比較して89%増加している。
255	デング熱	Trans R Soc Trop Med Hyg 2007; 101: 738-739	日本人のデング熱患者(28歳、女性)の血漿サンプル中ではなく尿及び唾液中でデングウイルスを検出することに成功した。発症後7、14および25日目の血漿検体中で抗デングウイルス抗体は同定されたが、デングウイルス遺伝子は検出されなかった。発症後7、8および14日目の尿、ならびに7日目の唾液からデングウイルス1型遺伝子が検出された。現在の研究の結果は、尿及び唾液中のデングウイルス遺伝子の検出が有効な診断方法、特にウイルス性出血の子供の診断方法になりうることを示唆している。
256	デング熱	WWW.XINHUANET.COM 2007年6月7日	広州に拠点を置く調査会社の従業員で、3月に東南アジア諸国における調査のため中国を出発した23人のうち11例がデング熱に罹患し、さらに2例が旅行後、検査で陽性であることを、広州保健当局は2007年6月7日に確認した。11例は4月11日から5月14日に高熱、関節痛、嘔吐および発疹を呈し、外国でマラリアと診断され、治療を受けた者もいる。最後の症例も回復し、ここ3週間疑い例も報告されていないことから、デング熱が拡がる可能性はないとしている。
257	デング熱	YAHOO!ニュース 2007年10月14日	台湾南部でデング熱が流行している。台南市当局によると2007年10月13日までに市内で511人の感染者が確認された。隣接する高雄市でも2つの区で集団感染が発生しており、感染の広がりには過去最大規模である。行政と軍が協力して大規模な蚊の撲滅作戦を展開する方針である。
258	デング熱	カナダ Public Health Agency of Canada/Travel Health 2007年8月23日	WHO Regional Office for South-East Asiaは、インドネシア、ミャンマー、タイにおいてデング熱症例数は昨年と比較して増加していると報告した。2007年7月現在、インドネシアはデング熱症例102556例を報告し、2006年同時期と比較して17%増加、ミャンマーは9578例を報告し、10%増加、タイは27582例を報告し、6%増加した。アジアおよび太平洋の他の多くの国々でも今年はデング熱が増加している。
259	トリパノソーマ症	ABC Newsletter 2007年9月14日	AABBはCDCからAABBシャーガス病バイオビジュランスネットワーク強化をするための資金を受けている。2007年9月13日現在、710名の反復反応性供血者がT. Cruziに対する抗体の追加RIPA試験を行った結果、196名がRIPA陽性、486名が無反応で、残りは結果がまだ出ていない。13の検査所がシャーガスネットワークにデータを報告し、18の検査所が同ネットワークにアクセスしている。
260	トリパノソーマ症	CDC/MMWR 2007; 56(7): 141-143	血液供血におけるTrypanosoma cruzi感染検出のための研究的アッセイを評価するために、アメリカ赤十字は2006年8月から2007年1月に米国の3つの血液収集センターで148,969の血液検体をスクリーニングする臨床試験を行った。その結果、32供血(4655例中約1例)がT. cruzi抗体陽性と確定された。シャーガス病に関する血液供血スクリーニングが広がるにつれ、保健当局はシャーガス病に関する診断、評価、管理に関する質問の増加を予測すべきである。
261	トリパノソーマ症	CMAJ 2007;177: 242	カナダ血液サービスは、2008年後半の血液製剤製造プロセス見直しの際に北緯49度以北では稀にしか見られないシャーガス病のスクリーニングを開始する。2種類のシャーガス病検査法がカナダ保健省の認可を待っている。供血血液の検査実施は、血小板製剤の製造を「バフィーコート」法に切替えてからとなる。メキシコや中南米では800万人~1,100万人がシャーガス病の保因者であり、毎年45,000人以上死亡している。カナダでは、これまでに輸血による感染が2例マニトバ州で発生した。
262	トリパノソーマ症	Reuters AlertNet 2007年4月13日	WHOによると、感染の数十年後に死亡する可能性もある寄生虫症、シャーガス病が、不適切な血液スクリーニングが原因でラテンアメリカから米国やヨーロッパに拡大している。WHOはバイエル社の支援を受けて、今や「地球規模の問題」となったシャーガス病根絶のための事業を拡大している。シャーガス病に感染している人は900万人にのぼると見られ、その多くはラテンアメリカの農村部の子どもである。最近では大規模な移民の影響で米国、スペインや他の欧州諸国に広がっている。
263	トリパノソーマ症	Transfusion 2007; 47: 540-544	神経芽細胞腫(ステージ4)を発症した3歳半の女児が複数の血液成分製剤投与を受けた後、Trypanosoma cruziによるシャーガス病と診断された。輸血された製剤の全供血者の血液を再検査したところ、初回供血者1名がT. cruzi抗体陽性であることが判明した。当該供血者は、ボリビア出身であり、17年前に米国に移住した。移住後は母国に帰国していない。本症例は、米国・カナダでの輸血によるシャーガス病感染の7例目の報告である。シャーガス病スクリーニング検査が必要であることを示している。

No	感染症(PT)	出典	概要
264	トリパノソーマ症	第48回 日本熱帯医学会大会 12C-02	日本におけるラテンアメリカ人の慢性シャーガス病キャリアーからの献血についての対策を検討した。カーミC液(CPD液)を用いてT.Cruzi感染マウス血液を4°Cにて1-21日間保存処理を行ったところ、マウスへの感染性は無処理のものと同様であったが、病原性はかなり減弱することが示された。しかし、T.Cruzi虫体はほとんどの白血球除去フィルターを通過した。現在の保存血液提供システムはシャーガス病の輸血感染防止には不十分であり、対策の改善が必要である。
265	ニパウイルス	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1031-1037	脳炎アウトブレイクの原因とリスク因子解明のため、2004年4-5月にバングラディッシュのFaridpur地区で調査が実施された。その結果、36例のニパウイルス患者が同定され、内75%が死亡例であった。ケースコントロール試験の結果、1名の患者との接触が最も高い感染リスクであることが示された。環境検体のRT-PCR試験により、病院の表面にニパウイルス汚染があることが明らかとなった。この調査により、ニパウイルスのヒト-ヒト伝播のエビデンスが示された。
266	パルボウイルス	J Gen Virol 2007; 88: 2162-2167	ヒト血漿プール中に新規のパルボウイルスPARV4とその変異株であるPARV5が存在することが最近示された。4株のPARV4と2株のPARV5のDNA配列を分析したところ、PARV5はPARV4と同様に2つのオープンリーディングフレームを持ち、PARV4とPARV5は92%近くのヌクレオチド相同性を示した。両者は密接な関係のあるジェノタイプであり、ジェノタイプ1と2(PRV5と呼ばれていたもの)から成るPARV4という1つのウイルス名を使用することを提案する。
267	パルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1756-1764	米国の血液センター7施設において2000-2003年の期間に採取した5020名の供血者由来の保存血漿検体を高感度PCRスクリーニング法を用いてパルボウイルスB19 DNAについて検査した。B19 DNA陽性率は0.88%であった。DNA陽性検体の全てがIgG陽性で、23%がIgM陽性であった。IgM血清陽性率はDNA値と相関した。
268	パルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1765-1774	B19ウイルスの不活性化機構を調べた。熱または低PHによるB19Vの不活性化はカプシド分解によるものではなく、感染性ビリオンがDNA枯渇カプシドへ変換することによって起こった。DNA枯渇カプシドは感染性はないが、標的細胞に接着することは可能であった。Parvoviridaeの他のウイルスとの比較試験の結果、被殻状態でのB19V DNAの著しい不安定性が明らかとなった。B19Vが不活化処理に抵抗性が低いのはこのためと考えられる。
269	パルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 883-889	1993-1998年及び2001-2004年の間に製造された8つの第Ⅷ因子濃縮剤の284ロットについて、in-house NAT法によりパルボウイルスB19 DNAを測定し、抗B19 IgGも併せて測定した。その結果、B19 NAT非スクリーニング血漿から調製した製剤のB19 DNAの陽性率及びレベルは高かったが、製造方法が異なると、製品間で様々であった。血漿のB19 NATスクリーニングは、最終製品中のB19 DNAレベルを下げ、大半の例で検出限界以下とさせ、B19伝播のリスクを減少させた可能性がある。
270	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 341-347	過去30~35年間に製造された第Ⅷ因子製剤中にヒトパルボウイルスが存在するかを調べた。175ロットのうち28ロットがPARV4シークエンスを含み、その内2ロットにジェノタイプ1型及び2型の両方が存在した。最大ウイルス量は10 ⁵ copies/mL以上であった。PARV4陽性の第Ⅷ因子製剤の大部分は1970年代及び1980年代に製造されていた。B19Vは175ロット中70ロットで陽性であった。
271	ハンタウイルス	Epidemiol Infect 2006; 134: 1333-1344	ドイツ南東部Lower Bavariaにおけるハンタウイルス感染の流行は2004年4月から始まった。血清学的、遺伝子的調査の結果、同地方のハタネズミ集団がPuumala virus (PUUV)の有効な宿主であることが明らかとなった。異なる4箇所から捕獲されたハタネズミに由来する部分的なPUUV-S セグメントのヌクレオチド配列は、多様性が低かった(3.1%)。このPUUV配列が2004-2005年のヒトハンタウイルス感染者数の増加の原因と考えられる新規のPUUVサブタイプの特徴である。
272	ヒトポリオーマウイルス感染	J Virol 2007; 81: 4130-4136	ヒトの気道からの検体をウイルススクリーニングし、KIポリオーマウイルスと暫定的に名付けた未知のポリオーマウイルスを同定した。このウイルスは、遺伝子のearly領域では、他の霊長類のポリオーマウイルスに系統遺伝学的に近縁であるが、late領域では、既知のポリオーマウイルスに対して相同性が少ない(アミノ酸同一性30%未満)。このウイルスは、PCRによって、鼻咽頭吸引物637例中6例(1%)と便検体192例中1例(0.5%)で検出されたが、尿及び血液検体では検出されなかった。
273	ヒトポリオーマウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: 595-604	急性呼吸器感染症に罹った患者からの呼吸分泌物中に存在する新規のポリオーマウイルスを同定し、WUウイルスと名付けた。WUウイルス遺伝子は5229bpで、Polyomaviridaeファミリーの特徴を持つ。系統遺伝学的分析から、このWUウイルスは、既知の全てのポリオーマウイルスとは異なっていることが明白となった。オーストラリア及び米国の急性呼吸器感染症患者2135例中43例からWUウイルスが検出され、地理的に広く分布していることが示唆された。
274	ブドウ球菌感染	日本組織移植学会雑誌 第6回日本組織移植学会総会・学術集会 2007年8月4日	肺動脈ホモグラフトの移植を受けた2歳男児が、術後6日に39°Cの熱発を認め、CRP、WBCも共に上昇した。術中に提供されたホモグラフト凍解片から多剤耐性MRSAが報告された。移植された肺動脈弁は凍結前の培養検査では抗生剤処理前・処理後共に陰性であったが、同ドナーの抗生剤処理前検体よりMRSAが検出されていた。MRSAまたは真菌が1検体からでも検出された場合は、同ドナーから摘出された組織は全て移植不可とすることとした。

No	感染症(PT)	出典	概要
275	ブドウ球菌感染	Ann Clin Microbiol Antimicrob 2006; 5(26): 1-4	オランダで養豚農家の家族3名、従業員3名および検査したブタ10頭中8頭がMRSA陽性であった。分離されたMRSAはMLST ST398であり、以前フランスのブタおよび養豚農家から分離されているものと同じ型であった。ヒトとブタ間のMRSA伝播が明らかになったが、地域的な問題が新規のMRSA源かを評価するための研究が必要である。
276	ブドウ球菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 2442-2447	腎移植を受けた63歳の女性がメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)による心内膜炎で入院した。分離された菌は、最近オランダのブタから高い割合で分離されたMRSA株であるシークエンス型398であった。この論文はブタMRSAによる重篤な感染についての最初の報告である。オランダ感染防止作業部会はこの株の拡大を防ぐため、リスク集団(養豚業者、食肉処理場従業員、獣医)が入院する場合にはMRSA保菌者でないことが確定するまでは隔離すべきであると、ガイドラインの修正を行った。
277	ブドウ球菌感染	Vet Microbiol 2007; 122: 384-386	後ろ向き研究により、デンマークのブタでメチシリン耐性および感受性のStaphylococcus aureus ST398が初めて検出された。検査した100頭の内10頭で鼻腔にST398が検出され、3つの養豚場の内2つが陽性であった。10のST398分離株の内9株がspaタイプt034、1株がt1793で、ペニシリンに加え、エリスロマイシン、クリンダマイシンおよびテトラサイクリンに抵抗性であった。ヨーロッパのブタでこの新しい人畜共通細菌が急速に拡大していることが示唆された。
278	ブルセラ症	ProMED-mail20070522.1632	米国Montanaの雌牛7頭が検査でブルセラ症陽性であった。もし近くの別の群れで少なくとも2頭の雌牛が来週に検査陽性となると、Montanaはブルセラ症-freeの地位を喪失することになる。
279	ブルセラ症	ProMED-mail20070806.2553	香港 Tsuen Wan の56才男性と54才の妻がブルセラ症に感染したことをCenter for Health Protectionが確認した。この男性は2007年5月に発症し、2度入院したが、現在は安定した状態である。彼の妻は同様の症状で2007年7月13日に入院し、18日に退院した。2人は2007年4月にGuangzhouに旅行した。ブルセラ症は2006年に計3例および2005年に1例報告されている。
280	ブルセラ症	J Travel Med 2007; 14: 343-345	64歳の日本人男性が6週間続く発熱で1998年6月2日に都内の病院に入院した。入院時の血液培養からグラム陰性桿菌が検出され、Brucella melitensis 2型と同定された。患者は同年3月にイラクに滞在し、ヒンジのチーズを摂取したことが明らかとなった。患者の妻(60歳)が同年5月31日から発症し、Brucella melitensisが血液と関節液の培養で検出された。イラクの帰国者からその妻へ、ブルセラ症が性感染した可能性がある。
281	ペスト	CDC/MMWR 2006; 55(34): 940-943	2006年に、米国4州(New Mexico, Colorado, California, Texas)の住民においてペスト症例が13例報告されている。5例は敗血症性ペスト、残り8例は腺ペストであった。2例の患者は2次性肺ペストを呈した。1994年以降米国において1年で報告された最も多い症例数である。
282	ペスト	The UB Post-Leading English News 2007年8月8日	モンゴルKhovsgol aimagで14才の男児が2007年8月2日に死亡し、その後腺ペスト感染であると確認されたことを受け、Tsetserlegの当局はこの男児と接触していた79人を検疫下においた。Yersinia pestisは男児が捕まえたマーモット由来であると考えられている。男児がマーモットの皮膚を取り除く際、指が傷ついていた。マーモットの死体から腺ペスト菌が検出された。
283	ペスト	Wkly Epidemiol Rec 2006; 81: 397-398	2006年10月13日にWHOはコンゴ共和国の2つの保健地区における肺ペストのアウトブレイク疑いに関する報告書を受け取った。7月31日から10月8日の間に死亡42例を含む626例の疑い例が報告された。迅速診断試験による予備的結果では8検体中3例が陽性であった。更なる確定検査が行われている。
284	ボツリヌス中毒	Eurosurveillance 2006; 11(12): E061214	2006年7月3日、オーストリア北部の公衆衛生局は入院患者4名がボツリヌス中毒症の可能性があると報告を地方病院から受け、5番目の患者も他の病院に入院したため、アウトブレイクに関する調査を開始した。調査の結果、6月25日に行われたバーベキューパーティーと関連があった。全員が自家屠殺の豚肉を食べていた。マウス中和試験によって一部の患者では毒素の存在が確認されたが、患者の大便および冷凍保存されていた豚肉からはClostridium botulinumは検出できなかった。
285	マラリア	ABC Newsletter 2007年7月6日	FDAは、初めて認証された米国のマラリア用迅速テスト、Binax NOWマラリア検査の使用を許可した。同検査は、非常に迅速で使用が簡便で、全血検体をディップスティックに2、3滴つけて15分後には結果が得られる。検査結果の確定には標準的顕微鏡検査法を用いなければならない。米国外のマラリア流行地域で行った多施設試験において、標準的顕微鏡診断と比較して当該検査の正確度は95%であった。

No	感染症(PT)	出典	概要
286	マラリア	CDC/MMWR 56(SS06); 23-38 2007 年6月8日	米国CDCは2005年に死亡例7例を含む1528例のマラリアの発症を確認した。2004年より15.4%の増加である。米国国内で感染した2例は先天性感染であり、両例とも三日熱マラリア感染であった。死亡例は全て熱帯熱マラリアであった。
287	マラリア	HPA/Health Protection Report 1(43) 2007年10月26日	2007年3月9日、HPA Malaria Reference Laboratoryは、2006年12月29日-2007年3月14日に診断された、インドGoaを訪問した英国の旅行者における熱帯熱マラリア原虫によるマラリア症例5例について報告した。熱帯熱マラリアの増加はGoaの住民で確認され、2007年の上半期に788例報告された。前年同時期においては240例であった。英国マラリア予防委員会は旅行会社がGoaへの旅行者にマラリアの化学的予防を勧めるよう2007年3月にマラリアガイドラインを更新した。
288	マラリア	ProMED- mail20070501.1414	ジャマイカ保健省によると、2007年4月の1ヶ月間に新規のマラリア症例11例が報告された。内2例は、メスのハマダラカが媒介する熱帯熱マラリア原虫によるものであった。また、2006年12月に最初の症例が報告されて以降、輸入感染症例が7例あった。2007年4月1~21日の間に実施された884検体の検査の結果、血液検体陽性率は0.7~1.8%で減少を続けている。最近、Anopheles albimanus蚊がマラチオン殺虫剤に耐性を示し始めたことが確認されたため、感染拡大を防ぐために代替りの殺虫剤を探している。
289	マラリア	ProMED- mail20070716.2287	2007年7月16日、インドGoa州の保健当局は熱帯マラリアの増加に対し懸念を表明した。同州では2007年1-6月の間に熱帯マラリア症例が約788例報告された。2006年は240例であった。同州の2007年1-6月のマラリア症例は、2006年の症例数が1552例であったのに対し、おおよそ2883例であった。
290	マラリア	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P239	韓国における輸血によるマラリア感染の発生について調査した。マラリア診断前6ヶ月間以内に供血を行った供血者は、2005年5月~2006年8月の三日熱マラリア患者2056名中46名(2.2%)であった。46名の保管血液51検体についてPCRを実施し、PCR陽性の血液成分を輸血された全受血者を調査したところ、1名の受血者に輸血によるマラリア伝播が確認された。PCRに基づくマラリア選及調査は、輸血によるマラリア伝播の特定に役立つ。
291	リケッチア症	Jpn J Infect Dis 2007; 60: 241-243	血清学的、微生物学的に確定された日本紅斑熱の初めての死亡症例を報告する。淡路島在住の77歳男性で、2005年9月2日に食欲低下を呈し、翌日、下腿に皮疹が出現、4日目に38.7°Cの高熱、歩行障害、構音障害が出現、肝機能障害が急速に進行し、DIC、消化管出血により8日目に死亡した。右肩にダニ刺し口があった。血液よりDNAを抽出し、PCRを実施したところ、塩基配列はR. japonicaと100%一致した。日本紅斑熱は増加傾向にあり、注意が必要である。
292	リケッチア症	OIE/Q fever, Argentina 2007年9月 17日	アルゼンチンにおけるQ熱-Follow-up report No. 2(最終報告): 開始日-2005年11月10日、アウトブレイクの確定日-2005年11月10日、報告日-2007年9月14日、前回の発生日-1998年、病因-Coxiella burnetii、本報告における新たなアウトブレイクはない、感染源-不明もしくは結論に到達していない。
293	リケッチア症	ProMED- mail20070809.2592	2007年5月29日にオランダ南部のNoord-Brabant地方の開業医から肺炎症例の異常な増加が保健所に警告され、詳細な診断の結果、大部分の患者はCoxiella burnetii感染に血清学的に陽性であることが明らかとなった。また、2007年1-4月に同地方で6例のQ熱症例が報告された。オランダ全体では2007年1月1日から8月2日までにQ熱の確定および疑い症例は63例報告されている。
294	リケッチア症	朝鮮日報 2007年8月 21日	韓国では最近ツツガムシ病の患者が急増している。2007年8月20日、疾病管理本部の発表によると、2002年に1,919人だったツツガムシ病の患者数が、04年は4,698人、06年には6,420人に増加したことが分かった。1993年末に法定伝染病に指定されて以来、患者数は実に25倍以上増加した。ツツガムシ病は、主に9月以降、ツツガムシ菌に感染したツツガムシ(ダニの一種)の幼虫に刺されることにより感染する。10日間程度の潜伏期を経ると、突然高熱が発生し、目の充血、頭痛、筋肉痛、発疹などの症状が現れる。
295	リンパ性脈絡 髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358 10.1056/NEJMoa0737 85	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。
296	レプトスピラ 症	ProMED- mail20070429.1395	アルゼンチンSanta Fe地方で2007年4月に同地方を襲った嵐の後にレプトスピラ症のアウトブレイクが起こった。Rosarioでは疑い例が39例あり、内3例が確定された。Santa Fe地方では約400例に達した。首都ではこの病気の症状の5例が死亡した。Rosarioでの疑い例39例は最も洪水による被害を受けた地域で発生しており、当局は洪水被害を受けた地方全域に警告を発した。

No	感染症(PT)	出典	概要
297	レプトスピラ症	ProMED-mail20070821.2725	香港Centre for Health Protectionはレプトスピラ症の症例2例(46才および52才男性)を確認し、2007年の合計は5例となった。52才男性は2007年7月20日に発症したが、2007年7月初旬に中国本土へ旅行していた。
298	レプトスピラ症	Vet Microbiol 2007; 121: 144-149	ブラジル南部のペロタスにおいて、屠殺されたヒツジから10頭分の腎臓サンプルと44頭分の血液サンプルを入手し、菌の分離を行った。16S rRNA遺伝子の塩基配列解析及び血清診断法により、血清型がAutumnalisのLeptospira noguchiiと同定された分離株が1株得られた。これは、ヒツジからLeptospira noguchiiが分離された最初の報告である。
299	レンサ球菌感染	Dtsch Med Wochenschr 2007; 132: 1098-1100	頭痛と発熱のため入院し、髄膜炎症状を示した42歳男性の脳脊髄液および血液培養からグラム陽性菌が検出され、生化学的方法によりStreptococcus suisと同定された。アンピシリンとセフトリアキソンで治療された。男性は肉屋で、手や前腕に切り傷を負うことがよくあった。S. suisによる感染はヨーロッパでは稀であるが、ブタへの職業的暴露がある場合には考慮すべきである。
300	レンサ球菌感染	http://english.people.com.cn/90001/90782/6224337.html	中国南部のShenzhen市の49歳男性がブタレンサ球菌感染と診断された。この患者は治療中であり、状態は安定しているとのことである。
301	レンサ球菌感染	Jpn J Infect Dis 2006; 59: 397-399	1994-2006年の日本におけるStreptococcus suis感染の7症例についてまとめた。全例がブタ暴露歴があり、うち5例は暴露時に手に傷があった。5例は髄膜炎症状、3例は敗血症症状を呈し、1例は突然死した。分離されたS. suisは全てLancefieldグループDおよび血清型2に属し、ペニシリンG、アンピシリン、セフトキシムおよびシプロフロキサシンに感受性があった。しかし、6例はエリスロマイシンとクリンダマイシンに抵抗性を示し、4例はミノサイクリンにも抵抗性を示した。
302	レンサ球菌感染	pigprogress.net 2007年2月21日	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。ニューヨークの健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。患者の農場のブタからもS. suisが確認された。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。
303	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070223.0668	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。ニューヨークの健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。患者の農場のブタからもS. suisが確認された。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。
304	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070517.1573	香港保健局の健康保護センターは、79歳の女性がブタ連鎖球菌に感染したことを確認した。女性は2007年5月7日に発熱し、2007年5月11日に入院したが、重体である。この患者に旅行歴はなく、家族は全く症状はなかった。この症例は、2007年における最初のブタ連鎖球菌感染報告例である。
305	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070527.1707	2007年5月26日付けSouth China Morning Postによると、香港の肉販売業アルバイトの54歳男性がこの地域で1ヶ月以内で3人目のブタレンサ球菌犠牲者となった。中国本土では2005年アウトブレイク以降、報告例はない。香港では2006年に8例報告されている。
306	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070726.2411	2007年7月25日、地方当局は中国南部のShenzhen市の49歳男性がブタレンサ球菌感染と診断されたと発表した。感染経路は不明であるが、当局は肉製品が疑わしいとしている。同市のブタでは病気は流行していない。2005年にはSichuan省では同伝染病で37人が死亡し、250人以上が感染した。
307	レンサ球菌感染	Thanh Nien News 2007年7月19日	2007年初めから現在まで、ベトナム熱帯伝染病研究所には21名がブタレンサ球菌感染で入院した。21名中2名が死亡し、他の2名が危篤状態である。

No	感染症(PT)	出典	概要
308	レンサ球菌感染	Xinhuanet 7月24日	ベトナムではブタレンサ球菌に42人が感染し、2人が死亡したため、早急な研究と対策が必要であると農業大臣が発言した。
309	灰白髄炎	ProMED-mail20061003.2830	インドではポリオが流行しており、2006年にこれまで352例が報告された。Uttar Pradeshだけで312例が報告され、Biharでは20例である。ポリオによる死亡は23例となった。
310	感染	ABC Newsletter 2008年1月11日	血液安全・安定供給諮問委員会は、米国保健社会福祉省事務局に対し、安全で効果的な輸血用血液製剤の病原体低減技術(不活化)の早急な開発を優先して進め、開発され次第実施するよう勧告した。病原体低減の効果と安全性を示すエビデンスの蓄積は、今後蔓延する可能性のある感染症に対し広く適応できるセーフガードとして、この技術の導入を保証するという決議を採択した。
311	感染	All Africa.com 2007年2月27日	コートジボワールの保健当局は北部の村で31名が死亡し、他に少なくとも73名が罹患した急性疾患を調査している。2006年12月第3週にDiobala村で人々は頭痛、高熱、頸部および胸痛、呼吸症状を伴う疾患に罹った。調査の結果、10月の初めに村の動物が病気に罹り始め、家禽の90%および約500頭のヤギとヒツジが死亡し、村人は病気の動物を食べたことが明らかとなった。
312	感染	CDC/MMWR 2008; 57(Early Release): 1-3	2007年10月29日、米国Minnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患についての報告があり、州保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、進行性炎症性神経障害症例は12例で、症状はブタ頭部処理に関わったヒトで発生した。原因は特定されていない。
313	感染	FDA/CBER 2007年7月12日	2007年6月19日付けの、ヒト細胞、組織、ならびに細胞および組織由来製品(HCT/Ps)、ドナースクリーニングと検査、ならびに関連するラベリングの最終規則に関するQ&A、FDAがこの最終規則を公表したのはなぜか、最終規則で変化した点は何かまたドナー適格最終規則とどのように異なるか、胎児ドナーのスクリーニングと検査は必要か、ドナーの検体採取時期はいつか、等の質問とそれに対する回答。
314	感染	J Hosp Infect 2007; 65: 15-23	outbreak databaseとPubMed検索、および関連出版物の参考文献検索により、1990年以降の汚染された物質に関連した院内感染(128報、患者2250名)について調査した。血液製剤およびヘパリン生理食塩液の汚染が最も報告数が多かった。病原体は血液製剤ではA型肝炎ウイルス、Yersinia enterocolitica、セラチアが、その他ではBurkholderia cepaciaやエンテロバクターが多かった。64のアウトブレイクでmulti-doseバイアルが使用されていた。
315	感染	ProMED-mail20061013.2937	インドネシアで2006年10月6日までに下痢および嘔吐を引き起こす疾患に238例が罹患し、5例が死亡した。現在DPT Limbangan Community Health Centerで患者124例が治療中である。これら症例は水源に関連している可能性がある。E. Coliが疑われるが、原因は確認されていない。
316	感染	ProMED-mail20061228.3637	インドネシア保健当局はジャカルタでここ2ヶ月間に高熱が特徴の原因不明の疾患により死亡した22例を調査している。検体はCDCセンターに送られ、検査中である。死亡例の大部分は40歳以上で、中部ジャカルタのSt.Carolus付近の中流階級住民で、2006年10月から2006年11月27日にかけて報告された。中毒の可能性もある。
317	感染	ProMED-mail20070114.0188	アリゾナでバレー熱(コクシジオイデス症)が流行している。2005年に比べ2006年は56%増加した。保健当局によると5493例が診断されたが、未報告症例数は何千例もあるとのことである。増加の原因は確定されていないが、2005年の湿った冬に続き、2006年には乾燥した月が多かったことによると指摘されている。
318	感染	ProMED-mail20070118.0230	台湾ではヒストプラズマ症はまれであり、この10年間で2~3の輸入症例が報告されているだけである。台湾で初めての固有の伝染性ヒストプラズマ症例を報告する。2005年11月に衰弱のため救急部に送られてきた78歳のリュウマチ様関節炎患者で、メソトレキセート誘起性血小板減少症と仮に診断され入院した。骨髓検査の結果、ヒストプラズマ症が疑われた。培養後、PCRアッセイによりHistoplasma capsulatumと同定された。

No	感染症(PT)	出典	概要
319	感染	ProMED-mail20070217.0597	トリインフルエンザの専門家が北バングラデシュでの3名の原因不明の死亡を調査するチームに参加しているとBSS通信社が2007年2月14日に報告した。バングラデシュでは今までトリインフルエンザの症例は報告されていない。死亡例の内、2名は夫婦である。他に2名が重症で入院中である。全員同じ村の出身である。
320	感染	ProMED-mail20070419.1284 PressTV 2007年4月18日	イラン当局によると、イラン南東部で7人が死亡した疾患の原因は依然として不明である。症状は発熱、咽頭痛、リンパ腺の炎症、全身痛であるが、コレラやH5N1トリインフルエンザではないとしている。
321	感染	ProMED-mail20070521.1627 Caboodle.hu 2007年5月21日	ハンガリーで原因不明の疾患に1家族15人が罹り、2007年5月19日にその内1人が死亡した。死亡したのはKecskemetの49歳男性で、家族のうち数名は軍隊に入っており、1名は外国にいた。高熱とインフルエンザ症状を呈し、入院した。この家族は病院で隔離されている。現在、病気を同定するための検査が行われている。
322	感染	ProMED-mail20070529.1735	中国で青耳病として知られる原因不明の疾患および口蹄疫によりブタが大量に死亡しており、豚肉の価格が高騰している。2006年半ばに1例目が発見されたブタ高熱病は、豚生殖器呼吸器症候群、古典的豚コレラおよび豚サーコウイルスの混合感染が原因とされている。最近2、3年の間に、ブタ高熱病と呼ばれる同様の感染症が中国南部でも報告されている。微生物学者による詳細調査が行われる予定である。
323	感染	ProMED-mail20070709.2189	中国北東部で2007年6月下旬以来、ギランバレー症候群が30症例報告されている。患者は全員Jilin省ChangchunのShuangyang地区の出身で、状態は安定している。この病気の正確な原因は不明であるが、専門家によると呼吸器感染または胃インフルエンザが引き金になる可能性があるとのことである。
324	感染	ProMED-mail20070909.2978	ブラジルのMarajo島で、原因不明の疾病により10日以内に子供4人が死亡したが、4歳の少女が5人目の犠牲者となった。先週死亡した小児の姉妹で、家族によると、高熱、嘔吐、痙攣といったマラリアまたは髄膜炎を示唆する症状を示した。予備検査では診断が確定しなかった。疾患を媒介する昆虫を探索中である。
325	感染	ProMED-mail20071003.3271	パナマ地域当局はNgobe-BugleのNurum地区で原因不明の病気で42人が死亡したと報告した。死亡例の大部分は小児である。病気は鼻水、咳、発熱から始まり、致死的な場合は気管支肺炎様の症状を呈する。
326	感染	ProMED-mail20071009.3318 The Telegraph 2007年10月7日	国境付近の無医地区で原因不明の病気により、7人が死亡したため、インドManipurは非常事態となった。2007年10月1-6日に国境に沿った村で病気は急速に広がったため、Morehに医療団が派遣された。患者は高熱、胃痛、嘔吐を訴え、犠牲者の幾人かは死ぬ前に痙攣と発作を起こした。原因はまだ究明されていない。
327	感染	The Himalayan TIMES 2007年3月20日	ネパール保健省は2007年3月18日に不可解な疾患により死亡した32歳の女性の報告を受け、3月19日に病院から医療・検査チームを派遣した。女性は貧血と腎不全も呈していた。村民数百人が下痢、手足の腫れを訴えている。毒素を持った細菌感染の可能性が。現在、検査中である。
328	感染	The National (http://www.thenational.com.pg/021907/nation1.htm)	パプアニューギニアのSouthern Highlands地方で女性3名が汚染された豚肉を食べて死亡した。まだ同定されていない疾病のアウトブレイクで約1000頭のブタが死亡している。ブタは首の腫れ、インフルエンザ様症状、発熱を呈し、体の一部が壊死し、数日で死亡する。他の動物種も同様の症状を呈した後、死亡した。
329	感染	Transfusion 2007; 47: 2338-2347	2007年3月29-30日、カナダのトロントで行われた病原体不活化(PI)技術に関するコンセンサス会議の報告である。近年の検査技術の発達により、現状の輸血感染症リスクは非常に低く、PIを直ちに導入する事は推奨しない。しかし新興感染症のリスクは未知数であり、PIは予防手段として重要である。広範囲の病原体を不活化できる安全な方法が確立されれば実施すべきである。

No	感染症(PT)	出典	概要
330	感染	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.2): 31	日本赤十字社(JRC)が全国的ヘモビジランス体制を導入してから14年が経過した。報告された輸血副作用症例数は年間約2000例で、過去3年間はほぼ一定である。非溶血性輸血副作用は報告症例の約80%を占め、輸血関連急性肺障害などが含まれる。輸血感染症の報告数は年々減少している。JRCのヘモビジランスは病院の自発報告に基づいており、病院と血液センターとの協力が不可欠である。
331	感染	第51回日本医真菌学会総会 2007年11月9-10日	中国で鼻周囲の肉芽腫病変を呈した36歳男性の生検組織から分離された菌が、形態学と分子生物学的検査でConidiobolus coronatusと同定された。Itraconazoleを12ヶ月間使い、完全に治癒した。患者は同真菌によるEntomophthoromycosisであった。中国で初めての報告例である。
332	感染	日本医真菌学会雑誌 2007; 48(Suppl 1): 83 第51回 日本医真菌学会総会	Conidiobolus coronatusによるEntomophthoromycosisの中国での初めての症例報告である。36歳男性で、10ヶ月前より鼻閉が生じ、7ヶ月前より鼻背部が発赤・腫脹し、診察時、鼻全体より頬部、上口唇にかけて高度の腫脹と変形を認めた。病理検査で慢性好酸性肉芽腫病変がみられ、rDNAの塩基配列分析の結果Conidiobolus coronatusと一致した。Itraconazole 12ヶ月間投与により完全に治癒した。
333	ウイルス感染	ABC News Online 2006年11月12日 ABC News Online 2006年11月15日	オーストラリアの養護施設で致死的な呼吸器疾患が発生し、2006年11月12日現在、高齢者4例が死亡し、43例が未だ罹患している。施設の患者と職員は抗ウイルス治療を受けた。11月15日現在、5例が死亡し、52例が罹患している。
334	ウイルス感染	Arch Virol 2007; 152: 1209-1213	中国で分離されたブタの脳筋筋炎ウイルス(EMCV)、BJC3およびHB1の完全な遺伝子配列を決定したところ、各々、7746および7735ヌクレオチドであった。他のEMCV株の遺伝子配列と比較すると、両株ともBEL-2887A/91、EMCV-RおよびPV21と高い相同性を示した(92.5-99.6%)。また、他のEMCV株と比べ、両株のリーダー蛋白で2つのアミノ酸変異およびBJC3のVP1で1つのアミノ酸置換が見られた。系統発生的分析の結果、両株ともサブグループEMCV-30Iに属していた。
335	ウイルス感染	Aust Vet J 2007; 85: 134-140	Menangleウイルスに自然感染した雌ブタから生まれた死産の子ブタおよび胎仔の病理学的所見を得るため、1997年6-9月の生殖病アウトブレイク中にNew South Walesの養豚場から入手した、死産した子ブタ49頭、ミイラ化または半ミイラ化した周産期胎仔35頭、中絶した胎仔6頭を剖検した。関節彎曲、頭蓋顔面および脊椎変形、肺形成不全、脳および脊髄変性がしばしば見られた。Menangleウイルスの子宮内感染は重度の骨格および神経学的奇形と関連する。
336	ウイルス感染	Canadian Blood Services 2006年12月18日	2006年12月18日付で、カナダ血液サービスは供血者が供血前に記入する供血記録の間診事項に一部修正を加える。カナダ保健局の指示により、ヒト以外の霊長類(サル、ヒヒ、チンパンジー、アカゲザル、あるいはその血液や唾液)との職業的接触に関する質問を追加した。サル泡沫状ウイルス(SFV)に関する認可された標準検査法がないため、供血者がこの質問に「はい」と答えた場合は無期限に供血延期となる。研究所で霊長類を扱う人、獣医師、動物園職員などが延期対象となるだろう。
337	ウイルス感染	CDC Press Release 2007年8月22日	米国疾病対策予防センター(CDC)と協力施設の科学者が、よく見られるアフリカフルーツコウモリ的一种において、マールブルグウイルス感染を特定することに初めて成功した。マールブルグウイルスは、ヒトや霊長類に重篤で死に至ることも多い出血熱を引き起こす。コウモリがマールブルグウイルスを保有することが疑われていたが、証拠はなかった。この研究結果はPLoS ONEに掲載された。この研究は、マールブルグウイルスの伝播についてより理解し、ヒトにおける感染拡大を予防・減少させる助力になると思われる。
338	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(45): 1181-1184	米国4州における2006-2007年のアデノウイルス血清型14(Ad14)に関連した急性呼吸器疾患に関する報告である。Ad14は稀にしか報告されないが、全ての年齢層の患者に重症で致死的な呼吸器疾患を起こす可能性がある。2006年5月にニューヨーク州で生後12日目の乳児がAd14感染により死亡し、07年3-6月にオレゴン州、ワシントン州およびテキサス州で計140名の感染患者が確認された。これらの患者から新規のAd14変異種が分離された。
339	ウイルス感染	EID 2006; 12(12)	南アフリカで2006年初めにコウモリに引っかかれた後、狂犬病様の疾患で死亡した77歳男性から、Duvnhageウイルスが分離された。その地点から約80km離れたところで、36年前にそのウイルスによるヒト感染が1例だけ報告されていた。
340	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1084-1086	成人におけるコクサッキーウイルスA-16(CVA-16)による致死性肺炎の、初めての症例報告である。本患者は心筋炎も左心室機能不全も示さなかった。患者から分離されたCVA-16株は標準株とはヌクレオチド相同性が低かったが(78.6%)、中国で1999-2004年に循環し、手足口病またはエンテロウイルス感染疑いの小児の大便中から分離された株(GenBank登録番号AY821798)と高いヌクレオチド相同性を示した(98%)。新規の、強毒性のCVA-16が出現しうることが示唆された。

No	感染症(PT)	出典	概要
341	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 165-167	中国Hunan省で2005年11月3日から2006年4月3日に下部呼吸器感染で入院した10歳以下の小児の鼻咽腔吸引物を調べたところ、252検体中21例(8.3%)でヒトボカウイルス(HBoV)が検出された。VP1遺伝子の系統発生的分析の結果、世界中のHBoVの単一の遺伝的系統が示された。
342	ウイルス感染	Eurosurveillance Weekly Release 2007; 12(4)	ドイツでは牛痘はウシにおいてはここ何年か診断されていないが、ネコで感染が増加している。最近、動物飼育員の22歳の女性とネコを飼っている25歳の女性が牛痘と確定診断されたが、両者とも牛痘で死んだネコを世話していた。ここ2年間でドイツでは4名の患者が牛痘ウイルス陽性と診断され、ヒトの牛痘感染が増加している。ドイツでは1970年代に天然痘ワクチン接種が中止されたため、牛痘ウイルスに対する免疫を持つヒトの割合が小さくなったことを反映しているかもしれない。
343	ウイルス感染	Herald Sun online 2007年4月22日	オーストラリアVictoriaで、一人のドナーから臓器移植を受けた3例が死亡した。当初、原因不明であったが、コロンビア大学の専門家の協力を得て、未知のウイルスが原因であることが明らかとなった。このウイルスは黄熱病、エボラおよびリッサ性脈絡髄膜炎の原因となるげっ歯類媒介アレナウイルス科に属していた。3例の移植患者すべての多数の検体からこのウイルスが検出された。臓器移植により伝播したと思われる。
344	ウイルス感染	IRIN 2007年9月25日	コンゴ共和国Likoula北部でサル痘が流行している。国立公衆衛生研究所の話では、62名が迅速検査で確定しているが、村民からの証言によると少なくとも150名が感染しているとのことである。患者の大部分は15歳以下の難民である。これは熱帯雨林諸国で見られる稀なウイルス性疾患であり、動物、特にサルの肉を処理する際の接触によって起こる。
345	ウイルス感染	J Clin Microbiol 2007; 45: 3008-3014	ヨーロッパでの出血熱は主にPuumalaウイルス(PUUV)またはDobravaウイルス感染による。ドイツ南東部Lower Bavariaでハンタウイルス感染患者31名について、酵素免疫測定法、免疫蛍光法、免疫プロット法による診断を行った。標準的検査による抗体のPUUV特異的タイピングができない症例が2、3あった。3名の患者の急性期血清から得たPUUV RNAをRT-PCRを用いて増幅したところ、同地域で捕獲したハタネズミから得たウイルス配列と非常に近縁であることが明らかとなった。
346	ウイルス感染	J Med Virol 2007; 79: 393-400	コンゴ民主共和国において2000-2001年に急性弛緩性麻痺の小児138名から分離された186株についてタイピングを行った。89名の患者からの分離株は非ポリオ性エンテロウイルス型で、17名の患者は1つ以上のエンテロウイルスまたはアデノウイルスに感染していた。また、非典型的なエンテロウイルス分離株が高頻度に見られた。6名の患者からの分離株には新規のエンテロウイルス型が含まれ、HEV-Bに属するEV-93およびHEV-Dに属するEV-94と名づけられた。
347	ウイルス感染	J Med Virol 2008; 80: 365-371	定期的に輸血を受けるサラセミア患者で、Torque Teno virus (TTV)の有無を調べたところ、2-20歳の患者の約10%(118名中12名)がTTV陰性であった。フェリチン、ASTおよびALT値はTTV陽性群より陰性群の方が低かった。TTV-HCV共感染群ではフェリチンおよびALT値がTTV単独感染群より高かった。輸血による高頻度かつ継続的なTTV感染はサラセミア患者における肝機能障害と相関することが示唆された。
348	ウイルス感染	PLoS ONE 2007; 8: e764	マールブルグウイルスはヒトおよび霊長類において高致死率の出血熱アウトブレイクの原因となる。ガボンおよびコンゴ共和国の5つの地区から収集された10種1138匹のコウモリを調べたところ、ウイルス特異的RNAおよびIgG抗体により、フルーツコウモリの1種であるRousettus aegyptiacusにおいてのみマールブルグウイルス感染が確認された。非霊長類動物で自然感染が同定された初めての報告であり、アフリカのこの地域に同ウイルスが存在することを示す初の報告である。
349	ウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: e64	急性呼吸器感染症に罹った患者からの呼吸分泌物中に存在する新規のポリオーマウイルスを同定し、WUウイルスと名付けた。WUウイルス遺伝子は5229bpで、Polyomaviridaeファミリーの特徴を持つ。系統発生的分析から、このWUウイルスは、既知の全てのポリオーマウイルスとは異なっていることが明白となった。オーストラリア及び米国の急性呼吸器感染症患者2135例中43例からWUウイルスが検出された。
350	ウイルス感染	PRNewswire 2007年4月21日	コロンビア大学Mailman School of Public HealthのGreene感染症研究所の科学者らによって、オーストラリアのVictoriaで、一人のドナーから臓器移植を受けた3例が死亡した原因である新規のウイルスが発見された。このウイルスはリッサ性脈絡髄膜炎ウイルスと近縁であったが、既存のスクリーニング法では検出されなかった。迅速シーケンシング技術とGreene研究所によって開発されたパイオインフォマティクスアルゴリズムによって解明された。
351	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci 2007; 104: 11424-11429	マレーシアMelakaで高熱と急性呼吸器疾患に罹っていた39歳男性から未知のreovirusが分離され、Melaka virusと名づけられた。患者の家族も発症したが、彼らは発症前にコウモリと接触していた。遺伝子配列分析により、同ウイルスは同国Tioman島のフルーツコウモリから分離されたPulauウイルスと近縁であることが示された。同島住民は109例中14例(13%)が両ウイルスに陽性であった。Orthoreovirusがヒトの急性呼吸器疾患と関係があることが初めて示された。

No	感染症(PT)	出典	概要
352	ウイルス感染	ProMED-mail 20070702.2108	2007年6月22日、ミクロネシアのヤップ保健局で集められた血液検体をCDCの研究所で検査した結果、ヤップでの最近の疾病はジカウイルスが原因らしいことが示された。ヤップのアウトブレイクは2007年4月に始まり、5月後半にピークに達し、現在も続いている。症状は斑点状丘疹、結膜炎、関節痛など軽症で、4-7日間続く。6月29日現在、42例がPCRとIgM分析によってジカウイルス感染と確定された。死亡例はない。
353	ウイルス感染	ProMED-mail 20061112.3249 ABC News Online 2006年11月15日	オーストラリアのCanberra養護施設で致死的な呼吸器疾患が発生したが、この施設は保健当局とともに、この原因不明の疾患の制圧を行っている。施設の患者と職員は抗ウイルス治療を受けた。11月15日現在、5例が死亡し、52例が罹患している。
354	ウイルス感染	ProMED-mail 20070113..0179	中国Jiangsu省で流行性出血熱の患者2例が報告された。患者は治療のためNanjingの病院に入院中である。このタイプの感染症は冬と春毎に発生し、そのウイルスはげっ歯類によって広がるので、住民はげっ歯類に対する対策をとらなければならない。
355	ウイルス感染	ProMED-mail 20070216.0586	西オーストラリア保健当局は、東Kimberleyと東Pilbara地区で蚊が媒介するウイルスの証拠が見つかったとして、西オーストラリア北部に居住あるいは滞在中の人々に、蚊に注意するよう呼びかけた。西オーストラリア大学が実施するサーベイランスプログラムによって、今年の雨期に初めてクンジンウイルスが確認された。クンジンウイルスは、蚊によって媒介されるウイルスで、マレーバレー脳炎(MVE)ウイルスと同じグループに属する。
356	ウイルス感染	ProMED-mail 20070216.0596	ペルーの地方保健局長官は、Cuzco県La Convencion郡で黄熱による死亡例3例が発生したと報告した。Cuzcoの保健当局によると、このうち1例はMatoriato地区で発生したとのことである。当局は、La Convencion郡に向かう人全員を対象とした黄熱のワクチン接種キャンペーンを含む危機管理計画の策定を決定した。
357	ウイルス感染	ProMED-mail 20070423.1325	オーストラリアのVictoriaで、一人のドナーから臓器移植を受けた3例が死亡したが、未知のウイルスが原因であった。このウイルスはリンパ性脈絡髄膜炎ウイルスと近縁であったが、既存のスクリーニング法では検出されなかった。454 Life Sciencesによって確立された迅速シーケンシング技術とGreene Laboratoryによって開発されたバイオインフォマティクスアルゴリズムによって発見された。
358	ウイルス感染	ProMED-mail 20070930.3228	オーストラリアQueensland州で蚊が異常発生し、ロスリバーウイルスが拡大している。通常は北部の熱帯地域で優勢であるが、Brisbane南部における過去4週間の感染者数は、昨年(2006年)同時期のほぼ450%である。Queensland保健局の発表によると、過去4週間に報告された感染者数は93例であった。
359	ウイルス感染	Res Vet Sci 2007; 83: 130-132	メキシコシティの田舎の裏庭で飼育されているブタにおけるブタサーコウイルス2型(PCV2)の血清有病率を調べるため、7地区の108の小規模家族農場から得られたブタ血清検体695例を検査した。108農場中106(98.14%)で少なくとも1例の陽性検体が検出された。PCV2抗体に対する抗体価は、軽度136例、中等度264例、高度248例で、抗体陰性は53検体(7.63%)のみであった。メキシコシティの裏庭ブタでPCV2は広汎に分布していることが明らかとなった。
360	ウイルス感染	Transfusion 2007; 47: 162-170	輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。感染ザルの血液を非感染ザルに輸血したところ、輸血されたザルの血液から8週後にプロウイルスDNAが検出され、その1週間後にセロコンバージョンが起こった。血しょう中に検出限界下限のSFVが検出された。また感染29週目に唾液中にSFVが検出された。輸血によりSFVが感染することが初めて示された。
361	ウイルス感染	Transfusion 2007; 47: 1972-1983	供血者血漿検体中のサイトメガロウイルス(CMV) DNA陽性率を検討した。過去にCMV血清陰性で初めて抗CMV IgG陽性を示した供血者82名の血漿検体44%が反復的にCMV DNA陽性であった。1年以上血清反応陽性または血清反応陰性供血者はいずれもCMV DNA陰性であった。白血球除去の実施にもかかわらず、新規血清反応陽性供血者のウイルス血症は輸血伝播性CMVの残存リスクの重要な原因と考えられる。
362	ウイルス感染	Virus Res 2007; 126: 256-261	1988-2003年の韓国における古典的ブタ高熱病(CSF)アウトブレイクで得られたCSFウイルスの分離体24株についてE2遺伝子の一部(190ヌクレオチド)を解析し、他の国で報告されているCSFウイルスと比較した。系統遺伝学的分析の結果、1988-1999年の分離体はサブグループ3.2に属し、他の国とは異なる独立したクレードを形成したが、2002-2003年の分離体は中国と台湾で報告されたCSFウイルスと近い関係にある2.1に属し、近隣国からの新しい株によるものと考えられた。

No	感染症(PT)	出典	概要
363	ウイルス感染	WHO/EPR 2007年8月3日	ウガンダで29歳男性がマールブルグ出血熱と確定診断された。この男性は2007年7月4日に発症し、7月7日に入院し、7月14日に入院した。この男性は6月27日に同様の症状を発症し、入院した職場の同僚の介護を行っていた。調査の結果、この職場では他に感染疑いが1例確認され、また6月中旬に病氣となり、その後、回復した人が2例いた。
364	ウイルス感染	Wkly Epidemiol Rec 2007; 82: 169-178	2006年12月21日にケニアで10例の患者がリフトバレー熱(RVF)と確定診断され、WHOは翌日、警告を発した。ケニアでは2006年11月30日～2007年3月12日に死亡155例を含む684例が、ソマリアでは2006年12月19日～2007年2月20日に死亡51例を含む114例が、タンザニアでは2007年1月13日～2007年5月8日に死亡117例を含む290例が報告された。ヒトへのRVF伝播の最も重要な暴露因子はウイルス血症の動物(ヒツジ、ヤギ、ウシ、ラクダ)の血液および体液との接触であった。
365	ウイルス性脳炎	Neurology 2007; 69: 156-165	同種造血幹細胞移植(HSCT)後に急性大脳辺縁系脳炎を発症した患者9名の臨床、EEG、MRI、ならびに臨床検査特性を調べた。患者は、順行性健忘、不適切な抗利尿ホルモン分泌症候群、軽度CSF多球症、一時的なEEG異常を特徴とした。MRIでは、T2、FLAIR、DWI画像にて、鉤、扁桃核、内側嗅頭、海馬領域内に高信号域を認めた。PCRを用いた初回腰椎穿刺CSFの検査では9名中6名がHHV6陽性であり、同脳炎はHHV6と関連がある可能性が示唆された。
366	肝炎	Med Mol Morphol 2007; 40: 23-28	ALTが高く、HCV抗体とB型肝炎表面抗原が陰性である供血者からの血漿検体中のウイルス様粒子(VLPs)を視覚的に捉えようと試み、また、このVLPsと非経口的に感染するGBV-C/HGVの遺伝子との関係を調べた。その結果、循環血液中のVLPsの検出率は、有意にALTレベル上昇と関係(P<0.001)していたが、VLPsを含む血漿のいずれにも、GBV-C/HGV RNAは検出されなかった。電子顕微鏡で球状のVLPsが確認され、それらが非B非C型肝炎に関係していることが示唆された。
367	寄生虫感染	Int J Med Microbiol 2007; 297: 197-204	ドイツにおけるヒトバベシア症の初めての症例を報告する。患者は結節性リンパ球性ホジキンリンパ腫が再発し、脾臓摘出されたドイツ人の63歳男性で、リツキシマブ投与後、貧血とヘモグロビン尿による暗色尿のため入院した。末梢血塗抹標本で梨状の寄生虫赤血球封入体が確認されバベシア症と推定され、Babesia特異的18S rDNA PCRによって確認された。シーケンス分析によりEU1と99.7%の相同性があり、EU3と名づけられた。寄生虫が消えるまでにはatovaquoneによる長期治療を要した。
368	寄生虫感染	第66回日本寄生虫学会東日本支部大会(2006.10.21) 一般講演21	20頭のリスザルを飼育する日本国内A施設において死亡したリスザル11頭を病理学的に検索したところ、4頭の雄にEncephalitozoon cuniculi原虫が確認された。また輸入直後サル14頭中1頭に原虫が確認された。国内15施設の266頭の血清を調べたところ、9施設で抗体陽性サルが確認され、陽性率は14.3～100.0%であった。輸入直後の93頭中5頭(5.4%)が抗体陽性であった。国内リスザル施設に予想以上にE. cuniculiが浸淫していた。
369	狂犬病	ProMED-mail20061118.3303	2006年11月17日、京都府の保健所は、京都市の60歳代の男性がフィリピンで犬にかまれ、帰国後に狂犬病を発症して死亡したと発表した。厚労省によると、日本人が国内で狂犬病を発症したのは36年ぶりである。厚労省によると、男性はフィリピン滞在中の8月末に野良犬にかまれ、11月1日に帰国した。9日に風邪のような症状で京都市内の病院を受診した。その後、幻覚症状、水や風を怖がるなど狂犬病特有の症状を発症した。国立感染症研究所が調べたところ、男性の唾液から狂犬病ウイルスが検出された。
370	狂犬病	ProMED-mail20070204.0449	中国Beijing市保健局は2007年2月2日に、BeijingのDashing地区の農業労働者が狂犬病で死亡したことを発表した。本症例はBeijingにおいて2007年に報告された初めての狂犬病症例である。2007年1月初めに、この農業労働者は野良犬(シェパードの子犬)を発見し、捕獲中に指を咬まれた。咬まれてから約4週間後の1月30日に咬まれた部位に不快感を感じ、翌日の1月31日、狂犬病疑いと診断された。同日、典型的な狂犬病症状を呈し、2月2日に死亡した。
371	狂犬病	ProMED-mail20070305.0782	中国Hunan省では2007年最初の2ヶ月で61人が狂犬病で死亡した。同省では2006年には443人が狂犬病で死亡した。狂犬病は昨年は中国で最も死亡者の多い感染症である。ワクチンを接種していないイヌは処分すべきであるとしている。
372	狂犬病	ProMED-mail20070323.1011	カナダで、公衆衛生当局はWoolwich Townshipにおいて動物4例(ウシ2頭、ウマ1頭、スカンク1匹)が検査で狂犬病陽性であったことを確認した。これらの動物は全て処分された。6人が感染した家畜に接触したおそれがあり、狂犬病ワクチンで治療されている。このアウトブレイクの原因は狂犬病のスカンクである。
373	狂犬病	ProMED-mail20070612.1917	2007年5月の中国における狂犬病による死亡者は201例で、致死的な感染症の中で最も死亡例が多かった。結核が第一位になった3月を除いて、最近13ヶ月間は狂犬病による死亡者数がトップである。

No	感染症(PT)	出典	概要
374	狂犬病	ProMED-mail20070725.2390	2007年7月上旬に、中国Beijingで男性1例が狂犬病の流行による犠牲者となった。中国では狂犬病が最も致死的な感染症であり、毎月200人以上が狂犬病により死亡している。中国では1996年の狂犬病による死亡数は163人であったが、2006年は3215人であった。
375	狂犬病	ProMED-mail20071030.3515	米国Virginia州Hanover Countyでは2007年になってから今までに、29例の狂犬病確定症例が確認され、2006年度の2倍以上である。うち2例はネコ、ウシであった。原因の一つとして、動物の生息地の近くにヒトが住むようになったことを挙げている。
376	狂犬病	YOMIURI ONLINE (2006年11月17日 読売新聞)	2006年11月16日、厚生労働省は、京都市の60歳代の男性がフィリピンで犬にかまれ、帰国後に狂犬病を発症したと発表した。厚生労働省によると、日本人が国内で狂犬病を発症したのは36年ぶりである。男性はフィリピン滞在中の8月末に野良犬にかまれ、11月1日に帰国した。9日に風邪のような症状で京都市内の病院を受診した。その後、幻覚症状、水や風を怖がるなど狂犬病特有の症状を発症した。国立感染症研究所が調べたところ、男性の唾液から狂犬病ウイルスが検出された。
377	狂犬病	YOMIURI ONLINE (2006年11月22日 読売新聞)	2006年11月22日、厚生労働省は、フィリピンで犬にかまれた横浜市の60歳代の男性が狂犬病を発症したと発表した。男性は重体。今月17日には、やはり、フィリピンで犬にかまれた京都市の男性が、国内では36年ぶりに狂犬病で死亡している。同省では「海外で犬などにかまれたら、速やかにワクチン接種をしてほしい」と呼びかけている。フィリピンでは年間250人前後が発症。WHOの推計では、狂犬病による死者は世界で年間5万5000人に上り、インド、中国などで特に多い。
378	結核	Emerg Infect Dis 2007; 13: 380-387	第二選択抗結核剤6クラスのうち3つ以上に耐性を示す多剤耐性結核を広範囲薬剤耐性結核(XDR TB)と定義し、2000年～2004年のSupranational Reference Laboratoriesのネットワークを調査した。48カ国からのMycobacterium tuberculosis分離株17,690のデータが提供され、多剤耐性分離株3,520のうち、347(9.9%)がXDR TBであった。
379	結核	NIKKEI NET いきいき健康 2006年12月5日	既存の治療薬がほとんど効かず、世界保健機関(WHO)が警戒を呼び掛けている「超多剤耐性」の結核菌が、国内でも入院患者の0.5%から検出されたことが、結核研究所の調査で明らかになった。2002年6月から11月にかけて国内99の結核治療施設の入院患者3122人から採取した結核菌を分析した結果である。検出例の半数は薬の服薬歴がなかったことから、他の患者から感染した可能性が高い。
380	結核	ProMED-mail20061009.2896	2004年後半に英国Birmingham近くのナイトクラブにいた6人がウシ結核に感染した。アウトブレイク源として1名が特定され、感染した女性1名が死亡した。これはここ数十年で初めての英国におけるウシ結核のヒトヒト伝播の報告であり、ウシにおける感染率の増加と一致している。英国のウシのほぼ1%は結核のキャリアであると思われる。今回の感染者にはHIV陽性者や同化ステロイド使用者が含まれ、易感染者であったと考えられた。
381	結核	ProMED-mail20061101.3131	2006年11月1日、米国ミネソタ州動物保健局は、同州で7番目の群れでウシ結核が発見されたと発表した。Beltrami郡のウシ1頭がウシ結核であることが確認された。感染したウシの群れから1マイル以内でハンターによって殺されたシカの内、2頭が検査でウシ結核陽性であった。
382	結核	ProMED-mail20070206.0470	1974年以来初めて、コロラド州でウシ結核症例1頭が報告された。そのウシはTexasの食品加工施設に売られていた。結核は死体の日常的検査中に肺で発見された。そのウシの肉は出荷してはいない。ウシ約660頭の検査が行われた。
383	結核	ProMED-mail20070306.0787	米国ニューメキシコ州Eddy郡でウシ結核の確定症例が報告された。感染した乳牛は屠殺場で行われる日常的検査で発見された。また、同州北東部のウシの群れが結核に暴露した可能性のため監視下に置かれている。
384	結核	ProMED-mail20070501.1420	2007年4月27日、米国Oklahoma州Cimarron郡の食用ウシ1100頭の群における結核感染が確認された。群全体の検査でさらに感染した1頭が発見され、この雌牛は7～10年間その群れで飼育されていたと思われる。近隣の群れを検査する予定である。

No	感染症(PT)	出典	概要
385	結核	ProMED-mail20070619.1980	米国New Mexico州Curry郡のウシの群れにおいて、ウシ結核が検出されたと、州当局が2007年6月14日に発表した。群れの正確な規模は不明であるが、少なくとも24頭である。
386	結核	ProMED-mail20070728.2430	中国当局は飛行禁止令を無視した台湾の結核患者2人を突き止めた。台湾CDCは2007年7月28日に発表した。多剤耐性結核の55歳男性と通常の結核である57歳の妻は、2007年7月25日に台湾Kaohsiungから香港へ飛行機で移動し、それから中国Nanjing行きの飛行機に乗った。当局はこの夫婦と機内で彼らの近くに座った乗客を追跡した。この夫婦はJiangsu東部で2007年7月27日に発見され、病院へ移された。
387	結核	ProMED-mail20070817.2690	これまでに動物2例においてウシ結核陽性が発見された調査の一部として、米国Colorado州の雄牛がウシ結核のキャリアであるかどうか決定するための死体解剖が実施された。試験は来週(2007年8月20-24日)に完了する予定である。このウシは陽性であった他のウシとは異なる群れで発見された。
388	口蹄疫	China View 2007年4月25日	ベトナム北部のThai Nguyen 省とQuang Ninh 省において口蹄疫が拡大している。Thai Nguyen 省のDai Tu 地区において4月12日から口蹄疫が発症しており、6頭のウシと水牛、14頭のブタが影響を受けた。さらに、Quang Ninh 省のBa Che とTien Yen の2地域は4月5日から、27頭のウシと水牛、14頭のブタが影響を受けた。現在、口蹄疫は5つの省の12地域で拡大している。
389	口蹄疫	OIE 2007年3月15日、OIE Foot and mouth disease 2007年3月7日	朝鮮民主主義人民共和国政府からの要請を受け、FAOとOIEは1960年以来、同国で初めて発生した口蹄疫を調査するために調査団を派遣する。2007年3月7日にOIEが北朝鮮から受け取った報告によると、2007年1月10日に口蹄疫(セロタイプ O型)が発生した。ウシにおいて、疑い例466例、確定例431例、処分486例、ブタにおいて、疑い例2630例、処分2630例である。抗生物質による治療がされた。またワクチン接種が計画されている。
390	口蹄疫	OIE Disease Information 2006年11月16日、2007年1月19日、2007年1月30日、2007年2月2日、2007年2月15日、2007年2月28日	中国における口蹄疫(セロタイプ アジア1)の発生は2006年10月17日から11月16日にかけてChongqing 省Wanzhou郡でウシ疑い例13例、症例3例、処分13例、ブタ疑い例72例、処分72例、Gansu省Yongdeng郡でウシ疑い例181例、症例9例、処分181例であった。その後2007年2月28日までに、Gansu省Doucheng、Xinjiang省Xinhe、Gansu省Jintai、Qinghai省DatongおよびHuangyuanで家畜における感染が確認された。
391	口蹄疫	OIE Foot and mouth disease 2007年2月5日	エクアドルの農場の家畜で2007年1月28日に口蹄疫(セロタイプ O型)が確認された。ブタにおいて、疑い例120例、症例5例、死亡例1例、ウシにおいて、疑い例26例、ヤギにおいて、疑い例10例である。感染源は不明である。新規のアウトブレイクは確認されていない。
392	口蹄疫	Oie http://www.oie.int/wahidprod/public.php?page=weekly_report_index&admin=0	2007年3月9日、エクアドルのImbabura 県Ibarraにおいて、口蹄疫ウイルスO型のアウトブレイクが発生した。都市部の屠殺場において、市場出荷される予定であった様々な動物が影響を受けた。ブタは疑い例63頭、確定例4頭で、63頭が屠殺された。ウシは疑い例134頭で、134頭が屠殺された。2007年3月15日にはImbabura 県Antonio Anteで発生し、ブタ疑い例15頭、確定例6頭、死亡例4頭で、11頭が屠殺された。2007年6月6日にアウトブレイクは終了した。
393	口蹄疫	Oie http://www.oie.int/wahidprod/public.php?page=weekly_report_index&admin=0	中国国内において口蹄疫血清型Asia 1の感染が拡大しつづけている。発生日2007年1月15日、確定日2007年1月17日、前回の発生2006年11月。2007年5月12日、Gansu省YuzhongのHongliugouにおいて、ウシ39頭が疑い例、10頭が確定例で、39頭が処分された。さらにブタは32頭が疑い例で、32頭が処分された。
394	口蹄疫	Oie http://www.oie.int/wahidprod/public.php?page=weekly_report_index&admin=0 Thanh Nien 2007年7月4日、2007年7月6日	ベトナムで2007年6月11日に口蹄疫血清型Asia 1が発生し、6月13日に確定された。Quang Tri 省で15のアウトブレイクが発生し、合計でウシ477頭が疑い例、373頭が確定例で、375頭が処分された。ブタは11頭が疑い例、9頭が確定例で、9頭が処分された。
395	細菌感染	ABC Newsletter 2007年4月13日 21ページ	2004年度から2006年度にかけて米国食品医薬品局(FDA)に報告された輸血関連副作用による死亡症例数である。3年間の合計は219例で、内訳はTRALI86例(39.3%)、その他の副作用(ABO不適合以外の溶血反応、輸血関連心過負荷、細菌感染、アナフィラキシーなど)67例(30.6%)、細菌感染20例(9.1%)、ABO不適合による溶血反応15例(6.8%)、輸血が原因である可能性が否定できない症例31例(14.2%)となっている。

No	感染症(PT)	出典	概要
396	細菌感染	ABC Newsletter 2007年9月21日	FDAは輸血前の血小板中の細菌汚染を検出するための初めての迅速検査を販売承認した。Verax Biomedical Inc 製造のPlatelet Pan Genera Detection Test Systemは病院の輸血部で使用するための使い捨て検査機器である。
397	細菌感染	American Society for Microbiology 107th Annual Meeting; L-004 2007年5月21-25日	日本の三次医療施設である自治医科大学病院(病床数1082床)において、2006年4月1日～8月31日に、患者28名の血液培養から <i>Bacillus cereus</i> が検出された。リネン類の汚染と末梢静脈ラインの不適切な取り扱いが原因であると考えられた。一時的にリネン類のオートクレーブ処理を行い、洗濯機を洗浄し、末梢静脈ライン管理について職員の教育を行ったことで、 <i>B. cereus</i> 陽性血液培養はその後検出されなかった。
398	細菌感染	Ciencia Rural 2007; 37: 171-174	ブラジルRio Grande do Sulの11農場から集めた乳腺炎疑いの雌牛のミルク188検体で細菌学的検査を行った。黄色ブドウ球菌が最も高頻度に分離され、次に <i>Corynebacterium</i> spなど通常の原因菌であった。ある農場の32検体中6例では通常の原因菌は検出されず、 <i>Arcobacter</i> sppが分離され、これらの検体は乳腺炎の症状のないウシのミルクであった。ブラジルで雌牛のミルク中に微生物が検出された初めての報告である。
399	細菌感染	Clin Infect Dis 2007; 44: 1408-1414	2005年3月、米国ネブラスカ州の病院で複数の病室において、無針静注カテーテルコネクタールバルブが導入された時期に血流感染の急激な増加が見られた。一次血流感染について調査を行ったところ、一次血流感染と無針静注カテーテルコネクタールバルブの使用との間に有意な関連性が認められた。細菌培養を行った37個のバルブのうち24.3%から微生物が検出され、主にコアグララーゼ陰性ブドウ球菌であった。無針コネクタールバルブの評価には市場導入前に感染リスクの査定を含めるべきである。
400	細菌感染	http://as.baikal.tv/news/new.html?newsid=200612306	ロシア、イルクーツクの農場経営者の話によると、ここ数ヶ月で数千頭の動物が敗血症で死亡したとのことである。感染はこの地方全域に拡大した。獣医は住民の健康状態を懸念しており、認可を受けていない市場で精肉を購入しないように呼びかけている。死んだウサギは予防接種をしていなかった。
401	細菌感染	Int J Hyg Environ-Health 2006; 209: 553-556	イタリアAnconaの病棟で入院中に少なくとも1回の38°C以上の発熱をした患者4名から、同じ抗菌剤感受性を持つ緑膿菌が分離されたため、調査を行った。ヘパリンと生理食塩水の混合液から緑膿菌が分離され、患者の血液検体から分離された緑膿菌と同一のPFGEパターンを示した。消毒液、生理食塩水、密閉されたヘパリン液バイアルは全て陰性であり、混合されたヘパリンと生理食塩水を数日間使用したことによるカテーテル関連血流感染であることが明らかとなった。
402	細菌感染	J Eur Acad Dermatol Venereol 2007; 21: 818-821	2000-2004年にパリの性病クリニックに紹介された患者におけるキノロン耐性淋菌(QRNG)感染率を評価した。淋菌症例数は2000年(41例)から2002年(12例)に減少したが、2004年には60例となり増加に転じた。QRNG感染率は2000-2002年に1.3%、2003年に22.7%、2004年には30.2%であった。QRNG感染率は男性とセックスをする男性やHIV感染者で高かった。
403	細菌感染	J Support Oncol 2007; 5: 273-278	中心静脈カテーテルを有する患者246名を無作為に、ヘパリンコートカテーテルで生理食塩水を注入する群(ヘパリンコート群)または非コートカテーテルで低用量の未分画ヘパリンを注入する群(対照群)に割り当て、無作為対照試験を行った。カテーテル関連血流感染はヘパリンコート群では2.5%(3/120カテーテル)、対照群では9.1%(11/120カテーテル)で起こり、有意な差が見られた。出血は両群で差がなかった。ヘパリンコートカテーテルの使用はカテーテル関連血流感染を防ぐのに安全かつ有効な方法である。
404	細菌感染	N Engl J Med 2007; 356: 2381-2387	ペルーに旅行した後、熱および脾腫を呈し、 <i>Bartonella bacilliformis</i> に似た微生物による菌血症となった患者の血液検体を培養し、分離菌を調べた。遺伝子解析により、この分離菌は <i>B. clarridgeiae</i> に近縁で、 <i>B. bacilliformis</i> に遠縁の新種であることが明らかになり、 <i>B. rochalimae</i> と名づけられた。この分離菌を赤毛ザルに接種したところ、3日目に発熱し、7日目にヘマトクリット値が減少し、14日目に菌血症となった。
405	細菌感染	Nephrol Dial Transplant 2007; 22: 471-476	血液透析ユニットで中心静脈透析カテーテルのロッキング液として使用していたヘパリン10000 U/mlを4%クエン酸ナトリウムに切り替え、前後1年間の結果を分析した。カテーテル交換率、INFアッセイ干渉率、rt-PA有効率、菌血症率および年間コストについて調べた。カテーテル交換率、rt-PA有効率および菌血症率は両群で有意差は無く、クエン酸ナトリウムの薬物経済学的利点が支持された。更に、クエン酸ロックはヘパリン関連出血合併症がなく、INRアッセイの信頼性を改善した。
406	細菌感染	Nephrol Dial Transplant 2007; 22: 477-483	4%クエン酸とヘパリンロッキングの臨床的効果、安全性およびコストをprospectiveに比較検討した(クエン酸群:患者129名、177カテーテル、ヘパリン群:患者121名、176カテーテル)。中心静脈カテーテル交換率、血栓溶解剤(TPA)使用および関連入院期間について、クエン酸群はヘパリン群と比較して同等かもしくはより優れた結果を示した。カテーテル関連細菌菌血症率はクエン酸群の方が有意に低かった。クエン酸は安全でより安価な代替品である。

No	感染症(PT)	出典	概要
407	細菌感染	ProMED-mail20070108.0079	チェコBrnoでリステリア症の原因菌によりここ2週間で2名の女性が妊娠20週目に流産し、もう1例ではリステリア症が新生児に伝播したが、その子供は生き残った。感染経路は不明であるが、3名とも熟成中のチーズが好物とのことである。同国では以前このチーズ中に病原菌が発見された。同国では2006年には8名がリステリア症で死亡し、計62名がリステリア症と診断された。2005年の4倍以上であった。
408	細菌感染	ProMED-mail20070226.0696	中国Heilongjiang省で1年以上前に始まった奇病で1000人以上の労働者が解雇された。300名の患者がまだ病院で治療中である。感染源は政府が彼らのために購入したヒツジであると労働者たちは主張している。検査の結果、ヒツジがブルセラ症の宿主であった。
409	細菌感染	ProMED-mail20070809.2584	米国Vermontではシカダニ(クワアシダニ)によって伝播される感染症であるライム病の報告症例数が過去2年で2倍となった。2005年は29例、2006年は62例で、今年(2007年)は今までに71例が報告されている。症例は同州の南部に集中している。
410	細菌感染	Public Health Agency of Canada/Infectious Diseases News Brief 2007年7月27日	英国において2007年上半期のライム病確定症例数は198例であり、2006年同時期の194例と類似していた。2006年通年の暫定的な総報告数は768例で、1997年にサーベイランスが導入されて以来、3500例以上の確定例が報告されている。英国人10万人当たりの年次発生率は1997-2000年は0.38人、2002年は0.64人、2006年は1.46人と増加している。
411	細菌感染	Transfusion 2007; 47: 1134-1142	アメリカ赤十字で2004年3月1日~2006年5月31日の期間に1,004,206例の供血で細菌培養検査が行われ、その内188例が陽性であった。関連するアフエーシス血小板293製剤のうち1件を除くすべての輸血が回避された。両腕法を用いて採取した場合の細菌培養陽性率は、片腕法と比較して有意に高かった。また、スクリーニング陰性の製剤に関係した敗血症性輸血反応が20例(うち死亡3例)報告されたが、両腕法を用いて採取した場合の頻度は片腕法と比較して4.7倍であった。
412	細菌感染	Vet Microbiol 2006; 118: 148-150	ペットのウサギのイヌに咬まれた傷からCapnocytophaga canimorsusが培養された。傷は治療が成功し、ウサギは回復した。ヒト以外の種におけるC. canimorsus感染の最初の報告である。
413	細菌感染	Wien Med Wochenschr 2007; 157: 398-401	種々の病棟から集められたバイアル96本中4本は無菌ではなかった。その内3本は保存剤を含有しているマルチドースバイアル(MDV)であった。保存剤を全くまたは適量含有していないシングルドースバイアルやアドミックスバイアル28本も複数回使用されていた。MDV68本中15本は初回投与後の使用期限を越えていた。
414	細菌感染	感染症学雑誌 2007; 81(Suppl): 153-154	北海道から九州の6病院において肺炎を有する6名の患者から得られた分離菌について、集落形態、培養・生化学的・分子遺伝学的性状並びにミコール酸のHPLCを調べた。4病院で分離された4菌株の酸化した小川培養菌細胞から抽出されたミコール酸のHPLC分析では米国CDCデータベースの既知HPLCパターンに一致するものはなく、新種と考えられた。検討した諸性状から、Runyon III群所属の1新抗酸菌種に属すると考えられた。
415	細菌感染	第56回日本感染症学会東日本地方総会 第54回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会(2007.10.26-27)	敗血症を発症した64歳男性の血液より、嫌気性のグラム陽性球菌~短桿菌が培養された。RNA塩基配列を決定し、Actinobaculum shaaliiと同定した。同定後、SBT/ABPCの投与を行い、患者は軽快退院した。日本で初めてのA. shaalii感染報告症例と思われる。血液培養で菌種不明の嫌気性グラム陽性菌が検出された場合、同菌である可能性がある。
416	細菌感染	第81回 日本感染症学会総会・学術講演会(2007年4月10-11日) W17-2	北海道から九州の6病院において肺炎を有する8名の患者のかっ痰または気管洗浄液から抗酸菌を分離し、分離菌の集落形態、培養・生化学的・分子遺伝学的性状並びにミコール酸のHPLCについて検討した。全ての分離菌は共通の集落形態、培養・生化学的性状を示した。分子遺伝学的にも高い相同性を示した。4つの分離菌由来のミコール酸HPLC分析の結果、米国CDCのLibrary databaseにはない新種の抗酸菌と考えられた。
417	細菌感染	日本細菌学雑誌 2007; 62(1)/第80回日本細菌学会総会	急性の増殖性腸症罹患豚の回腸粘膜より集菌した菌体を2種の細胞株(IEC-18およびHep-2)へ接種し、培養したところ、免疫相組織染色によりLawsonia intracellularisが初めて確認された。培養菌より抽出したゲノムDNAの塩基配列を解析した結果、培養菌由来の数種のPCR増幅断片の塩基配列は基準菌の配列とほぼ一致した。日本の分離株は、英国由来である基準株(NCTC12656)と近縁であることが示唆された。

No	感染症(PT)	出典	概要
418	重症急性呼吸器症候群	Transfusion 2006; 46: 1770-1777	血液由来製品を模した蛋白質溶液中の重症急性呼吸器症候群コロナウイルス(SARS-CoV)を不活性化する方法として、加熱、UV照射、オクタン酸、溶剤/界面活性剤(S/D)法を検討した。その結果、60°Cで15-30分間加熱および40分間UVC照射はSARS-CoVを不活性化した。UVA照射はソラーレン添加を必要とし、オクタン酸処理はSARS-CoVを不活性化できなかった。S/D処理は、SARS-CoV不活性化に、Triton X-100は2時間、Tween 80は4時間、石炭酸ナトリウムは24時間を要した。
419	人畜共通感染症	Vet Microbiol 2004; 104: 113-117	異なった地域のブタから収集された血清検体のうち66.2%(102/154)でブタTTウイルスDNAが検出された。ブタTTウイルス自体はブタで発現する疾患との関連は知られていないが、他の病原体と共感染した場合に疾患を増悪させる可能性は否定できない。ブタ臓器などを使用した異種移植の際のヒトへの影響が懸念される。
420	赤痢	CDC/MMWR 2006; 55(39): 1068-1071	2005年に米国Kansas、KentuckyおよびMissouri州は、デイクアセンターに関連した、多剤耐性(MDR) Shigella sonnei株が主に原因である細菌性赤痢症例の増加を報告した。KansasとMissouriからの分離株は同様のPFGEパターンを示したが、Kentuckyからの分離株は異なるPFGEパターンを示した。
421	旋毛虫症	Infection 2007; 35: 89-93	2001年にスロバキア南西部で起こった旋毛虫症について疫学的調査を行ったところ、感染した豚肉や燻製豚肉製品の摂取に関連しており、4家族が感染していた。感染した肉を食べた23名中11名の血清中に抗trichinella抗体が検出され、6名が臨床症状を呈した。Multiplex PCR分析によって、ブタ肉から分離された寄生虫の幼虫は同国では稀にしか発生しないTrichinella spiralisと同定された。
422	炭疽	ProMED-mail20061220.3572	ジンバブエMashonaland east地方Goromonziで炭疽により3名が死亡した。病気の動物の肉を食べたり、取り扱ったため感染したと思われる。その地域の全ての動物にワクチン接種が開始された。家畜や肉の移動が制限され、全ての屠殺場が閉鎖されている。
423	炭疽	ProMED-mail20070205.0453	オーストラリアVictoria州在住の34歳の屠畜場従業員が、炭疽菌に感染したウシの死骸を処理後、炭疽に感染して入院し、回復に向かっている。この州において10年間で初めてのヒト症例として、この男性は先週(2007年1月28日~2月3日)初めに皮膚炭疽と診断された。過去数週間にわたって、25頭のウシが州北部のStanhope地区の4農場で炭疽に罹患した。
424	炭疽	ProMED-mail20070206.0471	オーストラリア、北部Victoriaで、炭疽が極めて局地的に3カ所の酪農場と1カ所の畜牛場で確認されている。炭疽は2007年1月19日に発生した。ビクトリア州一次産業局(DPI)はその農場の家畜と生産品の移動を追跡し、感染した死骸を廃棄し、感染した農場と近隣の農場にワクチン接種を実施することにより、直ちに対応した。2007年2月3日以降、どの農場からも新たな症例は検出されていない。
425	炭疽	ProMED-mail20070219.0625	2007年2月4日の週に、ウシ2頭が炭疽で死亡した。この2頭は芽胞を含んだ飼料を食べた後発症した。2006年夏にはSaskatchewanにおいて家畜約800頭が死亡し、これまでで最悪の炭疽のアウトブレイクの記録であった。これらは放牧中に土中の炭疽芽胞を食べた後に死亡した。炭疽芽胞は何年も土中に残り、今年の夏も死亡例の増加が懸念される。
426	炭疽	ProMED-mail20070401.1111	カナダSaskatchewanにおい4施設で炭疽が確認された。全症例は炭疽の胞子で汚染された飼料に関連していたと考えられている。CFIAは今後3年間、流行地区で放牧される家畜に対してワクチン接種を推奨している。
427	炭疽	ProMED-mail20070412.1223	2007年4月9日、ギニア-ビザウにおける最近の炭疽のアウトブレイクで1名が死亡し、7名が感染したと同国の保健省が発表した。病獣の肉を食べたためと思われる。同地域ではウシ5頭で炭疽感染が報告されている。
428	炭疽	ProMED-mail20070414.1247 ProMED-mail20070417.1271 ProMED-mail20070420.1298	インドネシアEast Nusa Tenggara地方Sumba島で炭疽菌に汚染した牛肉を食べた後、8名が死亡し、他の6名が入院した。検査によりこれらの患者は炭疽菌陽性であることが確定した。この地域の家畜は全てワクチンを接種された。この地方では1994年以降約40名のヒトが炭疽で死亡し、1150頭以上のウシが感染している。

No	感染症(PT)	出典	概要
429	炭疽	ProMED-mail20070423.1327	オーストラリアVictoria州Goulburn Valleyで小規模な炭疽の流行が2007年1～2月に発生し、6週間で10農場の37頭のウシが死亡した。2007年2月23日以降、新たな症例は発生していない。2007年1月19日から乳牛で急死が報告され始めた。炭疽と確定するとすぐに、ビクトリア州の一次産業局(DPI)は直ちに隔離措置、死骸の焼却、近隣農場を含めてのワクチン接種を開始した。芽胞汚染を抑制するため、死亡現場はホルマリンで消毒された。
430	炭疽	ProMED-mail20070426.1363	2007年4月24日、米国South Dakota州のウシの群れで炭疽が検出された。この群は2年前に炭疽を経験している。この春約50頭の群れのうち、2頭が死亡した。この群には直ちに抗生物質による治療、ワクチン接種、および畜産委員会の監督下での死骸の処分が行われることとなった。炭疽芽胞は汚染された土壌中でいつまでも生き延びる。干ばつ、洪水及び風などの著しい気候の変化は、牧草を摂取する家畜を炭疽芽胞に曝露させることがある。
431	炭疽	ProMED-mail20070426.1363	米国South Dakota州 Brown郡で約50頭のウシの群れにおいて炭疽が2007年4月24日に確認された。2年前に同じ群れでアウトブレイクが発生していた。土中に炭疽胞子が生存しており、干ばつ、洪水、強風により放牧中の家畜が胞子に曝露する可能性がある。
432	炭疽	ProMED-mail20070518.1586	ロシアStavropolのKursk地区で炭疽のアウトブレイクが報告されている。当局の発表によると、Avalovo村の住民1名が病気の雄の子牛を畑で屠殺した後、炭疽の症状で入院し、2007年5月12日に死亡した。この肉を購入したヒトを追跡中である。
433	炭疽	ProMED-mail20070519.1590	アルゼンチンでは2006年に29の炭疽アウトブレイクがウシで起こり、ヒト皮膚炭疽症例が計9例(内3例はBuenos Aires地方)であった。1997年以降、年間発生率は減少しつつある。
434	炭疽	ProMED-mail20070608.1877	2007年6月5日付けCBC Newsによると、カナダManitobaのウシが今年初めて炭疽により死亡した。この農場では昨年の夏にも炭疽が発生した。
435	炭疽	ProMED-mail20070614.1946	Canadian Food Inspection Agency (CFIA)は、2007年5月下旬にSaskatchewan・Lloydminster近辺の農場でウシ1頭が炭疽により死亡したことを2007年6月11日に確認した。
436	炭疽	ProMED-mail20070707.2170	2007年7月5日、米国Minnesota州の動物保健局は、Marshall Countyにおいて先週牧草地で死亡しているのを発見されたウシ1頭は、炭疽で死亡したと確認され、2007年で初めての症例となったと報告した。
437	炭疽	ProMED-mail20070713.2246	米国テキサス州San Angelo Areaにおけるウシおよびシカの大量死亡に関して、2007年7月13日に、動物の剖検検体で炭疽陽性が培養で確認された。
438	炭疽	ProMED-mail20070727.2427	米国South Dakotaにおいて2007年2件目の家畜(ウシ)における炭疽が確認された。2007年7月24日、Kimballの南西で放牧されている100頭のウシの群れにおいて炭疽が確認され、11頭が死亡した。この群れは以前に炭疽に対するワクチン接種を受けていなかった。
439	炭疽	ProMED-mail20070730.2445	アルゼンチンAzul郡で2007年7月24日に妊娠した雌ヒツジ1頭が死亡しているのが発見され、検査キットおよび培養で炭疽陽性であった。

No	感染症(PT)	出典	概要
440	炭疽	ProMED-mail20070731.2459	米国North Dakota州Trailのウシ1頭が、同州で今年初めての炭疽陽性と確認された。同じ群れの動物は隔離され、ワクチン接種された。
441	炭疽	ProMED-mail20070808.2575	カナダManitobaのInterlakeにおいて、炭疽のアウトブレイクによりウシ49頭、ヤギ2頭、ウマ1頭が死亡した。ヤギ2頭、ウマ1頭は感染胞子の摂取により死亡した。
442	炭疽	ProMED-mail20070820.2717	キルギスタンでは近年ヒト炭疽症例が増加している。2006年は17例が登録されたが、2007年8月10日までに、既に12例が登録されている。2007年8月13日に入院したOsh州Uzgen地区の43歳男性はトキシックショック症候群を呈し、左前腕のカルブネル症と診断されたが、死亡した。予備的な検査結果は炭疽陽性であった。疫学的調査の結果、この患者は炭疽で死亡した疑いのあるウシの解体を行ったことが明らかとなった。肉を食べた人も入院となった。
443	炭疽	ProMED-mail20070823.2758	2007年8月22日現在、カナダManitobaのInterlakeにおいて炭疽陽性であった農場数は22である。これらのアウトブレイクの発生日は2007年7月11日～8月12日である。
444	炭疽	ProMED-mail20070828.2823	米国Montana北東部のSheridan Countyにおいて、先週(2007年8月20～24日)、ウシ計8頭が炭疽により死亡した。
445	炭疽	ProMED-mail20071001.3246	アルゼンチンで、トウモロコシの切り株のある場所で放牧されていた300頭のウシの群れに炭疽のアウトブレイクが発生した。干ばつ後の降雨の後に突然5頭が死亡した。この農場では5年前にも炭疽が流行した。
446	炭疽	ProMED-mail20071004.3287	アルゼンチンBuenos Aires州で炭疽のアウトブレイクが確認された。アウトブレイクが確認された農場はPartido de La Madridにあり、これまでに動物2頭が突然死亡した。この農場では2004年にも炭疽が発生した。
447	伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2007; 92: 121-124	ハプトグロビンおよび抗トロンビンの2つの異なる調整液にヒトパルボウイルスB19を加え、60°Cで10時間処理した。異なる溶液中のB19は加熱中異なる熱感受性パターンを示し、ハプトグロビン調整液中では緩やかな不活性化、抗トロンビン調整液中では限定的な不活性化であった。異なる調整液を用いた以前の研究ではB19は迅速に不活性化され、今回の不活性化の動力学とは大きく異なった。B19の熱感受性は溶液組成に大きく依存する。
448	日本脳炎	Epidemiol Infect 2007; 135: 974-977	2004年11月から2005年2月にかけて、日本の西部に位置する広島県の野生イノシシから血清25検体を採取した。日本脳炎ウイルス(JEV)に対する抗体検査を、IgMキャプチャー及びIgG酵素免疫測定法(ELISA)、並びにプラーク減少中和試験により行った。17検体(68%)がJEV中和抗体陽性だった。中和抗体陽性検体は全てIgG-ELISA陽性だった。1検体はIgMも陽性だった。約70%の野生イノシシが抗JEV抗体陽性であることが示され、この地域のJEV感染サイクルに関与している可能性が提示された。
449	日本脳炎	日本ウイルス学会第54回学術集会(2006年11月19-21日)	2005年に富山県内で捕集した蚊683プール(10061個体)および2005年に採取したブタ血清173検体からウイルスを分離した。蚊プールからはウエストナイルウイルスは検出されなかった。日本脳炎ウイルスは、豚舎付近と牛舎付近のコガタアカイエカ11プールと、ブタ血清2検体より分離され、いずれも型であった。富山県ではこれまでのところウエストナイルウイルスの侵入はなく、また、現在もコガタアカイエカ(媒介者)とブタ(増幅動物)の関係が保たれていることが示唆された。
450	梅毒	CCDR 2007; 33(6): 61-67	カナダAlberta州Edmontonでは2003年に感染性梅毒が大幅に増加し、27例が報告された。2004年は52例、2005年は106例、2006年の1～3月は36例と症例数が増加している。四半期毎に解析したところ、疫学曲線は2003年中および2004年上半年に小規模の初期アウトブレイクが認められ、2004年の第3四半期初頭からは症例数の大幅な増加を伴う第2期アウトブレイクが今日まで継続中である。土着民女性の感染率は白人女性より20倍以上高かった。2005年には先天性梅毒の新生児5例が出生した。

No	感染症(PT)	出典	概要
451	梅毒	Public Health Agency of Canada/Infectious Diseases News Brief 2007年1月19日	中国は1960～1980年の20年間に梅毒を減少させることができたが、中国社会の本質的な変化により、性伝染病が再び流行している。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天性梅毒の発生率は、1991年は100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。
452	麻疹	asahi.com 2007年4月18日	東京都や埼玉県など関東地方でははしかが流行していることが、国立感染症研究所感染症情報センターがまとめた定点調査でわかった。例年より流行は早く、人の移動が活発になる連休に向けてさらに広がるのが予想されるとして、同センターは緊急情報を出して注意を呼びかけている。同センターによると、例年、はしかの発症は乳幼児に多いが、今年の流行は10代前半や大人に多いのが特徴という。
453	野兔病	http://www.abqtrib.com/news/2007/jun/20/university-new-mexicoexperts-warning-rashrodents/	米国ニューメキシコ州において、ウサギを含むげっ歯類が急増したため、げっ歯類を宿主とする疫病の危険性が上昇している。野兔病の感染拡大がウサギの大量死に繋がっている。さらにSanta FeやBernalilloを含むいくつかの郡でウサギの死亡があり、7つの郡でイヌやネコにおいて野兔病の陽性反応が確認された。
454	野兔病	Star-Tribune 2006年10月31日	米国Wyoming周辺で野兔病のアウトブレイクが数件あり、州保健当局はハンターとリクリエーションに注意を喚起した。Wyomingでは今年2人が野兔病に感染した。1例はネコに手を噛まれた女性である。ネコは病気のウサギを噛んで感染したと思われる。
455	野兔病	Yahoo!ニュース 2008年3月4日、千葉県健康福祉部疾病対策課 感染症発生情報 平成20年3月4日	2008年1月30日、千葉県で74歳男性が野ウサギ食べようと調理したところ、2月7日頃から発熱した。2月29日に医療機関から野兔病の発症例として地元保健所に報告された。患者は既に回復している。また、野ウサギを提供した知人および患者家族の健康に異常はない。国立感染症研究所によると、野兔病は1994年までに1372例の患者が報告されていたが、その後減少し、1999年の千葉県での1例以降報告されていない。

医薬品等の回収報告の状況について

平成8年の薬事法改正により、医薬品、医薬部外品、化粧品若しくは医療用具の製造業者、輸入販売業者等は、その製造し、若しくは輸入等した医薬品等の回収に着手したときは、その旨を厚生労働大臣（又は都道府県知事）に報告しなければならないこととなった。（薬事法第77条の4の3）

また、平成12年には、「医薬品・医療用具等の回収に関する研究（平成11年度厚生科学研究）の報告書を受けて、医薬品等の回収に関する監視指導要領を通知（平成12年医薬発第237号）し、回収に当たっての基本的な考え方や対象範囲、手続の詳細等について明確化を図るとともに、製造業者等から回収着手報告がなされた場合には、すべての事例をインターネット上で公開することとした。

※なお、平成17年4月に施行された改正薬事法により、製造業及び輸入販売業から製造販売業へと業態が変更され、製造販売業者等に回収の報告義務が課せられた。また、医療用具は医療機器へと名称が変更された。

本件は、薬事法第77条の4の4の規定に基づき、薬事・食品衛生審議会への報告を行うものである。

1. 回収件数年次推移

	平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	平成18年度	平成19年度
	計	製 輸 造 入	計	製 輸 造 入	計	製 輸 造 入	計	製 輸 造 入	計	製 輸 造 入			
医薬品	119	86 33	134	98 36	402	374 28	255	224 31	199	172 27	416	184	162
医療機器	207	76 131	244	101 143	308	131 177	292	126 166	370	195 175	322	365	360
医薬部外品	14	13 1	14	12 2	12	10 2	24	20 4	15	14 1	9	23	28
化粧品	35	16 19	34	10 24	52	23 29	72	42 30	60	28 32	62	103	100
計	375	191 184	426	221 205	774	538 236	643	412 231	644	409 235	809	675	650

2. 平成19年度医療機器等の回収件数及びクラス分類

	クラスⅠ	クラスⅡ	クラスⅢ	総計
医薬品	41 ^{*1}	79	41	162 ^{*2}
医療機器	7	281	72	360
医薬部外品	0	12	16	28
化粧品	0	44	56	100
計	48	416	185	650 ^{*2}

クラスⅠ… クラスⅠとは、その製品の使用等が、重篤な健康被害又は死亡の原因となり得る状況をいう。

クラスⅡ… クラスⅡとは、その製品の使用等が、一時的な若しくは医学的に治癒可能な健康被害の原因となる可能性があるか又は重篤な健康被害のおそれはまず考えられない状況をいう。

クラスⅢ… クラスⅢとは、その製品の使用等が、健康被害の原因となるとはまず考えられない状況をいう。

*1… 医薬品のクラスⅠ回収41件は、全てロットを構成しない医薬品であって同種他製品に不良が及ばず、かつ、当該医薬品が使用されないことが確実なもの（血液製剤の献血後情報等に基づく投与前の事前回収）。

*2… 平成19年4月23日付け薬食発第0423004号医薬食品局長通知「信越化学工業株式会社直江津工場の爆発火災事故による一部の医薬品添加物の出荷停止に対応するための緊急措置について」に基づく代替品の回収1件を含む。